

大学教育研究開発センター年報

第 6 号



平成14年 3 月

茨 城 大 学
大学教育研究開発センター

表紙中央の図案は、茨城大学の校章であるノイバラ(*Rose multiflora*)の若芽をイメージして、教育学部の島田裕之先生にデザインしていただいた大学教育研究開発センターのロゴマークです。センターの刊行物(ニュースレター等)で使用的是います。

目 次

巻 頭 言	田切 美智雄 (大学教育研究開発センター長)	1
教養教育に関する論文・研究ノート		
○大学の教育・研究と管理運営	深谷 信夫 (人文学部)	3
○高等教育大衆化時代の学生の導き方	小林 正典 (工 学 部)	13
○自律的学習の観点からの授業分析 ―「日本語ⅠB」(研究発表)―	石橋 玲子・八若 壽美子 (留学生センター)	21
教養教育に関する授業の点検・評価報告		
○総合科目における点検評価と授業開発の試み	松井 宗彦 (教育学部)	31
ニュースレター「ローザ・プルムラ」の軌跡：No.1～No.7		41
平成13年度大学教育研究開発センター活動内容		
大学教育研究開発センター活動の経過		107
大学教育研究開発センター関係委員名簿		110

巻 頭 言

2年目（最終年）になって、ようやくその本来の役目が少しわかったような気がします。（その意味で、センター長の2年任期は不適切な気もします。）大学高等教育の問題は極めて根が深く、しかも片手間ではとてもやれない代物であることが、改めて実感されます。昨年（平成13年）11月に広島大学高等教育研究開発センターで行われた集会に参加しました。このセンターは日本でも有数の高等教育に関する研究調査と政策提言を行っている組織です。そこで議論されていたのは、日頃茨城大学大学教育研究開発センターで議論していることとは、全く異なる次元のものでした。その議論のいくつかをこの場を借りて紹介しましょう。

1) IS氏：大学は個性を問われたことによって理念と規範を失った。大学が学校化することを危惧する。日本の大学は象牙の塔だとするのは誤りであり、欠けているのはむしろ自由と孤独の伝統である。長期的には大学の存続は保証されない。「知の共同体」としての大学から「知の企業体」へ変質する。Megacompetitionによって日本の大学は消滅する。

これは私たちが普段耳にすることとは、全く異なった議論ではありますが、極めて今日的に大学の将来を見据えていて、独法化を超越した現実味があります。

2) KK氏：「公設民営」や「公私協力」方式など大学設置の多様化が進行する。設置者管理主義や設置者負担主義の責任の在り方を変えなければならない。歴史の教訓として、大学による自主的改革は大学自治制に根ざした構造上無理な改革であり、挫折と失敗を繰り返してきた。しかし、基盤の変動は変革のチャンスである。現在考えているような変革とは本質的に異なる変革が来るのではないか。積極的な戦いをしないと大学は死ぬ。高等教育の目的は、「学問の発見」、「学問の統合」、「学問の応用」、「学問の教育」である。教育は理解の最高形態である。

この議論は、現実の正確な認識に基づいており、恐ろしいくらいではありますが、高等教育に対するその粘り強さと使命感には共感させられます。

このように、国立大学においてさえも高等教育の危急的存亡が現実味を帯びているなかで、いかに高等教育を情熱を持って実行するかが、組織を問わず、危機感を持って議論されています。「教育とは」と問わずとも、それぞれの教員の情熱と根気が、高等教育を救ってくれるのだと思っています。

この報告書をもって、平成13年度の大学教育研究開発センターの活動を総括いたします。教養教育担当の教員だけでなく、多くの茨城大学教員からのご批判とご意見を賜り、今後の教育に生かしていきたいと思いをします。

平成14年3月

大学教育研究開発センター長

田 切 美智雄

教養教育に関する論文・研究ノート

イニ入談問・文飾るを関ひ有燈資対

大学の教育・研究と管理運営

深谷 信夫 (人文部)

Nobuo FUKAYA
(Faculty of Humanities)

はじめに

これは、拙稿「大学における教育と研究は両立するのか」(本年報第4号<2000年>)の続編である。とはいえ、2000年当時、続編を予定していたわけではない。今日の事態を予想していたわけではない。

つまり、一つは、非公務員型による独立行政法人化が(その政策的な萌芽は存在したが)、国立大学の設置形態の変更が、現実化するとは予想していなかった。

もう一つ、予想を超える事態が進行した。茨城大学の将来構想として、学群・学系制度を採用するという問題である。学群・学系構想とは、1970年代を前後する時期いわゆる中教審による新構想大学の制度内容として採用されたものである。当時の東京教育大学を解体し、筑波大学を設置するという荒療治の法制度的な裏付けが、学校教育法と国立学校設置法の改定による学群・学系制度の導入であった。多くの大学人は、この構想に反対した。その制度構想を、自らが所属する大学が将来構想として採用するというのである。

こうした状況の展開のなかで、前稿「大学における教育と研究は両立するのか」(本年報第4号<2000年>)で提起した論点を、大学改革論(大学の管理運営問題)との関連で、とくに制度論的な視点から再論してみたいと思ったのである。

1 大学における教育と研究の関連

茨城大学に赴任しての13年の生活と経験が、拙稿「大学における教育と研究は両立するのか」(本年報第4号<2000年>)を書かせた。そこでこの問題意識と問題提起は、その後の二年間の生活と経験のなかから、さらに強くなった。

もう一度、私の問題意識と問題提起を確認させていただきたい。伝えたかったことは、学生になにをどう

教えるのか、そのことを真剣に考えよう、ということであった。そのことを主張するために、いくつかの問題を指摘した。行論との関係で、最低限度の確認をさせていただく。

1.1 学生の現状の深刻さ

第一は、大学教育問題の重要性を学生の現状から提起した。すなわち、

「“分数ができない大学生”。理系に進学する学生の基礎学力のなさを象徴する事例として、喧伝されている。しかし、それは、大学が教育の対象とする新入生の<学力・能力・資質>問題の一部でしかない。私が大学教育の問題と思う事柄を列記していくと、第一に、必要な基礎的な知識が教えられていない問題、第二に、考える力が形成されていない(いや逆に、奪われてきた)問題、第三に、人間関係が豊富化されるのではなく切断・分断されている問題、第四に、モラルとか価値観とかの個々人の生きる力(理念・思想)が形成されない問題、という四つの問題が存在するといえよう。」(拙稿・前掲論文37頁)と。

これらについて、いくつかの事例をあげて、問題の検討を提起した。

1.2 教育問題の緊急性

第二は、研究と教育の時間的な落差について提起した。すなわち、

「大学人の多くは、学問研究の視点から、研究は・学問は・真理への探究は、一朝一夕でなるものではない、という。大学人の多くは、大学問題が問題化するとき、つねにこうした返答をしてきた。社会が・世論が、大学の教員はなにを・どのように学生たちに教えてくれるのですか、という問いかけをした場合でも、

答え方は同じである。しかし、それでは、すり替えてある。答えになっていない。

研究は、悠久な作業である。問題を発見し、その問題に対する認識水準を確認し、課題を設定し、実証・論証の作業をすすめ、一定の結論が見えたところで、記述するという執筆の作業に入る。このプロセスを、組立ラインで一台の車を組み立てるように、時間で予め区切ることとはできない。雑誌論文のように締切日を設定できるのは、最後の執筆という作業の段階にある場合である。いずれにせよ、真の意味での研究というのは、時間決めでできるものではない。

だが、一人の学生に対する教育の時間は、無限ではない。限られた時間のなかで、なにを・どのように教えるのか、ということが問われている。4年間を単位として、最善の教育をいかにしたら提供することができるのか、という問題なのである。」と（同前42頁）。

1.3 教育と研究の本質論と機能論

第三は、教育と研究の関係をめぐる理論問題を提起した。研究と教育の本質的同一性と現象的背反性という視角を提起した。すなわち、

「研究と教育の本質的同一性と現象的背反性という問題をふまえておかなければならない。ありていに言えば、前者、本質的同一性とは、＜教えるとは学ぶこと＞という表現に象徴される認識である。後者、現象的背反性とは、少ない時間を、教育のために使うのか、研究のために使うのか、ということである。

この二つの視点の違いは、極論をすれば、教育公務員である大学教員は、教育を優先するか、研究を優先するかという違いとなる。二者択一が現実には迫られることになる。その選択を迫られたとき、教育を選択しなければならないのではないのだろうか。両立を求めることが、最善の道であるし、そのために最大限の努力をすべきであると思うが。

繰り返すが、学生の現状から求められていることと、社会が大学教員に求めていることとは、＜大学教育＞の問題である。そうすると、この要求に応えるのに、学問論や、教育と研究の本質的同一性論というレベルで、答えを書いているのは不十分である。こういう質と内容をもった大学教育を実現するためには、こういう

教育条件と研究条件が必要である、と教育の視点から、問題を説き起こしていくことが必要であろう。」と（同前42頁）。

1.4 教育の自由か教育の義務か

第四は、国家との関係でものを見るのか、国民・学生との関係でものを見るのか、という視点から、教育の自由論と教育の義務論とを提起した。すなわち、

「国家との関係でみれば、教育は自由である、という点が確認されなければならない。しかし、学生・国民との関係でみれば、教育は義務である、ということも認識する必要がある。

どうも、国家との関係での問題側面のみが注目され過ぎたのではないか。その問題側面では、学問の自由論と同様の文脈から、教育の自由という理念が照らし出される。そして、教育の自由論からは、教育にはいっさいの権力は干渉するな、ということが要請される。

だが、国民のための大学論の観点からは、教育をめぐもう一つの側面が提起されることになる。国民の＜豊かな生活＞（物質的なそれのみではもちろんない）をささえる学問と研究の場としての大学、豊かな知識と専門的な能力を持ち、自律できる生きる力を持った学生を社会に輩出することのできる大学、などが国民のための大学であろう。もとより、その大学で働き生活する教職員の自由と権利、必要な労働条件（もとより研究条件もふくめてだが）が確保されていることは必須のことからである。

この国民のための大学論からは、教育の義務論が提起されることになる。とりわけて大学教員に、教育の義務が課せられている、という認識が確認されなければならない。この認識が前提にならないと、研究至上主義になり、つねに教育は第二次的要素になる。

いずれにしても、私たちが、大学教育のために、いまなにをしなければならないのかを考えなければならない。結論的にいえば、＜教育は義務である＞という視点から、問題を析出し、課題を設定する、という協同の作業が意識的に追求されてこなかった・追求されようとしていない、と私は感じている。」と（同前42頁）。

1.5 大学・学問論の根本的な課題性

第五は、以上を総括して、従来の大学・学問論の課題性について提起した。すなわち、

「従来自明のこととして主張されてきた諸命題が再吟味されなければならないであろう。学問の自由と、研究の自由と、教育の自由と。これらの命題の理論的な射程を、国家・国民・学生という多層的な関係のなかで整序していかなければならない。ここでまた結論的に確認しておきたいことは、これまでの多くの大学論において、学問の自由や研究の自由や教育の自由という問題への理論的アプローチの視点は、国家や社会的な権力との関係という問題側面に据えられていた。その限りでは正しかった、と私も思う。しかし、問題を、国家や社会的な権力との関係にのみ限定することはできないのである。問題を、国民と学生との関係からも考察していかなければならないのである。

繰り返すが、私が強調したいことは、大学教育の客体であり主体である学生との関係では、教員（もちろん職員も）は、＜教育の自由＞という視点からではなく、＜教育の義務＞という視点から、現状を分析し、問題を析出し、課題を実践していかななくてはならない、ということである。」と（同前43頁）。

1.6 小括

この2年間に、茨城大学においても、教養教育の在り方について、さまざまな検討が進められ、いくつかの改革案が提出され、実行されてきている。しかし、それらの改革案と、以上に要約した私の現状認識、問題意識、課題設定とは、根本において異なっているといえる。企業社会日本の成熟と衰退のなかで、その歪みのなかで、教育を受け、生活をしてきた学生の現実から出発するのかどうかの違いであるように思われる。ぜひ、拙稿「大学における教育と研究は両立するのか」（本年報4号、2000年）の全体を参照していただきたい。

さて、冒頭で述べたように、2年前に拙稿を執筆したときは、茨城大学の改革構想に学群・学系制度が浮上するとは予想すらしていなかった。

しかし、以上に紹介した私の問題意識からすると、教育制度と研究制度を機能的に分離するという限りに

において、学群・学系制度は評価できる、という結論となる。なぜ、「限りににおいて」と留保するのか。その説明のためには、学群・学系制度の現行法制度上の位置を確認し、将来における国立大学法人のもとにおける大学像との関係を検討することが必要である。

2 現行法における学群・学系制度

東京教育大学の筑波研究学園都市への移転を契機として、これを解体・廃校し、新構想大学として筑波大学を設置するという政府の大学政策に対しては、東京教育大学のみならず、全国の大学関係者が反対を表明し、全国的な反対運動も組織された。その頂点は、1973年7月19日、日教組が組織した筑波大学法案反対の全国統一ストライキであった。36大学2高専の組合が、早朝2時間ストライキに参加した。しかし、自民党は、同年9月25日、参議院本会議でも単独採決を強行して、筑波大学法案（以下に紹介する法案改正を内容とするもの）を成立させた（『日教組30年史』参照。）。

こうした歴史的経過も重要であるが、ここでは、なぜ特殊な学群・学系制度という特殊な学内制度を中核とする国立筑波大学が存在するのか、その法制度上の根拠を確認していくことに限定する。教育制度の理念と原理・原則、そして制度枠組みは、憲法と教育基本法、そして、学校教育法と国立学校設置法、私立学校法などの法律によって規定されている。学群・学系制度にかかわっては、国立学校設置法と、その上位の法律である学校教育法が中心的な役割を果たしている。

2.1 現行法制度における学群・学系制度

(1) 学校教育法

まず、学校教育法であるが、その第3条は、「大学には、学部をおくことを常例とする。ただし、当該大学の教育研究上の目的を達成するため有益かつ適切である場合においては、学部以外の教育研究上の基本となる組織を置くことができる。」と規定する。このただし書を規定することが、学部とは異なる学群・学系制度を導入する法制度上の根拠を提供したのである。

歴史的には、制定当初の条文は、「大学には、数個の学部を置くことを常例とする。但し、特別の必要がある場合においては、単に一個の学部を置くものを大学

とするすることができる。」と規定されていた。つまり、総合大学が大学の普通のかたちとされ、特別の必要がある場合には単科大学も認めるということである。

しかし、大学教育に対する多様な要請と単科大学の実態にかんがみ、学部の数については、特に原則、例外の別を設けないこととするという趣旨と、なおかつ、学群・学系という筑波方式を、法制度のなかに取り込むために、現在のような条文へと改定された（昭和48.9.29 法一〇三により改定）。

(2) 国立学校設置法等

国立大学の制度を決定する上位の法律である学校教育法第53条の改定を前提に、国立大学の制度について規定する国立学校設置法に、「第2章の2 筑波大学の組織」という規定が新設された。重要な条文であり、短い条文であるので、以下に引用しておく（なお、引用は現行法令である）。

①国立学校設置法

第2章の2 筑波大学の組織

(学群、学系及び学類)

第7条の10 筑波大学に、学校教育法第53条ただし書に定める組織として学群及び学系を置く。

2 前項の学群は、教育上の目的に応じて組織するものとし、その種類は、政令で定める。

3 第1項の学群で政令で定めるものに、文部科学省令で定めるところにより、それぞれ数個の学類を置く。

4 第1項の学系は、研究上の目的に応じ、かつ、教育上の必要性を考慮して組織するものとし、その種類その他必要な事項は、文部科学省令で定める。

(評議会及び教授会の特例)

第7条の11（この第7条の11は、第7条の3及び第7条の4の規定の筑波大学への適用に関するいわゆるよみかえ規定である。そのままでは、規定内容を理解することは不可能であるので、省略する。実質的内容は、第7条の3（評議会）の「国立大学に評議会を置く」という条文中の「学部」という文言を、第7条の4（教授会）の「国立大学の組織に教

授会を置く」という条文中の「学部」という文言を、それぞれに応じて、学群、学系及び学類とよみかえるということ、よみかえ規定に基づいて再構成した条文を掲げる。なお、ここで、第7条の3の評議会の権限事項を定める5項のうち、「五 教員人事の方針に関する事項」は適用除外とされていることである。その結果が、第7条の12の（人事委員会）を新設する根拠となっている。）

(人事委員会)

第7条の12 筑波大学に人事委員会を置く。

2 人事委員会は、副学長及び評議会が定めるところにより選出される教員で組織する。

3 人事委員会は、教員人事の方針に関する事項について審議し、及び教育公務員特例法の規定によりその権限に属させられた事項を行なう。

②学群・学系の設置手続き

こうした学群・学系の設置については、国立学校設置法の国会における法律改正が必要となる。すなわち、「(前略)(3)学部以外の教育研究上の基本となる組織を置く場合の当該組織に関する法令上の取扱いについては、別段の定めのない限り、法令に『学部』と規定されている場合（学校教育法、私立学校法、弁護士法等）には、これに含まれるものである。(学校教育法内87条の2)、(4)学部以外の教育研究上の基本となる組織を設置する場合には、学部の場合と同様、公・私立大学にあつては文部大臣の認可を受け（学校教育法第4条）、国立大学にあつては、国立学校設置法にその組織について所要の規定を設ける必要がある。」（国立学校設置法等の一部を改正する法律の施行について（昭和48.10.5 文大大四三四号））ことが確認されている。

③国立学校設置法施行令等

最終的に、国立学校設置法施行令第4条（筑波大学に置く学群の種類等）は、第一学群、第二学群、第三学群、医学専門学群、体育専門学群及び芸術専門学群という六つの学群を設置することを規定する。

そして、国立学校設置法施行規則は、第一章に「第三節の三 筑波大学の内部組織等」という項目を設け、第20条の14で学群を構成する13の学類を規定し、第20

条の16では、26の学系の設置を規定する。

なお、同施行規則第20条の17は、筑波大学に教授会としての「教員会議」を置くこと、学群教員会議と学類教員会議を置くことを規定し、同第20条の18は、大学の運営改善のための「企画調査室」を置くことを規定する。

③ 法律改正の提案理由

筑波大学法案をめぐる中心的な争点は、教育機能と研究機能を分離することが大学の理念に背くことにならないのか、教授会とは異なる教員会議という教員組織に変更することが大学の自治を否定することにならないのか、にあった。

これらの点について、筑波大学の創設を定めた国立学校設置法改正の提案理由説明は、次のようにいう。

「この大学の特色の第一の点は、従来の大学に見られる学部、学科制をとらず、学群、学系という新しい教育、研究組織を取り入れていることであります。すなわち、学群は学生の教育指導上の組織として編成され、広い分野にわたって、学生自身の希望に基づく選択のなかで将来の発展の基礎を培うことができるように配慮されているものであり、それぞれ幅の広い教育領域を擁する第一学群、第二学群および第三学群ならびに医学、体育および芸術の各専門学群を置くことといたしております。同時にこれらの学群の教育にあたる教員の研究上の組織として、学術の専門分野に応じて編成する学系を置き、研究上の要請に充分対処しうる条件を整備することといたしております。」

また、この法改正は、以下のように解釈されている。すなわち、

「大学は、『学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究』（法52条）することを目的とするものであるから、専ら教育のみを行ったり、または専ら研究のみを行うものを大学とすることはできない。しかしながら、このことは、大学の内部組織について教育と研究のための組織が常に一体でなければならないということではない。従来、大学では、教育は教員の研究の成果を教授することにほかならないということから、特定分野の教育と研究を一体となっていく学部、学科、講座制が大学の中心的な組

織とされてきた。しかし、最近における学術研究の専門分化や大学教育に寄せられる社会の多様な要請に応えるためには、大学の研究機能と教育機能を一応分離して組織の再編成をはかる必要が指摘され、筑波大学のような場合も、そのための試みの一つといえることができるであろう。大学の内部組織において研究と教育との機能を分離したとしても、大学が全体として教育研究を総合的に行う体制が整えられるならば、大学の理念に背くということにはならないものと思われる。」

（鈴木勲編著『逐条学校教育法・第2次改訂版』＜1986年、学陽書房＞411頁）と。

④ 小 括

ここで、採用された学群・学系の法律制度について、いくつかの内容を確認しておこう。

第一に、教授会の機能と役割を前提としていたことである。教授会を教員会議にかえることができるという点があったとはいえ、大学における教授会の存在が否定しえない制度的な前提であった。

第二に、学群と学系という教育と研究の分離において、学群という教育組織が優位にあったということである。当時（そして現在はおおのこであるが）、大学院大学化という制度構想との関連において、一般の大学における教育優先という発想が法律の規定形式にも現れていた。

2.2 実態としての学群・学系制度

さて、それでは、学群・学系制度をもとに構成された筑波大学の運営の実際はどのようなものなのであろうか。6の学群とそれを構成する13の学類、そして26の学系という広大多層的な組織構成である。これらすべての組織運営の実態を明らかにすることはできないが、公表されているデータと聞き取り（研究集会「学群・学系方式の現状と問題点」茨城大学教職員組合主催＜2002.3.6＞における筑波大学教員の報告）のなかから明らかになったいくつかの事実を指摘しておこう（筑波大学のホームページに公表されているものもふくめて、いくつかの資料を掲載する）。

第一に、法制度上は学群が優位であると指摘したが、実際は学系が優位にあるということである。学系が核

筑波大学の特色：研究と教育，分離と対応

筑波大学では，研究と教育を分離し，教員は研究者として学系に属するとともに，大学院や学群・学類（学部に対応）の授業を担当します。また，各センターの業務に専念する場合もあります。本学の大学院には，博士課程（5年制）と修士課程（2年制）が並立しているところが異色です。

各学系，教育組織へのリンクは画面上部にあるメニューバーのINDEXで御利用になれます。

学 系

学系は，学問の研究領域に応じて26学系が設置され，狭い専門領域を単位とせずに，少なくとも互いに研究領域が隣接し，専門的なコミュニケーションが可能である範囲ごとに組織されています。

博士課程（20研究科＋3大新研究科）

高度の研究修練により独創的な研究能力を備えた将来豊かな研究者，又はその他の高度の専門的な業務に従事する者の養成を目的に，5年一貫の充実した研究指導が行われています。2000年度より再改編が始まり，現在までに3大新研究科が発足しています。

また，東京大塚地区には，有職者を対象にした夜間の大学院が置かれており，教育研究科（修士課程）と経営・政策科学研究科（博士課程一後期3年）が設けられています。なお，同研究科の経営・政策科学専攻はつくば地区の修士課程です。

修士課程（9研究科）

高度の専門性を備えた職業人を養成するとともに，社会人の再教育の機会を提供する2年の課程で，通常の専門分野の区分にとらわれない学際的な教育課程を編成しています。

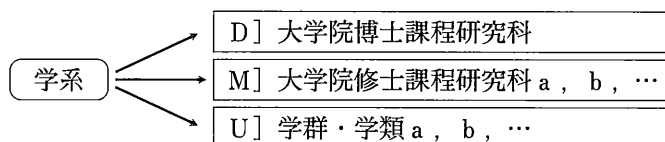
学群・学類

学学位階の学生の教育を行う組織として「学群・学類」を置き，学群は中心となる専門領域を基礎としつつ，広い視野のもとに幾つかの学問分野を総合した形で構成し，教育上の視点から，将来の発展の基礎を培うことができるよう配慮しています。

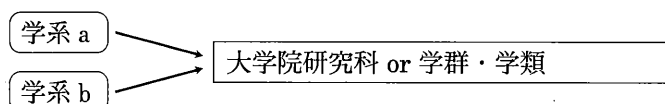
第一，第二，第三学群には，学生の教育に基礎的な責任を持つ組織として幾つかの学類を置き，医学，体育，芸術専門学群には，その性格上特別な能力ないし資格などが必要とされるため，学類を設けず専門学群として計画的な一貫教育を行っています。

対応モデル

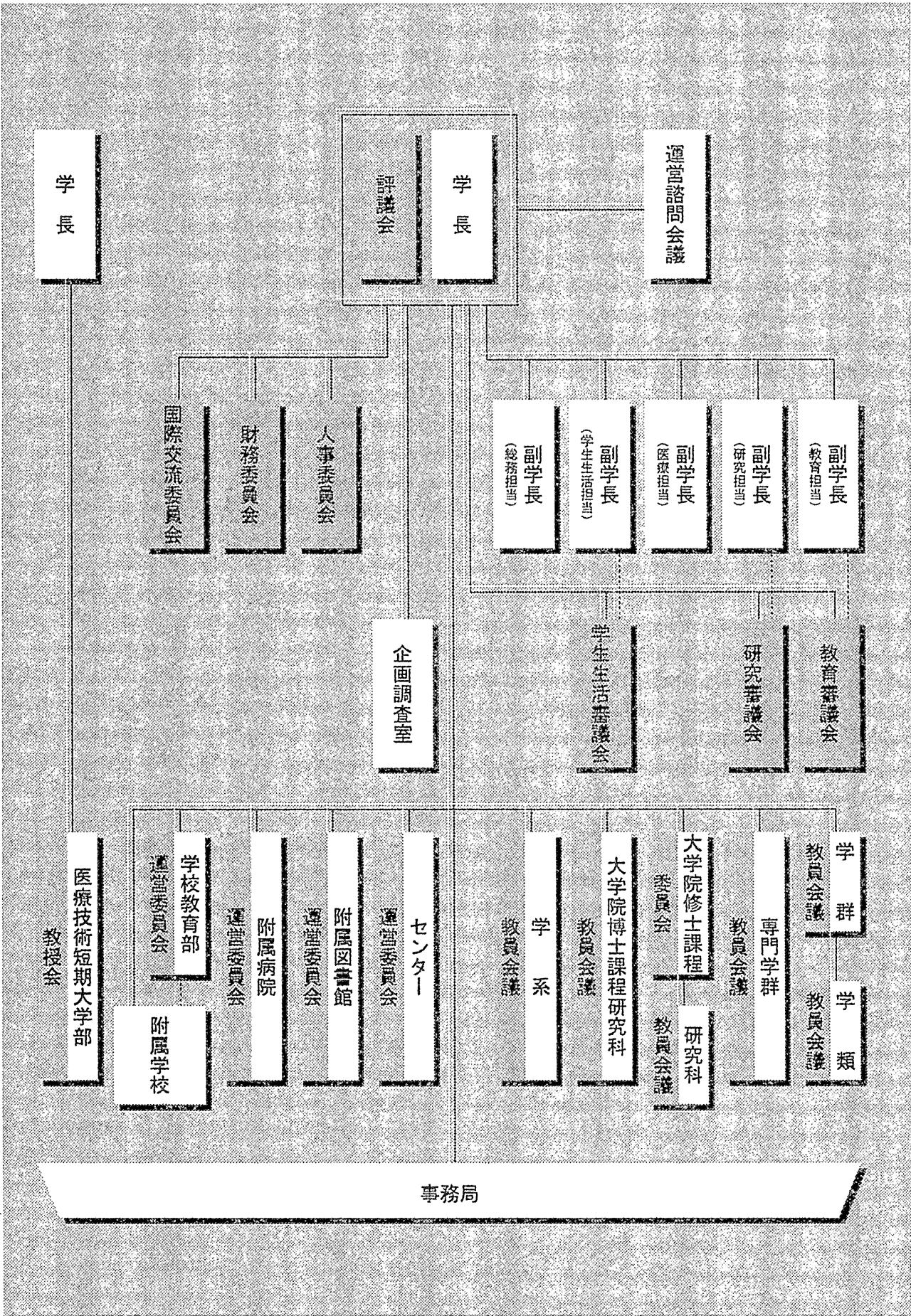
[学系からone-to-many対応]



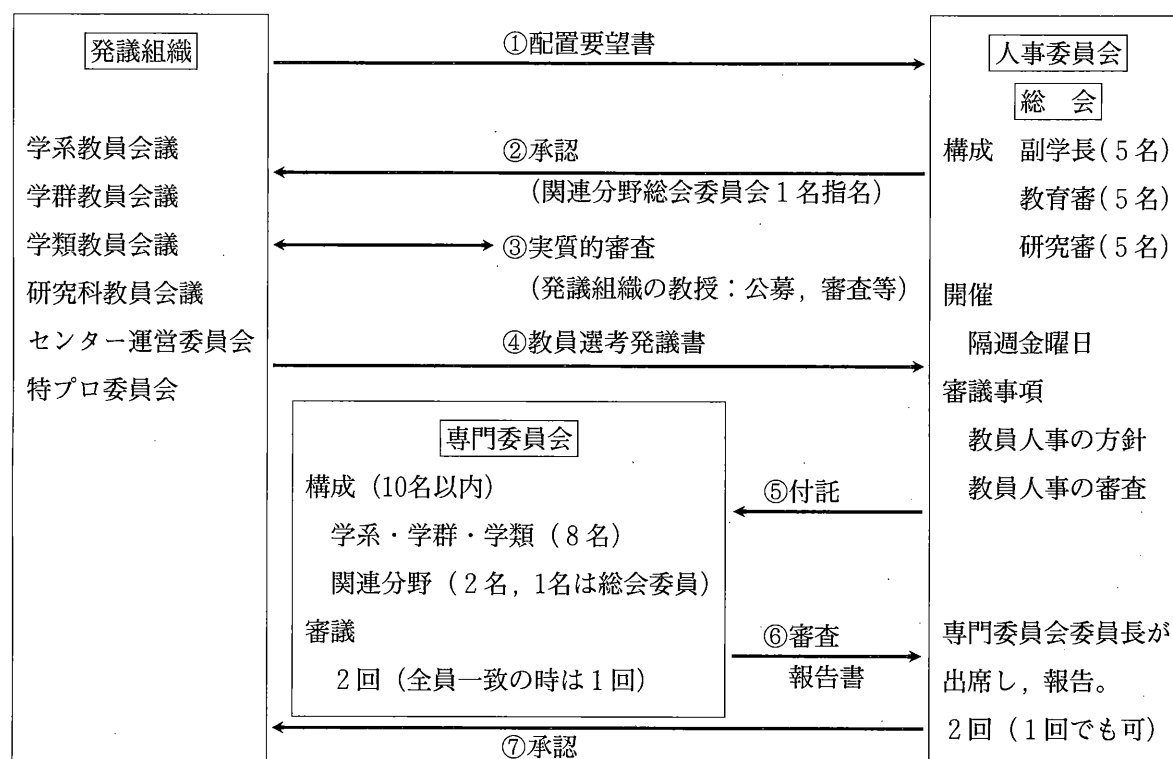
[教育組織にmany-to-one対応]



筑波大学の管理運営機構



筑波大学の教員人事の仕組みと実態



◇配置要望書 (①) には、配置教員の職名等 (職名、配置区分、授業科目等、所属学系、研究分野) と必要理由を記載し、発議組織の長と関連組織の長の連名で人事委員会委員長宛に提出。

◇配置が承認 (②) されると発議組織の教授による「人事小委員会」等で実質審査 (③) が行われる。

◇候補が内定した時点で発議組織の長は選考発議書 (④) を人事委員会委員長宛に提出。

配置教員の職名等とともに発令希望年月日、専門委員会委員名 (10名) を記載する。関連分野の委員は、当該学群以外の教授でなければならない。

◇総会の付託 (⑤) により、人事専門委員会では、委員長の互選、選考過程の説明、候補者の履歴・教育研究業績の審査、委員に依頼してあった論文査読結果 (5編) の説明などが行われ、全員一致の場合には審査報告者 (⑥) の原案の検討が行われる。

◇総会での人事専門委員長の報告は1件5分程度。日時を指定される。履歴書、研究業績目録、教育業績目録、教育・研究の計画及び抱負について順次OHPで映し、説明はほとんどしない。投票で、全員一致であれば1回の審議で承認 (⑦) となる。

となって、当該学系に関係する学類と大学院が集団を構成している。

第二に、教員の定員管理の単位が錯綜していることである。現行法制度上、学群・学系制度を採用した場合の教員の所属（教員ポストの定員管理）を一元化していない。結果として、学系や、学類や、大学院や、さまざまな組織単位に、教員が所属することとなっている。

第三に、教員組織が細分化され、多層化していることである。26学系の教員会議、23博士課程研究科の教員会議、三つの学群の教員会議、三つの専門学群の教員会議、13の学類の教員会議が存在する。教員は、自己の所属ポストとは関係なく、複数の教員会議に参加することになる。細分化され、多層化された教員会議を、形式的にせよ開催することになると、年数回の開催ということになるようである。結果として、合議体としては形式的な開催となり、学系を中軸とした運営が、事実上中心となる。

第四に、評議会の問題である。評議会は、その基礎となる学群・学系から選出される委員によって50人を超える合議体となる。実質は、各専門委員会と各審議会が運営の中核となる。

第五に、教員人事の問題である。法制度上、評議会の権限事項から教員人事に関する事項は排除され、人事委員会にゆだねられた。そこで、教員人事は、所属ポストのある教員会議が発議し、人事委員会に配置要望書を提出するところから始まる。発議組織と人事委員会のいくつかのやりとりのなかで、関連分野2名をふくむ10名以内の専門委員会が組織され、全員一致を原則として審議が行われ、人事委員会総会で審議・決定される。したがって、なんらかの理由で欠員が発生した場合であっても、最初の要望書が承認されなければ、人事は開始されないことになる。人事権は文字通り、教員会議ではなく、人事委員会に所属しているといえよう。

3 国立大学の独立行政法人化と学群・学系制度

さて、国立大学の独立行政法人化は不可避の情勢となっている（深谷「国立大学の設置形態と労使関係(上-下)」労働法律旬報1503-4号<2001年5月>）。文

部科学省調査検討会議（連絡調整委員会）がまとめた最終報告書「新しい『国立大学法人像』について」は、法人化後の大学の管理運営について、重大な提言を提出した。

3.1 最終報告書「新しい『国立大学法人像』について」と大学の管理運営

最終報告書「新しい『国立大学法人像』について」が、大学の管理運営についてどのような制度構想を描いているのか、その中心的内容を確認しておく。

- ①学長が、経営・教学双方の最終責任者（意思決定及び執行の両面）である。
- ②大学運営の重要テーマごとに副学長（複数名）などを配置して、学長の補佐体制を強化する。
- ③重要事項に関しては、「役員会」（学長、副学長、その他の学外者で構成）の議決により、大学の意思決定がなされる。
- ④経営面（財務会計、組織編成、職員配置、給与、役員報酬など）は、学外者を相当程度入れた運営協議会が、教学面（教育課程、教育研究組織、教員人事、学生の身分など）については学内の代表者で構成する評議会が審議し、学長が最終的な意思決定を行う。ただし、特定の重要事項については、学長の意思決定に先立つ役員会の議決が必要となる。
- ⑤教授会は、審議事項を精選して、学部長を中心とする学部運営を実現する。

制度設計の基本は、大学の管理運営機構と教育研究組織とを、截然と区別することにある。結果として、管理運営機構の設計とその担い手は、大学の基礎組織（教授会など）の認識をえて、その構成員から選出されるわけではない。結果的に茨城大学の構成員がその任についたとしても、大学構成員が平等に参加を保障された選挙制度のなかで選出されるわけではない。

大学の内部運営の制度は、現状とは一変することになる。その実態を全面的に肯定するわけではないが、現状において、大学自治の中核に位置する教授会自治は、制度上は、終焉することになる。

3.2 独立行政法人化と学群・学系

「最終報告書」が描く大学の管理運営の構造は、現状

- ・自分のノートを作り、
- ・着実に勉強すれば必ずわかるようになりますよ。」と。

この勉強方法の効果は抜群だった。数日後に来てもらったところ、電気回路を24ページまでやり、いまのところ質問はないとのこと。そこで、もう一つの必修科目である電気磁気学も同じように勉強してもらうことにしたところ、ペースがつかめて、自学自習でき、質問は全然ないとのことだった。5か月後に電話でその後の様子を聞いたが、順調に学習しているとのことであった。もし個人指導がなければ、本学を退学してしまったことを考えると、一人の学生の人生に大きな影響を及ぼしたことになる。ほんのちょっとした時間を学生のために使うことで、学生本人ばかりでなく両親をも力づける結果となったことに着目してほしい。

このように、学業につまずいている学生たちの多くは、能力がないわけではなく、勉強の仕方を知らないだけであると思われる。したがって、英国Warwick大学（平成13年9月10日から2か月間、文部科学省の短期海外研修の恩恵を受けて滞在した。大学創立から36年しかたっていないのに、教育評価と研究評価ともトップ4にランクされ、注目されている大学である。）のように、低学年次に個別指導時間をカリキュラムの中に組み込むことは大変有効で、また学生の勉学を早く軌道に乗せてやるために不可欠である。本学でもこれを取り入れた方がよいと思われる。

参考例：Warwick大学では、個別指導（Tutorial）時間が時間割（月曜日3時限目、1時限は50分、1日は8時制限、1学期は10週で3学期制、試験は5月と6月に1年分を実施する。）の中に組み込まれている。隔週に5人程度のグループに一人の指導教官が担当し、講義の質問やレポートなどの文章の書き方を指導している。個別指導教官は卒業するまで同一者となっている。数学の個別指導（木曜日2時限目）を時間割に組み込んでいる。

3. 学力不足が招く悲劇

一方、中には本学科に必要な数学の学力不足で、専門科目を履修できないで、苦しんでいる学生がいるので、そのような例を紹介する。この学生は、大学入試

センター試験に重点をおいて、家庭教師をつけて受験勉強をしたとのこと。両親の言うことには、個別学力試験が小論文であり、センター試験の点数が良かったので奇跡的に本学に合格できたとのこと。1年次のときには何とか単位も取れたが、数学が苦手のために、専門科目の授業を理解できなく、2年間にわたり単位がほとんど取れなかったようだ。両親は前期の定期試験結果をみて、学業を続けさせるかどうかを決めたいと言っていた。このままでは退学してゆくなと思ったので、学生に来てもらい、話を聞いたところ、大学ではできれば卒業したいとのこと。その理由としては、中退していったサークルの先輩をみていて社会で生活してゆくには大学を出ていないと大変だなど思うからとのこと。私の指導のとおり勉強することを条件に面倒をみることになり、上述の勉強の仕方を教え、個人指導を開始した。個人指導を7回ほど重ねる内に、なんとか、少しずつ自学自習ができるようになってきた。今も、1週間に1回、個人指導が続けている。

個人指導がなければ、いずれ8年目を迎え、退学せざるを得ないことになるだろう。個人指導をなぜ大学でするのかと言われそうだが、市場原理からするとこのような質問自体がナンセンスであり、当然のことをしていただけであるとなる。入学者選抜のあり方に問題があるのであって、入学した学生はむしろ被害的な立場にあると私は考える。入学できたが学力不足のために、講義についてゆけずに、取り返すことのできない大事な時間を、失意のうちに過ごすはめになっている。このような学生が本学には相当数いて、適切な指導も受けられずに、苦しみ悩んでいるのではないのでしょうか。このような学生を面倒をみないでそのままにしておくことは、近い将来では許されないことになると確信する。入学を許可され、勉学意欲がある限り、どのような学生であっても、親身となり教育すべきである。これが、今後重要となってくる市場原理的な考え方である。このやさしさこそ、これからの大学には必要で不可欠なものである。

4. 学力低下時代の教育システム

3年前の新聞記事に、1979年と1997年に、高校2年生1,375人を対象に調査した、校外学習時間が掲載され

ていた。それによると、3時間以上勉強した生徒は、17%から8%へと半減し、1～3時間という生徒も40%から35%へと減少し、かわって全然勉強しない生徒が22%から35%へと増大したとのこと、若者人口の減少に伴い、大学は格段に入りやすくなり、進学希望者の勉強時間も減ってきた。この傾向は益々加速され、大学入学者の学力低下は深刻になっている。この1997年に高校2年生だった生徒が現大学4年生である。18年前の学生と比較するとその学力には雲泥の差がある。

とは言っても、これらの生徒の中から大学の講義に耐え得る者を適切に選抜し、教育してゆかなければならない。アドミッション・ポリシーをはっきりさせて、それぞれの学問分野で適切な入学者選抜方法を実施することがいかに大切かを痛感させられると同時に、入学を許可した限り、学生を最優先して、学生の能力に見合ったカリキュラムを提供する義務がある。

さらに、低学年次の講義はわかりやすく、高校とのつながりを念頭において、ていねいに行い、学生が勉強しなければならないような教授方法（ミニテストや宿題などを課す。）の実施が必要となる。それは、授業に出席し、机に座っていれば、わからせてくれるものと思って、勉強しない学生が多いからである。これらの学生はその内に、講義が理解できなくなり、やる気をなくしてしまう。それを事前に防止するために必要である。そして、低学年次では全科目必修完全積み上げ形カリキュラムを提供して、高学年次でのあらゆる選択が可能となるような基礎学力を、養成すべきである。学生の自由選択度の高い、現カリキュラムは今の学生には適さなくなった。英国Warwick大学では、1週間に同じ科目を3回開講し、5週単位毎に1科目を終了させている。1週間の開講はせいぜい4、5科目として、積み上げ形カリキュラムを提供している。本学でも、1週間に同一科目を3回開講し完全積み上げ式とすることは、現在の教育課程でも可能であり、是非実現してほしい。

新聞記事によると、合格者に入学前から教育を始めた、入学後に高校で学ぶ内容を再教育したりする大学が私立大学を中心に少しずつ増えているとのこと。大学の授業を理解できる学力が身につけていない学生

が目立ってきたからだとのこと。「分からないのは学生が悪い」と突き放すだけでは、問題は解決できないことに大学側が気が付き始めてきたと言われている。市場原理からは至極当然のことである。

5. 入試を変えれば学生は変わる

別紙1と別紙2は、後期日程の個別学力試験を小論文から総合問題（数学と理科）に変更したことによる効果をみるために、私が担当した専門科目の試験結果と入学者選抜方法との関係を追跡した結果である。

まず別紙1からみる。

- ・電気電子数学Ⅰ、Ⅱはそれぞれ1年次の前学期と後学期に開講されている2単位の選択科目である。本学科の専門科目を支障なく学べるように、高校との継続性を考慮して、数学の講義とは独立して、本学科の教官が水戸キャンパスに出かけて、専門科目の講義で数学をどのように使っているかに重点をおいて、4年間に必要とする内容をすべて盛り込んだ講義である。入学者選抜方法とカリキュラムとを関連させて数年前から開講している。
 - ・入学者選抜方法の違いと電気電子数学Ⅰ、Ⅱの試験結果との関係を考えてみる。
 - ・試験結果H10数学Ⅰ、Ⅱをみて、前期日程合格者に90点以上の得点者が多いことがわかる。この年度から本学科は前期日程の選抜方法として、大学入試センター試験1に対して個別学力試験3とするように、個別学力試験重視の入試を実施した。その効果が顕著に現れていることが試験結果からわかる。
 - ・試験結果H11数学Ⅰ、Ⅱをみると、上述の90点以上の得点者が激減し、後期日程との差がなくなってきたことがわかる。前期日程の大学入試センター試験の、外国語のみを採用したための影響なのだろうか、検討してみる必要がある。ここではむしろ、後期日程の合格者が前期日程合格者と差がなくなってきたことを特徴としたい。後期日程の選抜方法として、小論文から総合問題（数学と理科）に変更したための効果が顕著に現れたと考える。本学科の学生に必要な学力は数学と理科（特に物理）であり、これは大変好ましい結果である。
- 次に別紙2をみてみよう。

- ・電気回路Ⅲは3年次の前学期に開講されている2単位の必修科目である。
- ・この講義に先立ち、2年次に電気回路Ⅰと電気回路Ⅱが開講されている。
- ・入学者選抜方法の違いと電気回路Ⅲの試験結果との関係を考えてみる。
- ・試験結果H10回路のH12定期試験の比較から、前期日程合格者の方は90点以上が2名、70点台が7名いるのに、後期日程合格者の方ではゼロであり、前期日程の選抜方法が本学科には適しているように思われる。
- ・ところが、試験結果H11回路のH13定期試験の比較から、選抜方法による差がないように思われる。これは、平成11年度入試から、後期日程の選抜として、小論文から総合問題（数学・理科）に変更した効果が出ていると考えられる。本学科には数学と理科（特に物理）の学力が必要であることが裏付けられた。後期日程合格者について、試験結果H10回路のH12T、H13、H13Tにおいては、向上効果がみられないのに対して、試験結果H11回路のH13Tにおいては向上効果がみられ、小論文での合格者より総合問題での合格者の方が学習意欲に勝れていると思われる。試験結果H10回路のH12定期試験と試験結果H11回路のH13定期試験の結果の比較から、得点分布が後者が前者より約20点下にシフトしている。これは、入学者の学力が低下（学習意欲を含め）していることを示しているものと思われる。本学科にとり、大変深刻な問題といえる。
- ・答案を採点した印象から、電気回路Ⅰ、Ⅱの範囲を十分に修得できていない学生が増えてきていると判断できたので、H13追試では電気回路Ⅰ、電気回路Ⅱの範囲の1ページから勉強することを強く要望する掲示を3か月前から出して、奮起を促した。その効果が得点分布に現れていることを、H12Tの得点分布とH13Tの得点分布を比較すれば確認することができる。

このように、入学者選抜方法を変えれば、入学してくる学生が変わってくることがわかる。それぞれの学問分野に適した学生を選抜することが、大学の教育のためにも、また入学してくる学生のためにも大事なこ

とである。大学改革ではこの入学者選抜方法とその後の教育システムとの一貫性が極めて重要である。

6. 個人指導教育システムの必要性

その他としては、卒業研究に着手できないで、留年を繰り返している過年度の学生たちの個人指導を積極的に行ってきた。これらの学生の中には、卒業したいと懸命にがんばろうとするが、もうすでに頭がそれを受けつけない状態になってしまっていて、両親を交えた話し合いの結果、退学せざるを得ないことになる場合が多い。しかし、学業は成就できなかったが、人生とは何かを考えるきっかけとなり、自分から進んで退学を決意して、別の道を歩んでいった。一方、中には7年かかって卒業できた場合や8年目になんとか卒業していった場合もある。しかし、もし個人指導がなければとても卒業は無理だったように思う。また、個人指導の結果、本学の保健管理センターの専門医につなぎ、カウンセリングを受けてもらった学生は多数いる。かつその数は最近増え、今までには想像できないような場合も出てきた。さらに、個人指導の電話がきっかけで、学生が行方不明になっていることがわかり、衰弱し切った状態の学生をとりの県で無事に発見することができた場合もある。郷里を遠く離れ、孤独の内に、学生たちが部屋の中に閉じこもってしまうようなことにならないようにしたいもの考える。学生たちが心身ともに健康で着実に勉学できるような教育システムの必要性を感じる。

英国Warwick大学のように、低学年次に個人指導の時間が、カリキュラムの中に組み込まれていれば、このようにならずに済んだ場合も多数あるのではと考える。

参考例：Warwick大学では、隔週で個人指導時間が時間割の中に組み込まれている。選択科目の履修とか将来計画など、個人指導では必要に応じて、早めに専門医やカウンセラーにつないでいる。

新聞に最近掲載された記事からは、最低基準の学業成績を修められない学生は退学勧告されてしまうような時代となりつつある。また一方では、知識を詰め込むような大学受験勉強が、本来身に付けておかなければならない社会性の貧弱な学生をうみ、いつまでも幼

い若者が増えてきたとの指摘もある。そしてついに、トヨタ自動車は2002年1月1日付で「課長」の業務を大幅に変え、今後は管理職の役割として指導力や管理能力を重視して、査定項目に部下の育成能力を加え、名称をグループ長とするとのことである。人材育成の必要性が顕著になってきた。

このように、人を育てるとの観点からは、学生に退学を勧告するような制度は導入すべきではない。大学に合格させ入学を許可した責任を、大学はまず先に果たすべきである。退学は個人指導の中から自然に芽生えてくるべきものである。市場原理の立場、すなわち社会から要請されていることは、学生の心身の健康をも視野に入れた教育システムを構築することである。これからの大学評価ではそこまで査定されることになる。これは現在の大学教官の意識からは相当ずれた立場であり、そこに私たちの意識改革の深刻さがある。しかし、大学として生き残るためには、それをしなければならなくなっている。

7. あとがき

21世紀の大学は、世界規模での競争の中で、個性ある特徴をアピールして、市場原理を導入して、学生を

かけがえのない顧客と考えて、その潜在能力を自らが見つけ出すことのできるような教育システムを備えていることが第一課題になるだろうと考える。

理工系学部では、教育をしっかりと実施するためにも研究は極めて大切である。しかし従来のような研究第一主義から、教育第一主義への意識改革が必要である。学生の教育をしっかりとやり、学力をつけてやるのが、ゆくゆくは、卒業研究が活発になり、学生が学問に興味を持って大学院に進学しようと考え、研究に参加する学生を増やし、研究活動を真に活発にしてゆくことにつながるものと確信する。研究活動を活発にするためには、まず講義をしっかりとやり、個々の学生の面倒を親身になってみることで訴える。

市場原理を導入するためにも、教育の改革や改善の検討に学生を参加させるべきで、教官と学生の代表者で構成された連絡委員会を設けて、それを定期的に開催すべきであると強く訴える。

最後に、本学はまず第一に教育を充実させて、それが研究活動を活発にする原動力となるような構造改革を目指すべきと考える。今、大学教育研究開発センターを中心に議論している教育改革を各人が真摯になって実行する時に、本学の将来が見えてくる。

入学者選抜方法と電気電子数学Ⅰ，Ⅱの試験結果との関係

・試験結果H10数学Ⅰ

平成10年度入学者（現4年次生）

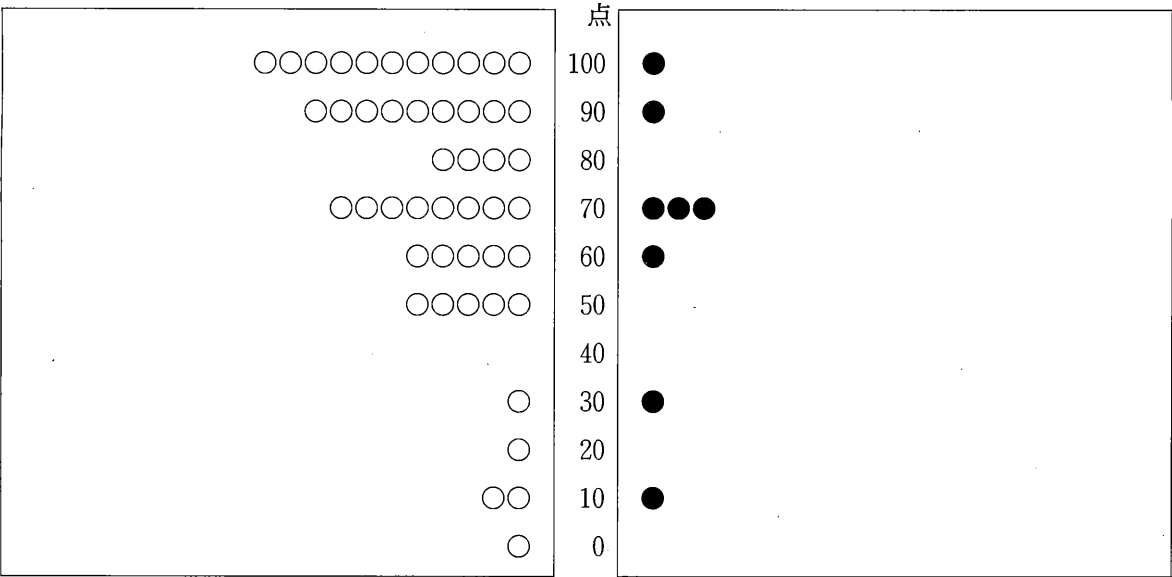
前期日程合格者（47名）

後期日程合格者（8名）

（センター 200点：数学300＋理科300点）

（センター 700点：小論文200点）

H10定期試験



・試験結果H10数学Ⅱ

平成10年度入学者（現4年次生）

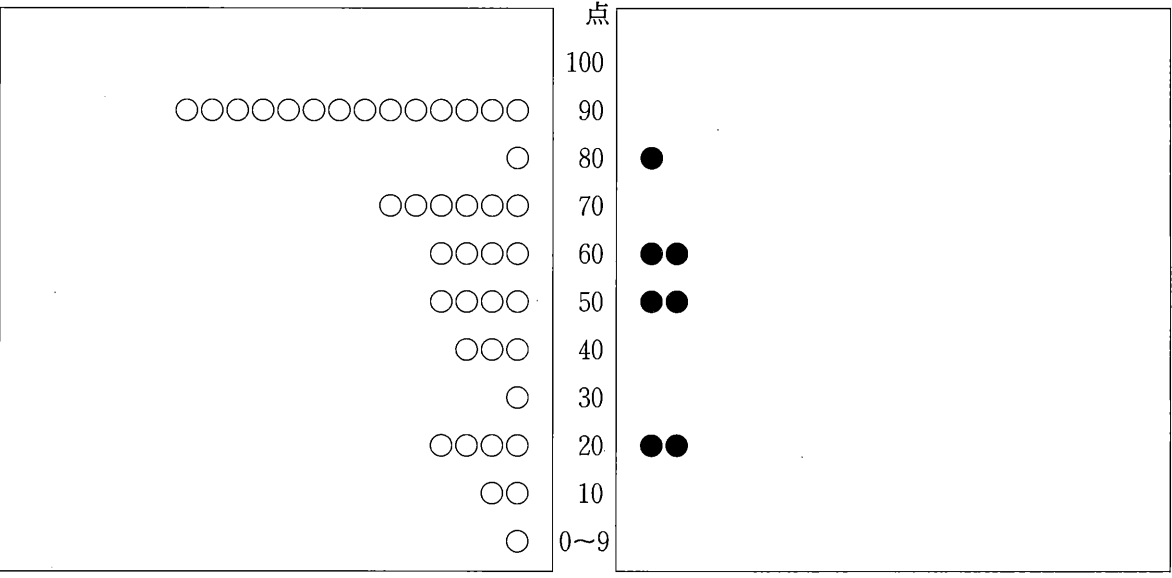
前期日程合格者（47名）

後期日程合格者（8名）

（センター 200点：数学300＋理科300点）

（センター 700点：小論文200点）

H10定期試験



・試験結果H11数学Ⅰ

平成11年度入学者（現3年次生）

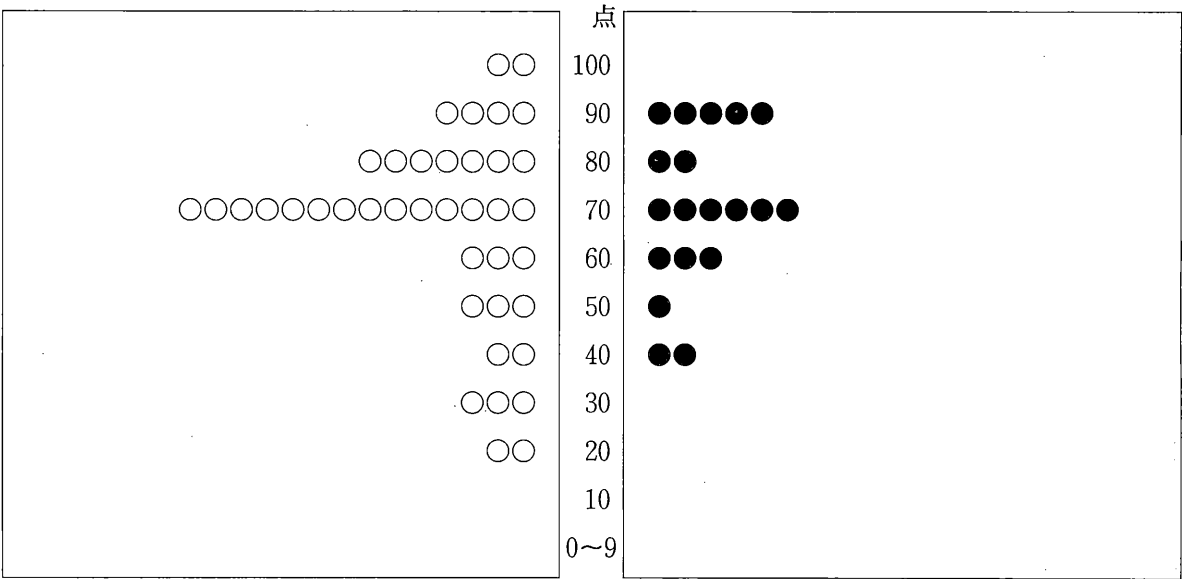
前期日程合格者（44名）

後期日程合格者（20名）

（センター外国語200点：数学300＋理科300点）

（センター 600点：総合問題（数学・理科） 300点）

H11定期試験



・試験結果H11数学Ⅱ

平成11年度入学者（現3年次生）

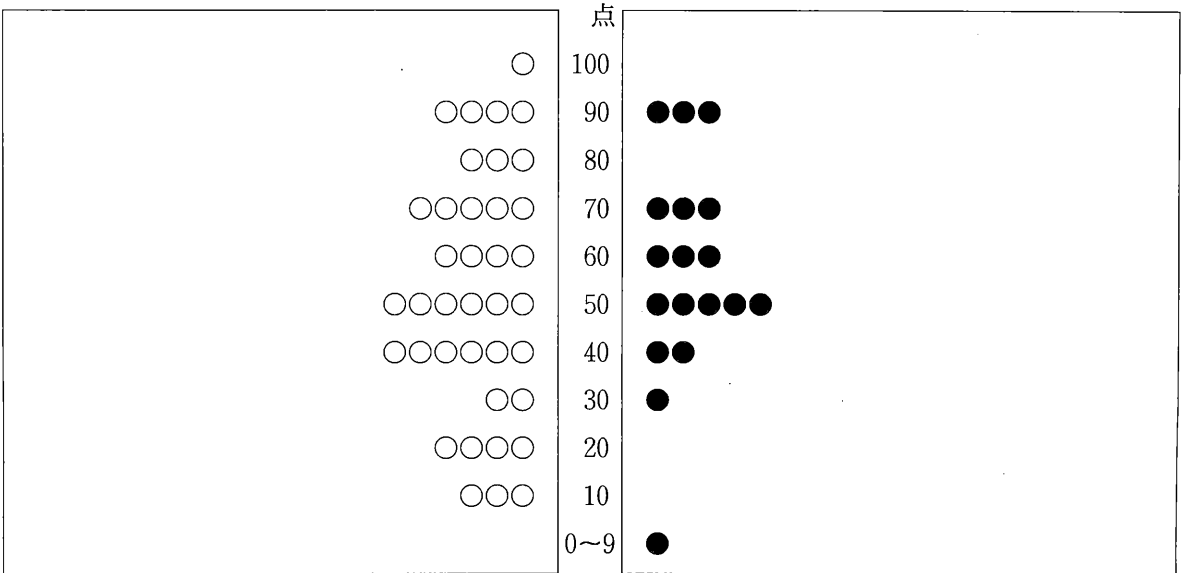
前期日程合格者（44名）

後期日程合格者（20名）

（センター外国語200点：数学300＋理科300点）

（センター 600点：総合問題（数学・理科） 300点）

H11定期試験



入学者選抜方法と電気回路Ⅲの試験結果との関係

・試験結果H10回路

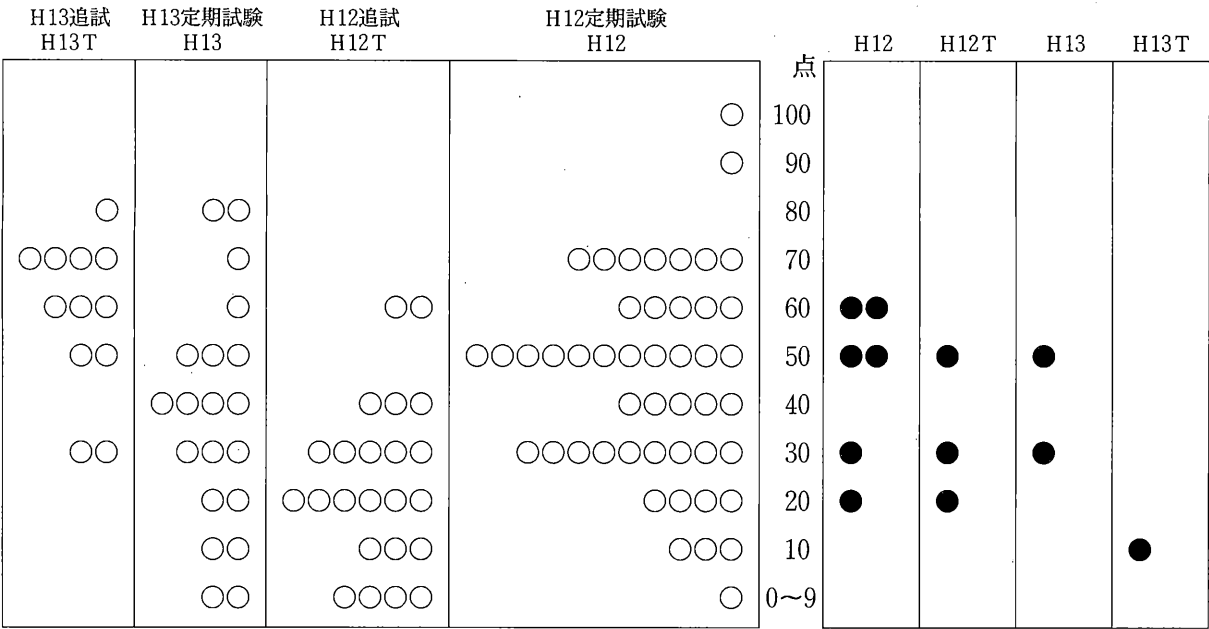
平成10年度入学者（現 4 年次生）

前期日程合格者（47名）

後期日程合格者（8 名）

（センター 200点：数学300+理科300点）

（センター 700点：小論文200点）



・試験結果H11回路

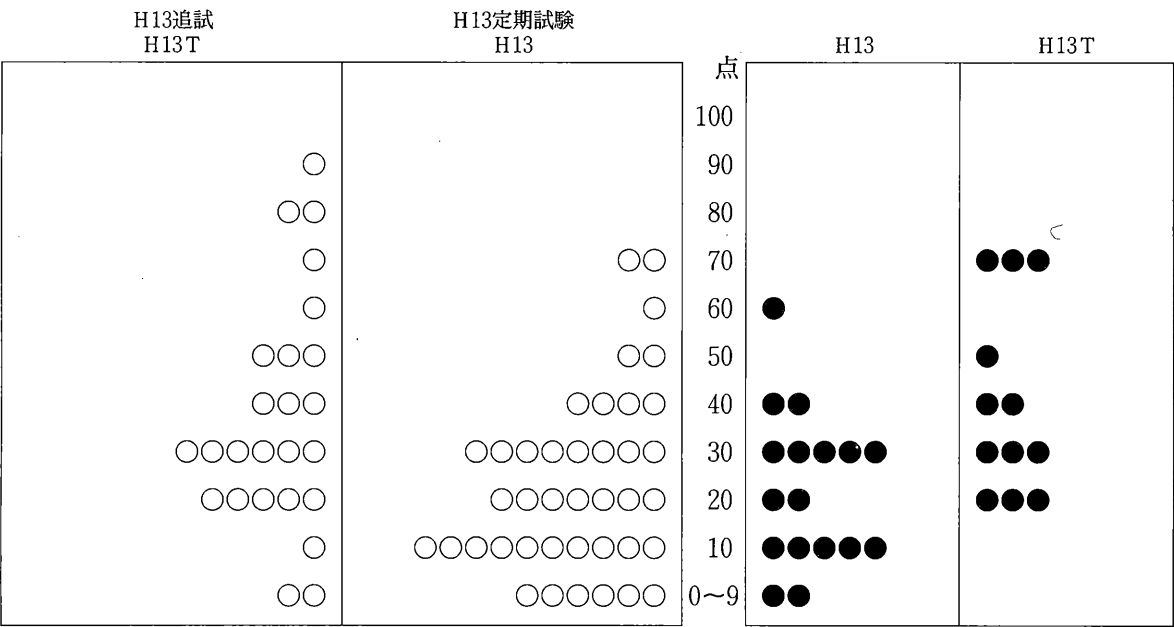
平成11年度入学者（現 3 年次生）

前期日程合格者（44名）

後期日程合格者（20名）

（センター外国語200点：数学300+理科300点）

（センター 600点：（総合問題（数学・理科）300点）



自律的学習の観点からの授業分析 ―「日本語ⅠB」(研究発表)―

An analysis of learners' self-assessment to their performance in Japanese I B classes

石橋 玲子・八若 壽美子 (留学生センター)

Reiko ISHIBASHI & Sumiko HACHIWAKA
(International Student Center)

1. はじめに

1.1 自律的学習とは

外国語教育における自律的学習⁽¹⁾は、教授法が言語形式重視からコミュニケーション重視に移行しはじめた1970年代から注目されてきている。Dickinson(1987)は、自律的学習⁽²⁾を「学習者が教師の直接的コントロールを受けずに活動する学習状況をさす」と定義し、学習者の学習への意思決定への関与及び学習に対する責任の度合いによりautonomyからprogrammed learningまで様々なレベルがあるという。

日本語教育における自律的学習への関心は、1990年代に入ってからであり、自律的学習の定義は、田中望、斎藤里美(1993)の「自律的学習とは、学習者の学習特性の多様化に対応するために、教師の手助けをえて学習者が自分の学習過程を分析し、学習のステップ化を考え、実行することである」が一般的で、教育機関での授業のコンテクストを前提に狭義に定義されている。本稿でも、大学の教養科目としての「日本語」を対象としているので、田中等の定義を基本的に採用する。しかし、筆者等は、学習者が専門科目に入った場合、日本語教師の直接的手助けがなくとも友人や他の日本人から支援を受けたりして学習を継続できる能力を育成することも重要だと考えているため、上記の「教師の助けをえて」は、必要条件とは考えていない。

自律的学習力の育成の具体的方策として、平成13年度後学期「日本語ⅠB」(研究発表)の授業では、学習者自身に学習目標や現時点の達成度を「意識化」させ、自分の学習方法を反省、改善させる機会を与えることを授業に盛り込み、実施した。

学習の「意識化」の効用は学習者が潜在的に持つ自律的学習力を「意識的な実現」⁽³⁾へと導くことである。

1.2 教養科目の「日本語」の位置づけ

大学での教養科目の「日本語」が日本語教育全体からみてどう位置づけられるかを、まず、概説しておく。

日本語教育は、英語教育と同様に、一般目的(日常生活に必要な会話など)の日本語教育と特定の目的をもった日本語教育がある。大学での日本語教育は、特定目的の日本語教育の中の学術目的の日本語教育であり、その下位範疇に一般の学術日本語教育(講義の聞き取り、論文執筆、研究発表、ゼミでの討論等)と専門の学術日本語教育(医学・工学・経済などでの専門書を読む、論文を書く等)がある⁽⁴⁾。従って、教養科目の「日本語」は、一般の学術日本語教育の範疇に入り、本大学の「日本語ⅠB」では、大学での研究発表に必要な表現力を育成することを目的としている授業である。「日本語ⅠB」は、文系学生用と理系学生用の2クラス開講されており、前者は八若が、後者は石橋が担当した。両クラスとも同じシラバスである。

次節の第2節では、「日本語ⅠB」の授業の概要と学習者の自律的学習行動を記す。第3節では、授業後に書かせた「研究発表自己評価」と「授業評価」の回答を自律的学習の観点から分析する。最後の節では、まとめと今後の課題を述べる。

2. 授業の概要

「日本語ⅠB」の授業のねらいは、レポート及び口頭発表における日本語の表現技術を育成するとともに、専門科目に入った後も自律的に学習・研究活動を遂行するための自律的学習力をつけることである。

自律的学習力育成というねらいを踏まえ、授業ではレポート作成・口頭発表の準備の過程を重視し、教師主導ではなく学習者が主体的にかかわる活動を中心と

した。さらに各過程の成果を確認し改善に導くため、自己評価、学習者同士のピア評価⁽⁵⁾、日本人学生・日本人ボランティアによる他者評価など多様な評価活動を取り入れ、自己の学習の達成度・改善点などの意識化をはかった。

また、本授業のもう一つの試みとして、口頭発表の提示資料としてPowerPoint⁽⁶⁾を使用した。使用の理由は、①口頭発表の道具として将来使用する可能性が非常に高いこと、②グラフや表、写真などを使って「視覚に訴える」プレゼンテーションが期待できること、③各準備過程で繰り返し行われる修正に対応しやすいことである。

具体的な授業の流れは図1に示したとおりである。レポート作成・口頭発表に関するシラバス作成・教材作成にあたっては、主として齊山・沖田（1996）『研究発表の方法 ～留学生と日本人のためのレポート作成・口頭発表の準備の手引き～』を参考にした。

研究発表会は司会・タイムキーパー、コメンテーター、ビデオ係りを学習者が分担し、学習者が主体的に進行した。また、日本人学生（理系発表会各回4名）または日本人ボランティア（文系発表会に13名、9名）を聴衆として迎え、発表の評価をしてもらった。

各クラスの研究発表会スケジュールは表1に、研究発表会の様子は写真1、写真2に示す。

表1 研究発表会スケジュール

文系（於：共通教育棟2号館 45教室）				理系（於：共通教育棟2号館 46教室）			
日時	学生	学部(学年)	発表題目	日時	学生	学部(学年)	発表題目
1/16	1	日 研 生*	日本の高校生	1/17	1	農 (1)	地球温暖化
	2	特別聴講*	歴史教科書問題		2	理 (1)	狂牛病
	3	教 育 (1)	性同一性障害について		3	工 (1)	砂漠化
	4	人 文 (1)	いじめ問題	1/24	4	工 (1)	パラサイトシングル
	5	人 文 (1)	I T革命と我々の生活		5	工 (1)	児童虐待
1/23	6	人 文 (1)	いじめ問題		6	工 (1)	少年犯罪
	7	人 文 (1)	心理面から見る「引きこもり」	1/31	7	工 (1)	いじめ
	8	特別聴講	狂牛病		8	教 育 (4)	価格破壊
	9	教 育 (1)	エイズ問題について		9	農 (1)	遺伝子組換え食品*
					10	理 (1)	外国人労働者

※日研生：日本語・日本文化研修留学生
特別聴講：特別聴講学生（交換留学生）

※理系9「遺伝子組換え食品」のPowerPointによる研究発表提示資料例は資料1に示した。

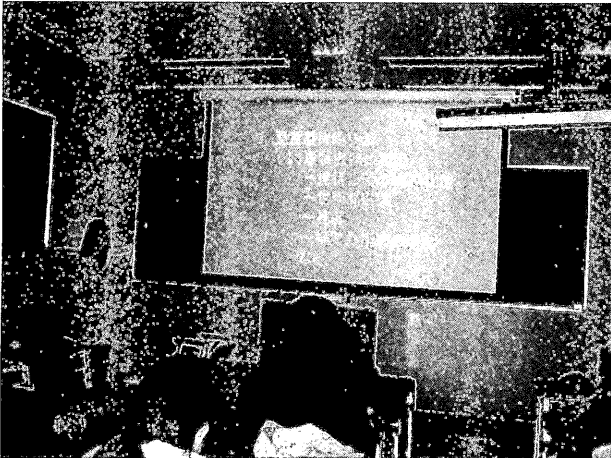


写真1

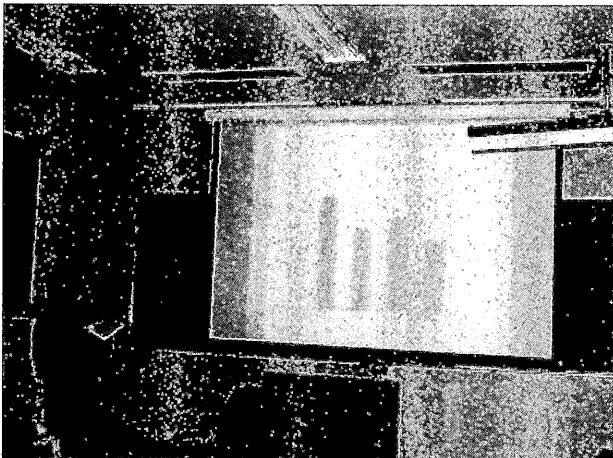


写真2

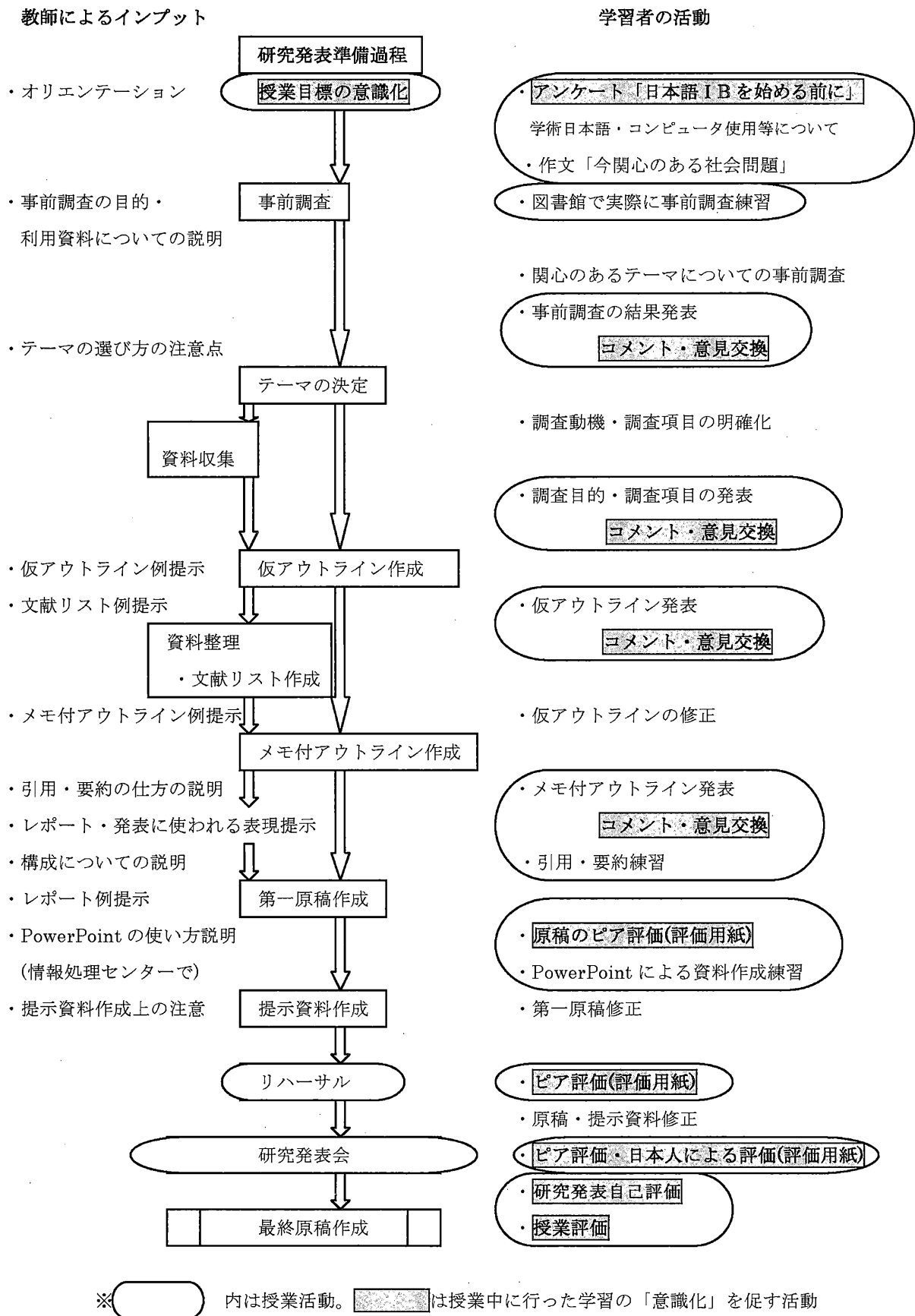


図 1 日本語 I B の授業の流れ

3. 「研究発表自己評価」「授業評価」の分析

3.1 分析の方法

「日本語 I B」で実施した過程重視の活動や多様な評価活動は学習者を自律的学習へと導いたのだろうか。

Wenden (1991) は言語学習における自律性促進の方策として「メタ認知知識 (Metacognitive knowledge)」を持つことや、自律的学習に必要な学習者の「姿勢 (attitude)」を理解することなどをあげている。

「メタ認知知識」とは言語学習とはどのようなものかという知識で、Wendenはさらにこれを「Person knowledge」(以下「Person」)、「Strategic knowledge」(以下「Strategic」)、「Task knowledge」(以下「Task」)に分類している。「Person」とは年齢・学習動機・性格・認知スタイル・学習スタイルなどの学習に影響を与える認知的・情意的要因に関する知識である。「Strategic」とはストラテジー選択の原則などのストラテジーに関する知識である。「Task」は与えられたタスクの目的・重要性や、話し言葉・書き言葉といった言語コミュニケーションの性質、タスクの難易度などタスクの構成要素や達成手順についての知識である。

Wendenによれば、これらの知識は学習者が既に持っているものもあるが、より自律的になるためにはこれらを意識化し、必要に応じて改善していくための内省の機会が必要であるという。

自律的学習に必要な学習者の「姿勢」としては、自己の学習に責任を持つ意思があるかということと、学習者としての能力に自信を持つことができるかという2点があげられている。

本稿では、授業終了後に実施した「研究発表自己評価」と「授業評価」の回答 (18名分)⁷⁾をデータとし、学習者の学習の「意識化」の現われをWendenの「メタ認知知識」「自律的学習に対する姿勢」という観点から分析する。

3.2 分析結果

表2-1は、「研究発表自己評価」の「あなた自身の発表はどうでしたか」という問いに対する自由回答に現れた学習の「意識化」を分類したものである。

表2-2は「授業評価」の中の「日本語 I Bで勉強に

なったと思うこと」という問いに対する答えの「意識化」の現れの分類である。

「研究発表自己評価」では「Strategic」に発表前の「練習」「準備」の必要性についての記述が多く見られる。「皆の前での練習」、「自分の練習」、「テーマについての勉強」、質問に備えて「レポートだけでなく、もっと広範に」など自己の学習に欠けていた点を明確化したものも多い。また発表の方法として「自分の言葉を使う」、「原稿を見ない」、「発表の順序に気をつける」などの改善点の指摘も見られる。

「Task」では、「思いの整理」、発表に関連した「単語が覚えられた」、「発表文章の構成とPowerPointの使用」など、「発表」というタスクを遂行する過程で得た知識が明示されるとともに、「まだまだ」「使いこなせない」などタスク達成に至らない自分の能力に触れたものもあった。

さらに、多くはないが、「弱虫の性格が少し変わった」、「今後も役に立つと思う」など自信につながる記述や「主導的になって」よかったという自己の学習への責任を自覚した記述も見られた。

「授業評価」では、「日本語 I Bで勉強になったこと」という問いに誘発されたと思われるが、レポート作成及び口頭発表という「タスク」の達成手順に関することに記述が集中した。その中でもPowerPointの使用についての言及が多く、新しい「道具」のインパクトの強さがうかがわれた。

「他の人の発表を見ると自分の発表がよくわかる」という他者からの学習についての記述も興味深い。また、次回は「もっと上手にできる」、「専門科目の論文の発表にとっても役にたつ」など自信や専門科目への応用についての記述は今後の自律的学習を期待させるものである。

表3は授業開始時にとったアンケートの中の問い「この授業で特に勉強したいことがありますか。」に対する回答である。この回答では「会話」「聞き取り」と漠然としたものが多い。授業終了時には学習者が本授業の目的を把握し、自己の学習・学習方法・学習姿勢などをより明確に語るできるようになったことがわかるだろう。

以上のように、過程重視の学習活動や多様な評価活

表 2 学習・学習過程についての意識の現れ

表 2-1 研究発表自己評価：あなたの発表はどうでしたか。

分析の観点		学習者の学習・学習過程についての意識の現れ
メタ認知知識 (Metacognitive knowledge)	Person	・先生はボランティアをさそって、私たちの発表を聞いてもらって、すごくいい雰囲気になった。弱虫の性格が少し変わった。 ・いろいろじゅんびしておいたけど、前に立つと緊張になって、パッって忘れてしまって、本当に後悔している。 ・パワーポイントを使って発表するのは初めてだったのでとても新鮮でおもしろかった。 ・この授業には大変満足する。いい勉強になりました。ぜひ、後輩たちに勧めてあげると思います。
	Strategic	・今後よく準備すること。 ・今後の発表は日本のいじめと別の国のいじめと一緒に調べたらもっといいかなと思う。 ・本番の前にクラスの中で皆の前で練習しておいたほうがもっとうまくできるような気がします。 ・発表の時、もうちょっと自分の言葉を使って発表の練習にがんばりたいと思います。 ・今後の発表で気をつけたい点は自分がレポートを書く部分だけでなく、もっと広範に準備して発表するとき質問によく応えるようにするのが必要だと思った。 ・発表前に自分の練習が必要だと思う。 ・テーマについて、もっと勉強しなければならない。 ・自分が収集した資料をもっと整理したら、発表する時、順調に完成できると思う。 ・一番大事なことは事前の練習することだと思う。 ・発表の順序に気をつけたいと思う。 ・今後の発表には原稿を見ないでやりたい。
	Task	・今、日本の深刻な問題としていじめ問題について調べて発表したのはよかったと思う。 ・やはり日本語はまだまだ。資料調べも少ない。発表はうまくいかなかった。 ・発表の内容に入っている単語が覚えられてよかった。 ・自分の思いを整理できてよかった。 ・発表する方法がわかってよかった。 ・PowerPoint まだ使いこなせないの自由で思ったとおり使えません。 ・レポートを書く正しい順番を習って、またパワーポイントなどを初めて使って発表するのはとてもよかったと思います。 ・発表文章の構成とPower Pointの使用はよかったと思います。
自律的学習に対する姿勢 (Attitude towards learner's autonomy)		・よかったと思った点は自分が主導的になって、いろいろな情報を探したから、先生が教えてくれる勉強よりもっと勉強になった。 ・今度の発表は今後も役に立つと思う。

表2-2 授業評価：日本語ⅠBで勉強になったと思うこと

分析の観点		学習者の学習・学習過程についての意識の現れ
メタ認知知識 (Metacognitive knowledge)	Person	
	Strategic	・今後わたしの発表の不足点を生かしていい発表になるため頑張ります。 ・他の人の発表を見ると自分の発表がよくわかる。
	Task	・PowerPointで発表するのは初めてです。かなり勉強になった。 ・パワーポイントの利用と「お客」の前で発表したのはいい勉強になったと思う。 ・①パワーポイントの使い方 ②敬語で話す ③書く日本語と話す日本語の違い ④資料調べ ⑤正式なレポートの書き方 ・ふだんあまりつかわないPowerPointなどの練習になってよかったと思う。 ・普段のときしゃべると皆の前で発表することは天と地の差があること。 ・パワーポイントの使い方、参考資料のまとめ方、論文で使う日本語、出典の書き方 ・レポートについていろいろ勉強して、自分のレポート、発表が変わっていった。 ・自分の考えの整理 ・発表の順番や前にしなければならないこと、発表の仕方などが勉強になった。 ・初めてPower Pointを使って発表すること ・レポート書くことから「発表」の完成まで、ほんとに大変と感じました。しかし、そういう過程の順序、どういうふうに資料を探すなどが勉強になりました。 ・ただ日本語じゃなくて「レポート」を完成させる過程中、情報収集からレポートを書くまで。いろいろなこと（が）勉強になりました。発表も人の前の演説の力を身につけました。 ・論文の書き方とPowerPointの使い方を習得した。 ・自分の言語のちからがアップしたと思います。レポートの書き方と発表のとき、話し方の違いが勉強になった。
自律的学習に対する姿勢 (Attitude towards learner's autonomy)		・主導的になって自分自らいろいろ情報に接していかななくてはならないことを知ることになった。 ・もし次回の発表がありましたら、今よりもっと上手にできると思います。 ・将来の専門科目の論文の発表にとっても役にたったと思う。

※学習者の記述に従ったが、理解を妨げる明らかな表記・文法の誤りは筆者が訂正した。

表3 アンケート「日本語ⅠBを始める前に」の回答

☆「この授業で特に勉強したことがありますか」に対する回答（文系5名・理系10名）

・日本語の会話能力を向上したいです。 ・会話。 ・日本語を上手になりたいです。特に会話と聴解力です。 ・聞き取り(3)。 ・レポートを発表すること。 ・おもしろいこと。	・うまく表現できる、うまくレポートを書けるように。 ・難しい単語の読み方。 ・日本語の文法。 ・日本語が下手くそなので、何でも勉強したいです 特に役立つものが勉強したいです。 ・特にないです。 ・先生のスケジュールの次第によろしいです。
---	---

動を通して、学習者が自己の学習過程の諸相を意識化し、レポート作成・口頭発表というタスクを達成した経験から学習者としての自信を得ていることがわかった。

4. まとめと今後の課題

本研究は、平成13年度後学期「日本語ⅠB」(文系、理系の2クラス)を履修した19名に授業後に実施した「研究発表自己評価」と「授業評価」を未提出1名分を除く18名分につきWenden (1991)の自律的学習の枠組みの指標を利用して分析したものである。本稿では、アンケート項目中、PowerPointを使用した研究発表に対する「自己評価」、本授業に対する「授業評価」とりあげ、それぞれに書かれた学習者のコメントを言語学習に関する「メタ認知知識」と「自律的学習に対する姿勢」に分類し、学習及び学習過程の意識化をみた。

その結果、学習者は、研究発表及びそこに至る過程での学習活動に主体的に取り組み、各学習過程について自己の学習を意識化し、学習を自分なりに統制するストラテジーを習得していること、さらに、研究発表に対する自信などを得ていることがわかった。

本授業の結果から、次のことが示唆される。シラバスがある程度教師によって決定されている大学の授業においても、学習者に学習目標を意識させ、各学習プロセスにおける達成度を自己評価や他者評価により反省させる機会を与えれば、学習者の自律的学習力の育成につながる。

今後の課題として、研究発表での自己評価、学習者同士の評価、日本人ボランティアの評価の関連を、評価基準、評価の内容等から分析し、大学における学術日本語において、学習者の自律的学習を支援する他者関与の有用性を検討したい。

注

- (1) 「自律」の基本的定義は、「自身の学習の一切を統御する能力」(Holec,1981)
- (2) self-instructionの定義による
- (3) 岡崎敏雄 (1992) による
- (4) Jordan,R.(1997, p3)の「English」を「Japanese」に変更
- (5) peer: 仲間の意
- (6) Microsoft社の「スクリーンや大型のディスプレイに映し出す資料を作成するためのアプリケーション」(エクスメディア (2001)「超図解PowerPoint 2002」, p.4)
- (7) 1名未提出のため

引用文献:

- (1) Dickinson,L. *Self-instruction in Language Learning*. Cambridge:Cambridge University Press.(1987)
- (2) Jordan,R. *English for Academic Purposes:A guide and resource book for teachers*. Cambridge: Cambridge University Press.(1997)
- (3) Holec,H. *Autonomy in Foreign Language Learning*. Oxford:Pergamon.(1981)
- (4) 石橋玲子, 大塚淳子, 鈴木紀子, 八若寿美子
「中級日本語学習者の自律的学習に向けての学習の意識化の試み」『言語文化と日本語教育』第11号, お茶の水女子大学に本言語文化学会 (1996)
- (5) 岡崎敏雄「日本語教育における自律的学習」『広島大学日本語教育科紀要』第2号 (1992)
- (6) 齊山弥生, 沖田弓子『研究発表の方法 ~留学生と日本人のためのレポート作成・口頭発表の準備の手引き~』東京:産能短期大学 (1996)
- (7) 田中望, 斎藤里美『日本語教育の理論と実践』東京:大修館書店 (1993)
- (8) Wenden,A. *Learner Strategies for Learner Autonomy*. New York:Prentice Hall.(1991)

教養教育に関する授業の点検・評価報告

書影圖精・湖底の葉はさく国に書文録

総合科目における点検評価と授業開発の試み

Attempt to Curriculum Development and Inspection Assessment on Interdisciplinary Study

松井 宗彦 (教育学部)

Munehiko MATSUI
Faculty of Education

(1) はじめに—茨城大学における総合科目の展開

茨城大学における総合科目の歴史は、旧教養部の一般教育における「公害論」(1971年；昭和46年)にまで遡る。専任教官を配置して人文・社会・自然・外国語・保健体育に続く第6の一般教育科目として総合科目が開設され、毎年度開講されるようになったのは1973年(昭和48年)、旧教養部における「情報科学」(人文系の情報科学、社会系の情報科学、自然系の情報科学の3本)を3人の教養部専任教官によって開講したことにまで遡る。

当時、文部省は学際領域や複合領域の研究を対象とした新しい総合科学の動向を積極的に取り入れる方針を打ち出しており、その文教政策の一環として「情報科学」担当教官1名が1972年に予算化(純増)された。続いて、概算要求していた「地域科学」担当教官1名が純増となった。その後、学生増に伴う教官のポスト増をとらえて教養部は、更に「環境科学」「科学論」「人間科学」「比較文化論」等の総合科目を整備開設、担当要員を配置していった。この間の記録を含め、総合科目を中心とした「教養部のカリキュラム改革」への取り組みの経緯については、『カリキュラムを中心とした教養部改革27年の歩み』(茨城大学教養部将来計画委員会編、1993年11月24日刊)の中に詳しく記述されている。

1996年(平成8年3月)に教養部は改組され、4月から大学教育研究開発センターが発足、教養教育の企画運営に携わることになった。教養教育としての総合科目は教育学部が責任部局となり、新たに各学部から選出された6人の委員によって構成される全学的な総合科目専門部会が大学教育研究開発センター運営委員会の下部組織として設置された。

平成8年～9年度の展開と点検評価については、『総合科目の充実を目指して』(大嶋和雄、曾我日出夫、松井宗彦編著：茨城大学大学教育研究開発センター、1997年3月刊)として集約されている。

総合科目は人文系科目、社会系科目、自然系科目など、いわゆる主題別科目の学問分野の区分にとらわれない横断的な教科目を企画編成することにより、総合的な分析力、判断力、理解力を学生たちに養わせることによって学問への知的啓発に務め、知の再編に結びつく思考力を身に付けさせることを目的としている。

この目的を達成するために、総合科目は具体的に次のような方略を考える。

- ①学際領域や複合領域など諸科学の最前線にまたがる話題をテーマとした授業を開設する
- ②現代社会の動向に密着した課題を捉え、問題意識を啓発するような授業を開発する
- ③学生の知的探究心を喚起するとともに、発想力を強化し活性化させるような授業を開設する

「総合科目の目的」の実現に向けて、総合科目専門部会が平成8年から平成13年までの間に自己点検を行い、改善に取り組んだ事項は次の5点に集約できる。

(2) 点検評価①—開講本数の増加と

大クラスの解消に向けて

教養科目の最低修得単位数26～38のうち、総合科目の必要単位数は4単位である。4単位分の授業を全学の1年次生1,610名(工学部Bコースも含めて)に4つのバンドで自由に2～3回受講させるためには、1クラス当たり平均80人として開講本数80本以上が必要となる。

平成8年度の総合科目は、前期火曜3講時及び5講

時の2回開講、後期も同様火曜3講時及び5講時の2回開講するという授業時間割で臨んだが、全学部 of 全学生が自由に選択して受講できるようにしたため、予想以上の受講生がいずれの時間にも集まることになった。学生たちは受講可能な時間はすべて受講して、第1年次に集中的に4単位+ α (自由履修分)を取得しようと考えたからである。受講生総数5,716名、大クラスの授業が林立することとなった。

因みに平成13年度の場合は67本であった。平成13年度の総合科目には大クラス編成の授業が13本もある。これは開講本数が基準より少ないことに加え、80~90人収容の中規模教室の数が不足しているためである。

総合科目で蓄えた知識を頭の中で更に培養し、総合的な思考力にまで高めていくためには、一時に詰め込むのではなく、時間をかけた方がいいという判断もあって、翌11年から後期は、火曜3講時のみの時間割へと編成替えを行い、あわせて工学部と農学部 of 2年以上の学生のために日立地区と阿見地区でもそれぞれ総合科目を開講、受講してもらえるように改善した(1年次生は全員、水戸キャンパスで学習し、工学部と農学部の学生は2年から日立キャンパスと阿見キャンパスで学習する)。このことにより、大クラスの授業は大幅に減少した。

(3) 点検評価②—全学からの出動体制について

毎年、総合科目を編成していく上で、編成を担当する責任部局 of 教育学部と専門部会が苦勞するのは、如何にして必要本数を確保するか、という問題である。総合科目専門部会が持っている基本的財源は5学部がそれぞれ分担する42本と非常勤講師時間360時間のみである。これらは大学教育研究開発センター運営委員会によって取り決められており、安定した部分である。しかし表2のとおり、学内の生涯学習教育研究センターや五浦美術文化研究所から提供される授業はいずれも担当責任(ノルマ)を負わないものである。したがって年度によって変動があるから、開講計画が立てにくい。これらの本数では到底必要本数には満たないので、ボランティアによる「任意開講」に期待せざるをえない。

平成13年度の場合、「任意開講」として6本の援助を

得ることができたが、この依頼や折衝は委員の人間関係に委ねられているから、委員には大変な心勞がつきまとう。これらを解決する道はただ一つ、5学部が負担する本数をそれぞれ増加させることである。総合科目に限って言えることは、全学出動体制の不備が顕著であるということである。しかし喜ばしいことに、ボランティアとして担当してくださる授業は、内容も洗練されていて啓蒙的・啓発的であり、学生たちにも評判がいい。

ボランティアとして毎年開講していただいている授業に『オリンピック人間学』『都市をめくるダイナミクス』『ネットワーク利用技術』『子どもたちは、いま』などがあり、いずれも今日的な話題と斬新な企画でもって多くの受講生を集めている。また平成9年度後期には、試験的に放送大学教材(53752-1-9211)『マスメディアと現代』を導入し、映像教材による提示と並行して教育学部教官2名による補助指導も行った。

(4) 点検評価③—総合科目の科目区分の見直し

表1にも示したように、総合科目は平成12年度に点検評価を行い、他の主題別科目にはない特徴を具体的なカリキュラム編成の中に取り入れることによって、より学生たちの知的関心を高め、総合的な思考力・判断力を養うことを目的として、「物質・生命系科目」をはじめとする9系統の科目編成に切り替えた。

[平成11年度以前の区分]

人間文化論、学際的科目、市民教養的科目、科学技術文明論、日本事情

[平成12年度以降の区分]

物質・生命系科目、認知・数理系科目、環境・政策系科目、文明・技術系科目、人間・文化系科目、表現・言語系科目、身体・行動系科目、生活・福祉系科目、社会・国際系科目

この改編の結果、総合科目の性格づけを明瞭にするとともに、本来の課題を鮮明に捉えることができるようになったが、しかし一方、カリキュラム編成上、受講生の希望にそえるように教科目を調整することは難しくなってきた。その理由は、各学部が担当する授業の担当者が年度によって入れ替わり、したがってその度に、授業題目が変わってしまうからである。5学部

表 1 平成13年度・総合科目・実施計画

	平成13年度・前期		平成13年度・後期	
科 目 区 分	開 講 本 数	Bコース (内数)	開 講 本 数	Bコース (内数)
物 質 ・ 生 命 系 科 目	4		1	
認 知 ・ 数 理 系 科 目	5		1	
環 境 ・ 政 策 系 科 目	3		4	
文 明 ・ 技 術 系 科 目	6		7	
人 間 ・ 文 化 系 科 目	6		4	1
表 現 ・ 言 語 系 科 目	2		2	
身 体 ・ 行 動 系 科 目	2		※1＋1	
生 活 ・ 福 祉 系 科 目	2		3	1
社 会 ・ 国 際 系 科 目	6	2	2	1
	※36本	2 本	※26本	3 本
受 講 生 数 (合 計)	※3,763人		※2,096人	
1クラス当りの平均受講生数	99人		72.2人	
開 講 本 数 (合 計)	開講総本数 67本 工学部Bコース 5本 (内数) ※カナダ・ローレンシアン大学夏期集中講座 (1本：受講40名) は合計の中に含まれていない。 ※合計の中に後期の集中授業 (文明・技術系科目 1本) 及び受講生数は含めていない。			

表 2 平成13年度・部局別担当本数

担 当 区 分	担 当 本 数	担 当 区 分	担 当 本 数
人 文 学 部	5	非常勤講師による 特別企画の授業	8
教 育 学 部	19		
理 学 部	6		
工 学 部	6		
農 学 部	6		
生涯学習センター	4	任意開講 (ボランティアによるもの)	6 (教育学部 4) (工学部 2)
保健管理センター	1		
広域水圏センター	1		
留学生センター	0		
五 浦 美 術 研	1	合 計	67本

から提出された開講予定表を見るまで、例えば次年度に向けて「人間・文化系科目」は何本用意できるかは読めない。学部には担当者のローテーションもあり、当然、その教官の専門分野も異なってくるので、学部に対しては担当責任本数を要求するに止まり、総合科目専門部会から「身体・行動系科目」を立ててほしい

とか、「認知・情報系科目」を1本を開講してほしいとまでは言えない。総合科目のカリキュラム編成は実に根気のいる仕事である。

(5) 点検評価④—シラバスの見直しとHPの開設
茨城大学教務委員会は平成14年度より成績の基準に

ついついの見直しを行い、成績基準に関する新しい規程を定め実施する。これに呼応して大学教育研究開発センターでは教養教育のシラバスの見直しを行い、学生の便に供するため、特に「成績評価の観点」についての説明欄を増設するとともに、15回にわたる授業の内容と進行について学生たちにもよくわかる説明が記載されるよう配慮されることになっている。

総合科目専門部会は平成12年度重点目標のとおり、学生への授業案内のためにパソコン2台を教養教育係室に配置、他の教科目に先行させて『総合科目シラバス』が常時、学生にも自由に検索してもらえるように改善した。現在は情報開示の意味も含め、茨城大学・大学教育研究開発センターのホームページに『総合科目シラバス』と『担当者のプロフィール』を掲載している (<http://www-crdu.admb.ibaraki.ac.jp/center/syllabus/kyoyo/H13/sougou/Lecture/1605-1.htm>)。初の試みにしては情報の検索がしやすく、また提示されている画面も読みやすいと評判は上々である。また外部からは受験生や高等学校からのアクセスもある。

ホームページを用いた情報開示のためには、予算措置がともなわねばならない。シラバスは毎年更新される。大学教育研究開発センターが開設したホームページが更に活用され、充実していくことを期待したい。

(6) 点検評価⑤—調査目的と分析の視点

総合科目専門部会では平成10年度に、数名の非常勤講師によって構成されるオムニバス形式の授業『特別授業を対象とした学生によるアンケート調査』を実施し、その結果にもとづいて点検評価作業を行っている(曾我日出夫・総合科目専門部会長『総合科目特別授業の点検評価について』茨城大学大学教育研究開発センター年報、第4号、平成12年3月)。したがって今回は、大学教育研究開発センターが実施した『学生を対象とした教養教育の授業に関するアンケート調査』の分析結果を手掛かりに、上記「総合科目の重点項目①及び②」の観点から点検評価を行うとともに、そのデータを上記の「総合科目の目的①②③」に照合しつつ、学生の期待する授業になっていたか、学生にとってどれだけ納得のいく授業となっていたかを「学生の眼」を通して分析することにした。

あわせて平成13年7月に総合科目専門部会が独自に実施した『総合科目担当教官を対象にした成績評価方法に関するアンケート調査』の集計結果にもとづいて、総合科目の授業における「学生の意識と教師の意識」を比較検討することにより、「期待される教師像」と「期待される学生像」をクローズアップしてみたいと考える。

2001年度(平成13年度)の総合科目の重点目標は、次の2項目である。

- ①「(バーチャル・キャンパス統合計画が進行することを前提として)3キャンパスが連携して学際性の高い総合科目を開講する」
- ②「学外広報に寄与する総合科目の開講や情報提供システムの充実を計る」

因に、平成13年度の前期・後期に開講された総合科目の授業本数、ならびに科目別開講本数は表1のとおりであった。また、平成13年前期に開講した総合科目は38本、後期は30本である。

総合科目は、平成8年に新しい教育システムに移って以来、「教育目的」①についても②についても具体化に向けて鋭意努力してきた。冒頭で述べたように、平成13年度は重点目標の照準を特に「教育目的」①②に当て、開発に取り組んだ。常に新しい人材を投入し、新しい試みを取り入れる。そして、年度ごとに一層の内容の充実・向上を目指して積み上げていく。これが総合科目専門部会のモットーであった。

例えば平成13度開講の『湖の環境問題』『自然科学の研究プロセス』『文化の創造と水戸芸術館』をはじめ、すでに定評のある『市民教授・特別講義』『社会人入門・特別講義』などは重点目標の①と②に充分に応え得る企画であり、いわば総合科目の目玉商品である。

しかしそのような総合科目にも、意外な問題が潜んでいることが調査を通じてわかってきた。

それは目的③「学生の知的探究心を喚起するとともに、発想力を強化し活性化させるような授業を開講する」に深く関わる問題である。言い換えるならば、眠っている学生たちの知的関心を目覚めさせ、学生たちの知的エネルギーを全開させる教授法の開発は如何にあるべきか、という問題への追求が脆弱であるということである。

学生たちは大学の教師に学術上の権威や名声ばかり

を求めているわけではない。人間としての能力や素質をどのように引き出し高めてくれるのか、を期待して彼らは待っている。そうであるなら、大学における教養教育はそれに見合うものでなければならないであろうし、またそれを目指して教養教育に携わる大学教師も真剣に意識改革と取り組まねばならないであろう。

教師がひとりりで満足していても、学生はついてこない。学生を引っ張っていく授業、学生にわからせる授業が、いま求められている。総合科目専門部会は常に「期待される教養教育」の開発研究を目指して、先駆けていきたいと願っている。

(7) 推奨授業制度の導入と総合科目授業の推薦

教養教育の開発と充実を目途として茨城大学教務委員会は、平成13年度から推奨授業制度を設けることを策定した。これを受けて総合科目専門部会は平成13年度前期に開講した授業の中から、学際性に富み、複合領域にまたがる新鮮な現代的話題を展開して学生たちの大きな関心を集めた1本を「推奨授業」として推薦。残念ながら選定委員会において採択されることにはならなかったが、参考までに「推奨授業」として推薦した『湖の環境問題』（春日清一・稲森悠平講師担当）を表3に紹介する。

表3 平成13年度／前期開講／総合科目『湖の環境問題』（担当：春日清一・稲森悠平）

推 薦 の 趣 旨	
1. 教育技術及び教育方法の特徴等 総合科目の目的の一つは、「現代社会の動向に密着した課題を捉え、問題意識を啓発するような授業を開講する」ことであり、平成13年度の総合科目の重点目標は「学際性の高い総合科目を開講する」ことであった。本講義『湖の環境問題』はまさにこの目的と重点目標に適合する内容をもった優れた授業であり、時宜をえた企画といえる。 茨城県には全国でも2番目に大きな湖、霞ヶ浦がある。しかし近年、流域の人口増加や開発行為によって湖の水質や生態系が大きく変貌しつつある。この授業では霞ヶ浦を例にとりながら、湖における環境問題を幅広く解説し、その解決策を探ることが、ねらいであった。 授業の中では、まず様々なタイプの湖の成り立ちや特性などを、日本のいくつかの湖を例にとって概説し、比較する。さらに、霞ヶ浦を取り上げ、そこではどのような環境問題が生じているのか、そして、それはいかに解決されうるのかを、オリジナルな資料を駆使して、水に関わる諸問題や湖に生息する植物や動物の群集構造から論じる。授業は大きく分けて、(1)湖の成り立ちと特性、(2)霞ヶ浦における水問題、(3)霞ヶ浦における生物群集、(4)私たちの生活と霞ヶ浦、の各章から構成されている。 授業担当者は自然科学者であるが、社会科学の分野にも造詣が深く、環境問題をグローバルな視点で語れる数少ない研究者である。学際性に富み、複合領域にまたがる新鮮なテーマを最新の実証的・実験的な検証を踏まえて平易に解説する。オリジナルなデータにもとづく説明には説得力があり、学生たちに強いインパクトを与えた。	2. 教育効果等 霞ヶ浦は茨城県を代表する名所である。この霞ヶ浦とその周辺の地域社会をめぐるトピックスをテーマとしたこの授業は、総合科目として今年度初めて登場した企画であったにもかかわらず、多くの受講生の注目を集めた。学生たちは受講終了後の感想を次のように述べている。 「いま環境問題は日本だけでなく全世界各国家の問題である。また全世界人類に注意を呼び起こさせる問題である。今よりもっと良い環境を創るために人々がこの問題に力をいれねばならない問題だと思うから、後輩や友人たちにこの授業を推薦します」 「行政への批判をもっと増やしてほしい。省庁の暗い側面に対する話も増やしてほしい」「タイなどの国際的なバイオエコの取り組みなどもからめて、マクロな視点からやってほしかった」「稲森先生はとてよかった」「普段このような先生の話聞くことができないので面白かった。特に春日先生の話が面白かった」 学生たちの知的好奇心を引き出すということは、まさにこういうことなのであろう。アンケート調査質問項目⑪「この授業を聞いて、この科目についての知識・教養や技能・技術が向上しましたか」では、実に80.5%の学生たちが「大変向上した2.5%」「向上した35%」「やや向上した43.8%」と回答しているのである。 3. その他（特筆事項） 折角良い企画で授業を立てても、担当者のキャラクターや感覚が学生に受けなくて低迷する場合もある。しかし、春日・稲森の両先生のこの授業は、熱い期待を担って、再び平成14年度も登場する。更にはどのような斬新な話題が加わり、ホットな情報が飛び出してくるか、大いに期待して待ちたい。

(8) 教官を対象とした『成績評価方法に関するアンケート調査』—教師の意識

学生を対象とした『教養教育の授業に関するアンケート調査』の質問項目⑭に関連して総合科目専門部会では独自に、平成13年度前期に総合科目を担当した全教官を対象として『成績評価方法に関するアンケー

ト調査』と点検評価を行った。この調査は茨城大学教務委員会が中心となって平成13年度に行った「成績基準の見直し作業」を受けて、総合科目の授業における「成績評価方法」に関する実態を把握しておくことが趣旨である。調査項目ならびに調査結果の集計を表4に示し、あわせて担当教官の率直な感想も集約した。

表4 総合科目アンケート調査項目および集計（回答者：28名）

担当された授業の題目を下の欄にご記入下さい		担当教官のお名前をご記入下さい		

(1) クラスサイズ（受講生数）についてお尋ねします。先生が担当された授業の場合、受講生数は如何でしたか？（次のいずれかの番号に○印をつけて下さい）

①多過ぎる	②少し多い	③ちょうどいい	④少しすくない	⑤少ない
11名	8名	8名	1名	0名
39.2%	28.5%	28.5%	3.5%	0%

(2) 先生が担当される授業の進め方や指導方法、あるいは教材や使用する機器など学習効果から判断して、どのくらいの受講生数が適当であるとお考えでしたか？（次のいずれかの番号に○印をつけて下さい）

①20人程度	②50人程度	③100人以下	④150人程度	⑤200人以上
0名	14名	12名	0名	2名
0%	50%	42.8%	0%	7.1%

(3) 今後、先生が総合科目の授業を担当して下さる時には、受講生数を現在より増やしたい（クラスサイズを大きくしたい）とお考えですか。それとも減らしたい（クラスサイズを小さくしたい）とお考えでしょうか？（次のいずれかの番号に○印をつけて下さい）

①クラスサイズをもう少し小さくしたい	18名	64.2%
②クラスサイズをもう少し大きくしたい	2名	7.1%
③現状のとおりでいい	8名	28.0%

(4) 受講生の出席状況の調べ方についてお尋ねします。（次のいずれかの番号に○印をつけて下さい）

①出欠は毎回確認した	②時々調べた	③まったく調べなかった
19名	4名	5名
67.8%	14.2%	17.8%

(5) 上記の項目（4）で「①出欠は毎回確認した」に印をつけられた先生にお尋ねします。なぜ毎回確認されたのですか、その理由を下欄にご記入下さい。

[理由] 聴かないと話にならない内容だから／毎宿題を出しその点検のため／2/3以上出席した者を評価の対象とするという規則があるため、制度を考慮して10回行った／成績評価の参考にするため／出席して話を聞くことが重視される講義だから／授業中における学生の出入りが目立ち過ぎるので。メドレー形式の授業のため一応受講生を確認しておきたい／出席状況も成績評価の対象（20%）としているため／毎回異なった事例を取り上げて読図するという授業の内容からみて、出席することが大切であるため／授業の内容がビデオなどマルチメディア教材中心なので／出席が原則であり、且つその旨、規則に明記してあるから／理解度を同封の出席票で調べたいので（調査用紙添付）／講義に出席することを重視したから／この授業の性格上、ともかく出席して話を聞いてもらう必要があるから／この授業は複数の教官が担当しており、出席を評価する上で重視しているため／出席状況を大略把握しておきたいから。父兄からの出席問い合わせなどに対処するため／更に欠席がちの学生へ出席を促すため／出席は学習の基礎である。指導者の意図を伝えるベースだから／出席し参加すること自体が重要だから／

(6) 上記の項目(4)で「②時々調べた」に印をつけられた先生にお尋ねします。なぜ時々調べたのですか、その理由を下欄にご記入下さい。

[理由] 出席者が少ない時にだけ調べ、テスト結果と照合し、理解度を高める／数が多過ぎるため毎回調べたら授業にならない／大教室では助手が出席をとるのが普通である／学生の緊張感がちがう(成績に係りなく調べることはよいことである)／

(7) 上記の項目(4)で「③まったく調べなかった」に印をつけられた先生にお尋ねします。なぜそのようにされたのでしょうか、その理由を下欄にご記入下さい。

[理由] ①大学生ともなれば行動は自己責任、自己申告であるべきと考えます。②授業内容に関心、興味を感じれば、受講するものと考えました。③その結果、生(ナマ)の新聞を教材にした授業に強い関心を示した生徒が増えていったように受けとめました／約300名の学生について出欠調査は困難／出席だけして聞いていない場合もあるし、出席したことが安心感を与えるのは良くない／受講生が多過ぎるため、出席を確認すると時間がかかり過ぎる／人数が多過ぎて調べることは事実上、不可能／

(8) 受講生の出席状況について調査された先生方にお尋ねします。どのような方法で調査されましたか？(該当する項目の番号すべてに○印をつけてください。また、④では適宜記入をお願いします)

①受講生名簿を用いて名前を読み上げ、確認した	5名	17.8%
②用紙を配布して、名前等を記入させた	11名	39.2%
③マークシートに記入させて回収し、パソコン等の機器で集計した	4名	14.2%
④その他(具体的にその方法を下欄に記入してください)	4名	14.2%

(8) ④の理由：講義終了後に、受講生一人一人に受講票を配布。この受講票を貼付しないとレポート提出を認めない／座席指定制として空席をチェックした。出欠確認後立ち席の学生を着席させた／5～6名を1グループに編成してチームをつくり、チームごとに専用の袋を用意し、その中に一人一人個人別マークシートを保管して、毎回記入する／その日の授業の感想、キーワード、小課題の解答などで／

(9) 担当された授業の成績評価の方法についてお尋ねします。(該当する項目の番号すべてに○印をつけてください)

①期末試験1回の点数で評価した	7名	25.0%
②試験を2回以上行い、その合計点数で評価した	5名	17.8%
③レポートを1回提出させて評価した	5名	17.8%
④レポートを2回以上提出させて評価した	2名	7.1%
⑤試験(1回以上)及びレポート(1回以上)の両方を加え、総合評価した	11名	39.2%
⑥出席状況についても成績評価の参考にした	11名	39.2%
⑦受講生の授業中の態度(例えば教師の質問に対する反応、興味・関心の度合い、積極性など)も評価に加えた	3名	10.7%

(10) 先生が総合科目の授業で工夫しておられること、受講生についての感想、総合科目の編成・実施方法・運営などについて、ご意見や感想をお寄せ下さい。この用紙の裏面か、別の紙に書いて下さっても結構です。

■1：多人数クラスの授業にはそれなりの工夫が必要と考えます(出欠、話のまとめ方、声の大きさ、...)。標準的な留意点をマニュアル化して、多人数クラスの担当者に周知するようにしてはどうでしょうか？

■2：ビデオ、プロジェクターなどを用いて、できるだけ学生にあきずに興味をもってもらえるよう努力した。そして、毎回宿題を出しきめられたノートに解答させた。

■3a：1日10時間連続講義はかなりきつい。1日6時間程度が限界では。学生は興味を持つ者と全く興味を示さない者にわかれる。特に携帯電話に熱中する者、眠り込む者など授業に関心のない者がはっきり見られる。授業は生物のスライドなど多用し、生物に興味をもってもらおうよう心掛けてみた。全ての生き物が湖の環境変化に関係することをできる限り多くの例を示し、話した。

■3b：霞ヶ浦の水環境修復を主とした上で、このような富栄養化湖沼は世界各地に存在し、水源の危機が叫ばれて

いる現況をふまえ、日本が対策技術、評価でリーダーシップをとることが重要で、それが日本の国力を高める上で必要なことを教育としての授業を工夫して行った。なお、受講生は真剣に授業を受けており、聴講態度もよかったといえる。総合科目についてはこのままでよいと思われる。

■4：①家畜と人間の係り合いについて多角的に理解できるような授業内容の形成に努めている。②動物の命の尊さ、肉食と肉食の文化の違い、人間のパートナーとしての動物の重要性、生体防御のしくみや生産から流通消費までにおける保健衛生等に関する認識が高まったとの感想が得られており、興味をもって受講していると思われる。③上記[(10-1)]のことからできるだけ多方面にわたる専門分野からのスタッフによる講義を実施している。

■6：今年度から初めての講義のため若干の戸惑いはあったが、学生たちと楽しい時間を過ごすことができた。教科書とは違った「教養授業」を進めたいとして「脱教科書」

を学生に宣言し、「新聞を読む」というサブテーマを生かすため、毎回の授業で生（ナマ）の新聞、新聞記事のコピーを活用した授業展開を心掛けた。／教科書に慣れた学生たちは「教科書がない」という不安を抱いたようだが、全員（83人）に資料や記事のコピーを配り、例えば各新聞社（朝日、読売、毎日、茨城）の「社説・論説」や1面の「コラム」などの読み比べ、「世論調査」の結果と解説にみる各社の編集（経営）方針の微妙な違い、事件記事（報道2次被害）の具体例など、実際の新聞記事を教室に持ち込んだことにより、学生の関心が次第に高まっていく様子がわかった。／4月、授業を始めるに当たって、学生に対して「新聞を読んでいるか」「新聞の定期購読の有無」を問いかけたところ、大半が「新聞を読んでいる」「購読していない」という状況だった。ところが、前期終了間際の、授業後の学生とのコミュニケーションの中で、「新聞の定期購読を始めた」という学生が複数おり、ある種の感動を覚えた。潜在的に活字メディアへの関心があり、「新聞の面白さ」を伝える必要性を感じた。／学生数（83人）が多かったこと、前期15回という授業回数のため、時間をかけて学生とのやりとりをしながらの授業展開が十分にできなかったのが心残り。／年間通しなど、回数の増加があれば、「新聞を学ぶ」だけでなく、ニュース・情報のとらえ方（情報収集）、情報の分析・評価、情報の伝え方（文章の書き方、レイアウト）といった情報学習を進めて、学生による「新聞づくり」に取り組むことができる。現実には、「新聞」をテーマに授業を進めていることを聞きつけた日刊紙3社から、「授業で新聞をつくるなら、年間数回、1ページを提供してもよい」との打診があった。一般の大手紙などに、「茨城大学生が授業で制作した1ページ」の掲載が可能なわけで、機会があればチャレンジしたい。

■7：①メドレー形式のため、様々な分野の素材を提供できるはずだが、実際は茨城県のことが中心になってしまっている。この点はもう少し改善したいと思う。②受講生の学力低下が問題ではないか。日本史の知識がある（高校レベル）と思って講義していると、全く知らないという反応が返ってくる。また、授業中の出入りが多いようだ。途中でエスケープするくらいならば、最初から出ない方がよいのではと思われる。

■8：論文を読ませ（全員に）、特に関心の強い学生には、後日20～30分程度発表させて討論した。VTRを活用し、理解を深めようとした（しかし、学生は興味を示すものの、必ずしも理解の向上にはむすびついていないように感じる）。

■9：受講生が多過ぎて、工夫の余地がなかった。100人程度の規模で学習できるように配慮していただきたい。

■11：TAを5名つけてほしい。毎回でもレポートが出せる。200名以上でもマルチメディア対応の教室（例えば、総合情報処理センターMM1&2のような）があれば、この科目の性格上、授業としては成り立つ。1年生なので全ての内容のみこませる必要はなく、全般的な見方を養えばよい授業である。

■12：日本経済は政府の計画誘導によって高度成長を達成した。民間部門は資金調達を預金取扱金融機関の融資にもとめ、株式の持合構造が成立したが、政府部門の拡大と介入が過剰になり、改革がさげばれている状況を発生する事象と、政府の政策対応という点から説明する。

■13：講義室（共通27）が細長く、OHP、液体プロジェ

クターでの講義は後方からは判断不可能であった。講義室の定員いっぱいまで履修させると不都合が生じる。講義室にプロジェクター、そして延長コードを備え付けてほしい。7月の講義は暑くて学生は大変であった。

■14：火曜の5～6限に総合科目（前期）、7～8限に自然系科目の「化学」を通年でやっている。2コマ連続しての授業はどうしてもペースを下げざるをえない。担当教官の都合によって、少なくとも1コマは空けて講義できるようにバンド選択の自由を与えてほしい。教養科目の総合と自然を2コマ続けて行っている教官が私以外にもいれば配慮が必要。

■15：次の授業の理解を助けることを意図した宿題を出し宿題をもとにした小テストを毎回やることにしている。期末試験は、復習中心のテストにしている。とにかく家で多少なりとも毎回勉強させる工夫が必要と思われる。

■16：受講生の教室における学習意欲が専門科目の授業と比べ低い。授業に参加する態度が見られない学生が多く、単に単位や出席のために履修している様子がみえる。教養科目の授業の方法をもっと工夫しないといけないと感じた。センターに出席調査のためのカード（小さい用）が備えられていない。出席カードを是非備えてほしい。

■17：①同封の講義票を毎回回収し、出席と同時に学生の理解度を確認した。「わからない」という意見が多い場合、説明を繰り返し行うこともあった。②話題は考えてみようという意欲が湧いてくるものをできるだけ選んだ。前半で使った話題はホームページ（数理パズル）に公開してあります（<http://jubilo.cis.ibaraki.ac.jp>）。

■18：授業本数が少なく、学生の予想を満していない。商品（授業）はお客の要求（学生数）より多くて、始めてマーケット調査が可能である。戦中の配給制度（単位必）で、アンケート調査は、特高警察の不満分子調査と同である。このような調査を行うひまがあったら、授業を担当するのが先である。このような教育体制の大学は必ず滅亡の路をたどるでしょう。

■19：抽象的な内容の説明に終始せず、具体的な例をあげて学生の興味を引き出した。OHPを多用した。ノートを取り易くするために講義内容のレジュメを配布した。

■20：①受講生は文系、理系を問わないことにしているので、数式を用いることを避けている。しかし実際の受講生はほとんど理系（98%は理系）なので、一部の学生にとっては退屈なものになってしまっている。ある程度、文理に限定にする方が授業は行い易いが、それは総合科目の趣旨に反する気もするので、現状のまま行くしかないと思う。②最初にクラス分けを行うが、これに関して事前に備調査及び抽選を行うことはできないのでしょうか。

■21：授業の説明の中で、なるべく実例をあげ、画像（OHPやスライド）を示して理解を高める試みを行っている。また、質問をすることで、学生の反応をみている。

■22：受講生が多過ぎるので、授業形態はおのずと講義中心になってしまう。プリントを配布し、授業の効率化と理解の促進を計るよう努力した。毎回、2000枚以上のプリントを教務の方をお願いすることにもなり、来年はぜひ50人限度の授業にしたい。

■23：教室の定員を大幅に超える受講希望者があり、約100人に受講をとりやめてもらった。この経緯から、受講を受け入れた学生にはきちんとした出席を求めたかった。

■24：論文作成の手法を講義内容に平行して盛り込んだ。

データ収集(図書館でグループワークさせた。IT, 新聞縮刷版利用も)→分析, まとめ, サマリー(抄録)作成→考察のしかた(切り口の研究)→結論とレポート形式の仕上げ。グループ学習は成功した。オリンピックの特長や大会と政治・経済の関連について伝えることができた。スーパー人間ともいえる選手(スター・アスリート)の人柄を研究できた。苦情:「人文15番教室」を使用したマイクの調子がわるく苦労した(困りました)!!

■25: 全受講者に授業に参加(関連問題を理解したり, 実

体験をしたりすること)してもらえるよう工夫しているが, 積極的な学生は少ない。

■26: 問題を提示し, それが問題であることを自覚させ, その問題を論理的にどう追求するかを考えさせ, そこから何を発見できるか, のプロセスをとる。学生に問題思考のプロセスを体験させ, 新たな視野を開いてもらうことを目指す。強い関心を持つ学生もいるが, 関心を持たない無思考の学生もいる。

(9) 重点目標の達成度—学生の意識と教師の意識

[学生の意識]

学生を対象にしたアンケート調査の項目分析によれば, [⑩: この授業について, 予習・復習を行いましたか] に対して, 「5: 行っていない」が50~80%を占める。しかし全体の10~20%は少しだけ予習・復習に時間をあてがっている。「予習・復習に時間をあてがっている」とするグループは, ⑦「理解」の項目に対しては「2: 良く理解できた」, ⑩「テーマへの興味」の項目に対しては「1: 大変興味をもてた」, また⑪の項目に対しては「2: 向上した」と回答したグループと共通性があるように思われる。すなわち「テーマへの興味」をもち, 「良く理解」できるように「予習・復習」等の工夫をしたその結果, 「知識・技能の向上」があったと考えるべきであろう。

項目分析 [⑬: あなたは, この授業をよく理解するためにどのような努力をしましたか] に対しては, 「6: 何もしなかった」と答えた者が圧倒的に多数で, 全体の50~60%を占めている。続いて「3: 図書館の本で調べた」「4: ノートや配布資料を良く復習した」「5: 友達と話して理解するようにした」が少しずつ見られる。大学生らしく自主学習ができる少数の学生に対して, 自発的な学習をあまり得意としない学生が多く存在することに留意し, こまめに課題を与えて報告してもらうとか, 参考書を指定して読んできてもらい発表してもらう等の「授業時間外の学習」に向けての指導も必要であるように思われる。

以下は「アンケート調査(裏書き)」の中に反映された学生たちの声である。

●「この授業は推薦できません。この授業のお陰で数理学について興味が完全になくなった」「さっさと教

職やめて二度と教壇にたつな」「板書が練れてない」

●「声が小さくて何をしゃべっているのか, よくわからなかった」「教えようというやる気が2人とも感じられなかったので, もっとやる気を出してほしい」

●「字が汚くて読めない。声も小さ過ぎて聞き取れない。私語が多くて回りがうるさい。シャキッと授業しろ」「何をしゃべっているのかわからなくて, 何をやりたいかすらわからなかった」

[教師の意識]

■「学生は興味を持つ者と全く興味を示さない者にわかれる。特に携帯電話に熱中する者, 眠り込む者など授業に関心のない者がはっきり見られる」

■「受講生の教室における学習意欲が専門科目の授業と比べ, 低い。授業に参加する態度が見られない学生が多く, 単に単位や出席のために履修している様子がみえる」

■「教養科目の授業の方法をもっと工夫しないといけないと感じた」

■「学生に問題思考のプロセスを体験させ, 新たな視野を開いてもらうことを目指す。強い関心を持つ学生もいるが, 関心を持たない無思考の学生もいる」

■「受講生の学力低下が問題ではないか。日本史の知識が(高校レベル)と思って講義していると, 全く知らないという反応が返ってくる。また, 授業中の出入りが多いようだ。途中でエスケープするくらいならば, 最初から出ない方がよいのではと思われる」

■「特に関心の強い学生には, 後日20~30分発表させて討論した。VTRを活用し, 理解を深めようとした(しかし, 学生は興味を示すものの, 必ずしも理解の向上にはむすびついていないように感じる)」

■「授業のために自主的に参考書を探して読む。そして自らが知識の輪を広げ、教養を深めていく姿勢があってもいいと思うが、レポート作成という切羽詰まった時がないと本は手にしない。タバコは買えるのにテキストは買えない。したがって授業では、こうした学生にどうやって動機づけを与え、知的関心を触発させるのか、まず第一に問われることになる」

学生と教師の意識を上記二つのアンケート調査から対比的に読み取ってみると、これらは極一部の意見であり感想ではあるが、双方にかなり大きな意識のズレがあることがわかる。教師の心、学生知らず。学生の心、教師知らず。ここに今後の、茨城大学における教養教育の課題が潜在しているように思われる。

先生方はあの手この手で、理解してもらうための工夫をしている。しかし半数近くの学生たちは、授業の技術に不満をもっている。教師は学生の自発的な学習意欲を期待し、学生は教師の指導力の向上に期待する。茨城大学にも優秀な学生が沢山いることは周知のことだが、どのレベルの学生に焦点をあわせて指導すればいいのか、努力不足の学生に合わせると学力の低下は必然的に起こってくる。

成績評価について学生たちは概ね納得していると判断できる。しかし成績評価の中に出席点を考慮してほしいという希望を持つ学生も数多くいる。ここが大クラスの多い総合科目の苦心するところであるが、今後は大クラスでも簡便に実施できる<マークシート+パソコン>による処理方式の導入が必要になってくるものと思われる（すでに5クラスでこの方式が実施されている）。

成績評価に関連して、複数の教官が講義する場合、個々の教官がそれぞれ別にテーマを与え、しかも提出するまでの期間が短いのは困る、という苦情も出てくる。またオムニバス形式の場合、教官が交代する度に

がらりと話の内容が変わってしまい、連続性がなくなっているし、レポートの提出日等についての調整不足もあるから、担当者相互に連絡を密にしてほしいという批判もある。

総合科目の重点目標の一つであった「バーチャル・キャンパス統合計画」に呼応した3キャンパス連携による授業の開設に向けて総合科目専門部会では検討していたが、①毎週定時の授業を半期続けて実施するためには3つのキャンパスのそれぞれの教室に補助要員が付き、出欠の調査、機器の操作を行う必要がある、②カメラで板書されたものを写し取るだけでなく、OHPやパワーポインターで画面に鮮明に提示できる教材の作成が前提となる、③一方通行の講演方式であるなら実施しやすいが、双方向の通信の効果を引き出す授業が期待されている、などの理由により、平成13年度は見送りとなった。しかし平成14年度には、教育学部教官をコーディネーターとする授業『自然科学史』（集中授業方式）が水戸地区⇄日立地区⇄阿見地区の3キャンパスを結んで開設される見通しである。

総合科目専門部会は「教育目的」の実現に向けて、これまでもカリキュラム開発に積極的に取り組んできたが、おわりに、その成果の一端を掲げておく。

- ①「21世紀社会への提言」（平成8年度開講：茨城県知事、水戸市長、県会議員、企業の代表者が講義）
- ②「現代まちづくりの群像」（平成8年度開講：県内の若手企業家、まちづくりの会代表が講義）
- ③「研究する喜び」（平成9年度開講：茨城大学学長、学部長が交代で2回ずつ講義）
- ④「市民教授・特別講義」（平成8年度以降開講：日立市内の「いきいき百年塾」から専門家が講義）
- ⑤「社会人入門・特別講義」（平成8年度以降開講：社会人となって活躍している先輩等から、就職のための職場案内を中心に連続講義）

ニュースレター「ローザ・ブルムラ」の軌跡

No. 1 (平成8年7月)～No. 7 (平成10年1月)

Rosa Plumula

ローザ・プルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター №.1

大学教育研究開発センターニュースレター第1号をお届けします。

このセンターは、教養科目の授業を円滑に進行するために、各学部から併任された先生方で組織されている機関です。今年の5月に発足しました。

センターではニュースレターを年4回刊行していきます。センターからのお知らせとともに学生諸君の教養科目に関する生の声を取り上げていきます。教養科目についてなんでも結構、ドンドン投稿してください。投稿先は教養教育第二係です。

このニュースレターのタイトルはラテン語で「Rosa plumula」で、「薔薇の若芽」を意味します。茨城大学の校章はノイバラ (Rosa Multiflora)。春から初夏にかけてスクスク成長するノイバラの若枝の勢いを、本学に入学された1年次諸君に期待して命名しました。(谷口)

知 っ て る ？ ！

後学期は科目選択に「予備届」が必要！

分野別科目と総合科目の選択方法が変わります

前学期には、分野別科目や総合科目などの授業科目の選択のさい、予想外の混乱を生じ、学生諸君に多大な迷惑をかけました。当センター、企画室ともども深く反省しているところです。後学期も同様な混乱の発生が予想されますので、次の手順で授業科目を選択してもらうことになりました。

夏休み前に「履修科目届けの予備届」を提出していただきます。その結果、受講希望者が定員をオーバーしたクラスは、収容定員の大きな教室に変更します。それでもまだ定員をオーバーしている場合、受講希望者の中からコンピューターでランダムに受講者を決定します。各授業科目の受講者を後学期開始前に掲示しますから、掲示に従って授業に出席してください。

希望した授業科目を受講できない方は、同時に掲示されるまだ定員に満たない授業科目の中から希望授業科目を選択して出席してください。

下記を熟読して、ご協力ください。不明な点は企画室教養教育第一係の窓口で相談におうじます。

なお、「予備届」を提出しないと、希望する授業科目を受講できなくなる場合があります。かならず夏休み前に提出してください。

予備届の必要な科目は？

- ① 分野別科目 — 人文の分野 (水曜日2講時)
- ② 分野別科目 — 社会の分野 (金曜日2講時と3講時)

③ 分野別科目 —— 自然の分野（火曜日 4 講時、木曜日 2 講時と 3 講時）

④ 総合科目 —— （火曜日 3 講時と 5 講時）
「平成 8 年度教養科目履修案内」19 ページを参照してください。

予備届を提出しましょう

① 提出期限：7 月 15 日(月)～8 月 6 日(火)

② 提出先：1 年次生と水戸地区各学部の 2 年次生
以上は企画室教養教育第一係

工学部・農学部 2 年次生以上は各学部教務係

③ 提出書式：「平成 8 年度教養科目履修案内」23 ページに記載されている「履修科目届」様式と同じ用紙を「②提出先」で配布します。

④ 記入要領：「平成 8 年度教養科目履修案内」23 ページを参照してください。

⑤ 注 意：前学期、総合科目を 1 つも受講できなかった学生は、「②提出先」で別用紙を受け取り、希望する総合科目の授業科目を記入して提出してください。優先して 4 単位まで受講できます。他の科

目については通常の方法で「予備届」を提出してください。

各授業科目受講者の掲示は 9 月 27 日(金)

定員オーバーした授業科目とその授業科目を受講できる学生を、9 月 27 日(金)に掲示します。また、定員に満たない授業科目と受講可能学生数も掲示します。

掲示を見てからどうするの ……

希望授業科目が受講可能になった学生は、10 月 1 日から受講開始してください。

希望した授業科目を受講できなかった学生は、掲示を参照して、まだ定員になっていない授業科目の中から希望する科目を選択し、そのクラスに行き、担当教官の指示にしたがってください。

選択する授業科目が決定したら、「平成 8 年度教養科目履修案内」23 ページ以下にしたがって、10 月 16 日までに正式に「履修科目届」を提出してください。

後学期に追加開講される総合科目及び分野別科目

後学期に総合科目 3 本、分野別科目 3～4 本の授業科目が追加開講されます。分野別科目 3～4 本の詳細は後日、掲示によりお知らせします。総合科目 3 本は次の通りです。「予備届」提出するさい考慮に入れてください。

総合科目

(時間割コード) 1760 (科目名) 人間文化論
(授業科目) 「戦後 50 年、今私達の社会は — セカンドルネサンス」

(担当教官) 古井・小野瀬・結城

(授業の概要) 戦後 50 年の高度成長とはなんであったか、そのあとセカンドルネサンスともいべき動きが起こっている。最初に古井がこれについて述べる。次に水戸市の〈にんじん村〉にみられる新しい人間像を小野瀬が例示し、このあと結城が藤代町小貝川流域での「まちづくり」を紹介する。終わりに古井がこれらを日本文化の動き、流れに位置付ける。

(時間割コード) 1706 (科目名) 学際的科目
(授業科目) 「研究する喜び」

(担当教官) 橋本学長 各学部長

(授業の概要) 橋本学長を始め人文学部長、教育学部長、理学部長、工学部長、農学部長がそれぞれの専門の立場から、学問をするとはどんなことなのか、それぞれの半生をふりかえりながら研究の中に溢れている喜びについて語られます。

(時間割コード) 未定 (科目名) 人間文化論
(授業科目) 「健康科学」

(担当教官) 未定

(工学部 B コース 2 年次以上対象)

キャンパス情報

日立キャンパスから

日立キャンパスでは、8階建てで一際目立つシステム工学科棟が建替えられ、都市システム工学棟が整備される予定になっている。各学科の研究棟のほかに、日立キャンパスには共同研究開発センターという県内の他大学にはない施設があり、情報処理センター・図書分館・電子顕微鏡室・実習工場・体育館など教育・研究設備が整備されてきた。図書分館には、マルチメディアコーナーが設けられており、分館全体は夜8時50分（土曜日は4時50分）まで利用できる。

更に、3年前に運動場が整備された。芝生と夜間照明のグラウンドは学生にとって魅力的なものになっている。車両は、駐車場にゲートが設けられ許可された車しか入構できないように規制している。万が一の災害等の救助活動の妨げにならないようにという観点からすれば車止めも本来設置するのは望ましくないことを理解して、違法駐車がないようにしたいものである。

数年前の日立の山火事から派生した団地の火災で迅速な消火活動が行われなかったのは、路上駐車車の車が邪魔したからだという教訓を危険がいっぱいの『工学部』住人は十分に認識する必要がある。

(村野井)

阿見キャンパスから

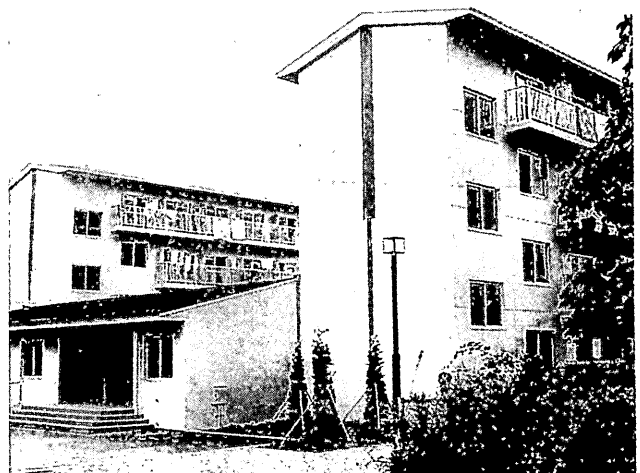
二棟からなる学生寮（霞光寮）が完成し、7月1日から新寮での生活が始まりました。収容定員は82名で、入寮者は男子33名、女子37名、留学生男子8名、留学生女子4名です。国立大学で初めてバス付きの個室で（もちろんトイレ、キッチン、ベット、電話機が付いています）内部施設として、談話室、ライブラリーおよび洗濯室があります。これでなんと寄宿料は月額3,300円（光熱水道料・電話代は自己負担ですよ）。旧霞光寮から研究棟までは徒歩30秒でしたが、新寮からは緑豊かなキャンパスを歩いて3分で講義棟・研究棟に行けます。

歴史ある旧霞光寮（旧海軍航空隊司令部）はすでに取り壊されました。

なお毎週、木曜日午後4時まで、水戸キャンパスの共通教育棟1号館1階の工学部・農学部学生相談室で学生相談に応じています。履修、進路、生活上の問題

など、どんな相談でも結構です。学生相談室を活用してください。

(白井)



知って欲しい私の主題別ゼミナール

「自ン分学・非学問的学問入門」

後藤秀文（人文学部，1年）

桜のつぼみが希望と不安と共にほころび始めた春から半年間、この主題別ゼミナールに参加して私が感じたことを紹介します。

聞くところによれば、英文を訳して諸外国の文化的背景を探ったり、作文を書いたりと教官によって内容は多岐にわたるようですが、私のゼミでは主に次の二つのことを中心に進めました。

一つ目は、指定された三冊の本を読んで、自分たちに思った感想を出し合ったこと。国際化という語がひとり歩きしている昨今ですが、日本と主に西洋を知るための本を読みました。普段、本に接する機会はなかなかないようですが、この三冊から今までまったく知らなかった歴史や文化を知り得たと思います。

二つ目は、大学周辺の写真を個人個人で撮ったこと。写真を撮る、なんてことは余りありませんね。それだけにみんな個性の強い写真を撮って、発表しました。建物や花、学内や郵便局員、友人や幼稚園生（友人の幼稚園生ではないと思います）など思い思いの写真は、バラエティーに富んでいておもしろかったです。

主題別ゼミナールは他の教育科目と違い、自分たちで進めていくゼミですから、暗に主体性が求められます。

それはゼミだけでなく、これからの学生生活にも必要になるものではないかと感じています。

「サイエンスコミュニケーションスキル」

高柿大輔（教育学部，1年）

「えっ、またレポート？」

他の学部学科はどうなのか知らないが、我々のコースはレポートが多い。大学というのはこういうものかもしれない。しかし、そうは思っても簡単にこなせるものでないということは確かである。

毎週押し寄せるレポートの大群に、私は耐えがたい苦痛を感じるが、なるべく早く理系として上手にレポートを書けるようにならなければならないという心境もありなんとかやっている毎日である。

主題別ゼミナールでは、レポートを書くということが一つの大きな課題になっている。

ある課題について自分で図書館で文献を捜してレポートを書くため、前半では図書館に行き、本の探し方を懇切丁寧に教えて頂いた。後半では、実験の心構え、天秤や遊動顕微鏡といった理科実験に使う基本道具の原理や使い方、実験レポートの書き方を学ぶ。専門教科の物理学実験と平行して学べるので、非常に効率的で良い。

要するに、主題別ゼミナールでは、実験観察・資料、考察・レポートの流れを大略的に学べる。

高校までレポートなどを書いたことがなかったので、当初は実験や資料を集めても上手にまとめられずに大変であった。しかし、レポートは何回も書いて覚えるものであり、中身のある授業であるので、非常に満足している。



V o i c e

「入学はしたが」

徳田枝里子（農学部，1年）

1. 授業の選択について

選択の幅が狭いと思った。もっと自分の好きなように自由に授業を組むことができると思っていたので、余りにガッチリと決まり過ぎているように感じた。

単位を落とさないためには、とても良いと思うがそのために自分の余り興味のない授業を取るはめとなり、1時間半という時間が苦痛となり、しまいに

は授業にでたくなる。もう少し選択の幅を広げてほしかった。

2. 授業のクラス分けについて

よくないと思う？

自分の希望の場所についてガイダンスを聞くのだが先生によってその長さが違い第一希望がだめで第二希望の場所にいったらもう教室には、誰もいなかったということがあった。私の友達は、④の印を三つも押された人がいた。

そうになると、もうやる気がなくなる。外国語のクラス分けのような方が良いと思った。

掲 示 板 コ ー ナ ー

学生番号ってなに

それは、右にある説明を読めば明快に解ります。

9 6	L	1 0 0 1	G
①	②	③	④

①は、入学年度とし、西暦の下2桁を表す。

（例 1996 は 96）

②は、学部記号とし、次の記号で表す。

人文学部…L

教育学部…P

理学部…S

工学部…T

農学部…A

③は、個人番号

④は、電算機処理のためのチェックディジットである。

自分の担任を知ってますか？

学生生活で様々な問題に直面した時、それを自分自身の力で解決しようと努力することは、とても大切なことです。自分の努力だけでは解決できない問題について、一人悩んでいて時間と労力を消耗するのは好ましいことではありません。そのような時には教官に助言を求め、その助言を参考にして解決の方向を探るのが賢明なやり方と言えます。

学生の迷いや悩みの解決に援助を与え、学生生活をより豊かに過ごしてもらうために必要な助言を与えるための体制として、学生担任制を設けております。

また、休学、退学等の願い出や日本育英会などの奨学生の申請に当たっては、担任教官との面接や必要な助言を受けたうえで申請することになっています。

平成8年度の学生担任教官は、6ページのとおります。

なお、工学部及び農学部の1年次生に対しては、学生が所属する学部の教官が担任する正担任以外に、副担任として水戸地区学部の教官が緊急時にお世話することになっています。

上記の工学部及び農学部1年次学生の相談のため工学部・農学部の学生担任教官が7ページの表の時間帯に学生が来るのを、共通教育棟1階にあります学生相談室で待ってますので気軽に来室してください。

平成 8 年度入学者学生担任表

平成 8 年 4 月 9 日

学部	学 科・コース・課 程	正 担 任	補 助 担 任	副 担 任
人文学部	人 文 学 科	相澤 敬久・伊藤 哲司 大久保 幸郎・上田 武 大畠 一芳・神田 大吾		
	社 会 科 学 科	東 敏雄・澤田 利夫 根本 昭二・田村 武夫 守屋 孝彦・徳江 和雄 朝野 洋一・今橋 盛勝 佐藤 恵一・奈倉 文二		
	コミュニケーション学科	糟谷 政和・鈴木 健		
教育学部	学校教育教員養成課程	国 語	田 口 守	
		社 会	中川 浩一・早川 唯弘	
		数 学	工 藤 研 二	
		理 科	吉澤 勲・大辻 永	
		音 楽	佐 藤 篤	
		美 術	島 田 裕 之	
		保 健 体 育	尾 形 敬 史	
		技 術	永 島 利 明	
		家 庭	大 竹 は る み	
		英 語	市 川 真 理 子	
		教育科学（教育学）	新 井 孝 喜	
	養護学校教員養成課程	篠 田 晴 男		
	養護教諭養成課程	水 野 有 武		
	情報文化課程	小 島 秀 夫		
	総合教育課程	松井 宗彦・木村 競		
理学部	数 理 科 学 科	菅 野 正 吉	堀 内 利 郎	
	自然機能科学科	平 山 昌 甫	金 子 正 夫	
	地球生命環境科学科	高 橋 正 樹	堀 良 通	
工学部	機 械 工 学 科	鴻 巣 眞 二	飼佐川憲彦 飼鴻巣眞二	渡邊 邦夫（人文）
	物 質 工 学 科	久 保 田 俊 夫	飼友田 陽 飼市村 稔	梅田 武敏（人文）
	電 気 電 子 工 学 科	真 瀬 寛	池 畑 隆	井島 宏幸（人文）
	メディア通信工学科	村 野 井 徹 夫	赤 羽 秀 郎	鄭 基成（人文）
	情 報 工 学 科	上 田 賀 一	大 瀧 保 広	森 啓（教育）
	都市システム工学科	井 上 亮 介	飼三村信男 飼野北舜介	田中 茂穂（教育）
	システム工学科 Aコース	米 澤 保 雄	別 役 廣	松井 宗彦（教育）
農学部	” Bコース	中 野 博 民	佐々木 豊	
	生 物 生 産 学 科	月 橋 輝 男	仲 根 健	柳田 昭平（理学）
	資 源 生 物 科 学 科	高 村 義 親	丹羽 勝・堤 将和	堀 良通（理学）

㊦ (1) 正担任は、それぞれの学部の教官が学生の支援に当たる。

(2) 補助担任は、それぞれの学部の教官が正担任と共に学生の支援に当たる。

(3) 副担任は、工、農学部1年次生の緊急時に対応するため水戸地区学部の教官が支援に当たる。

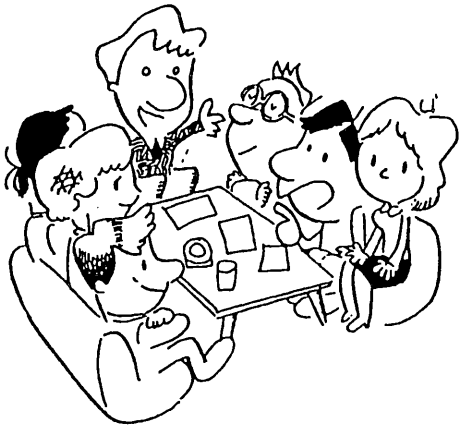
工・農学部学生相談室メンバー

工 学 部

期別	曜日	時 間	担当学科	教 官 名	期別	曜日	時 間	担当学科	教 官 名
前期	月	12:00～12:30	電気電子工学科	間 瀬 寛	後期	月	13:50～14:20	機 械 工 学 科	鴻 巣 眞 二
		17:30～17:45	情 報 工 学 科	上 田 賀 一			17:30～17:45	情 報 工 学 科	大 瀧 保 広
	火	10:20～11:20	都市システム工学科	三 村 信 男		火	15:30～16:00	システム工学科	佐々木 豊
		12:00～12:30	物 質 工 学 科	友 田 陽			17:30～17:45	システム工学科	佐々木 豊
	金	10:00～10:30	メ デ ィ ア 通 信 工 学 科	赤 羽 秀 郎		金	10:00～10:30	物 質 工 学 科	市 村 稔
		12:00～12:30	メ デ ィ ア 通 信 工 学 科	赤 羽 秀 郎			10:20～11:20	都市システム工学科	野 北 舜 介
		13:50～14:20	システム工学科	別 役 廣			13:50～14:20	メ デ ィ ア 通 信 工 学 科	村野井 徹 夫
		15:50～16:20	システム工学科	別 役 廣			15:50～16:20	メ デ ィ ア 通 信 工 学 科	村野井 徹 夫
		17:30～17:45	機 械 工 学 科	佐 川 憲 彦			16:00～16:30	電気電子工学科	池 畑 隆

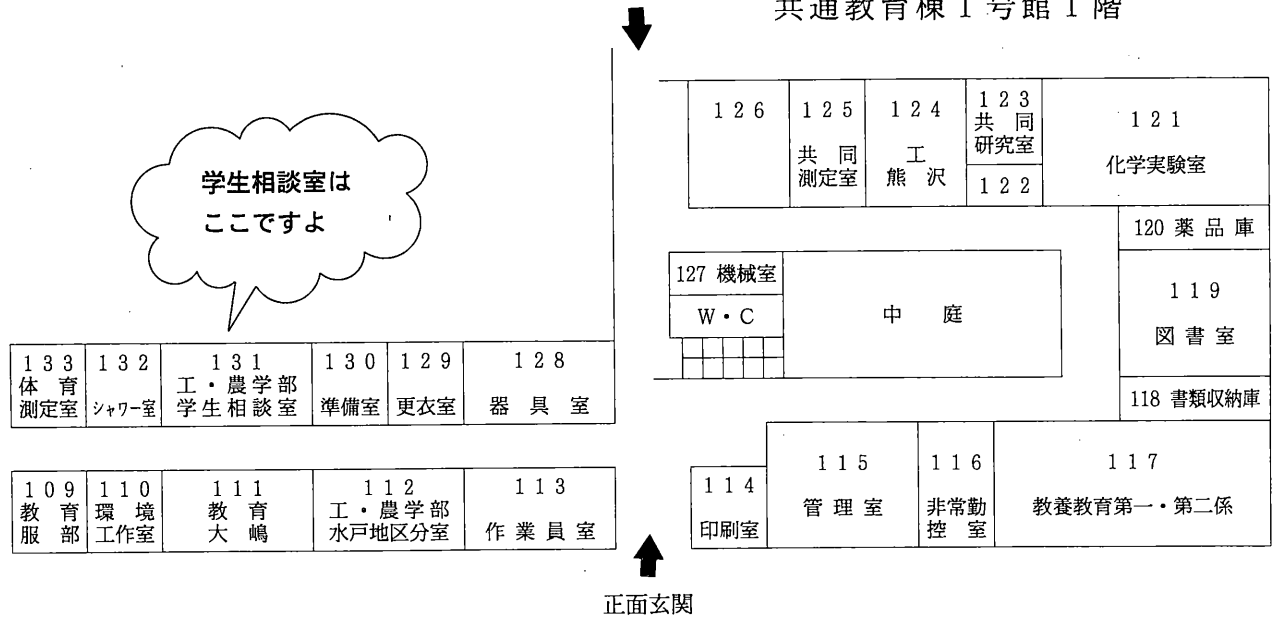
農 学 部

期別	曜日	時 間	担当学科	教 官 名
通年	木曜日	10:30～12:00	生 物 生 産 物 生 資 源	仲 根 健
		13:00～16:00	生 物 生 産 物 生 資 源	仲根 健男親 根橋 輝義 月高 村義



- ① 上記の曜日、時間外にも電話等での相談を受けますので
必要の場合には、教養教育第二係に申し出てください。
- ② 相談室の場所：共通教育棟 1 号館・1 階
【工学部・農学部学生相談室】

共通教育棟 1 号館 1 階



教 養 教 育 N O W

平成8年度教養科目授業本数は何本？

教養科目は何本くらい開講されているか知っていますか。

右にその内訳を掲載します。膨大な数ですね。これでも科目によっては不足しています。来年度はもっと本数を増加するようにセンターでは各学部呼びかけしています。工学部、農学部の情報関連科目は2年次に開講されますから、この表には含まれていません。また、各学部で開講する主題別ゼミナールも入っていません。

右のリストで（ ）内は非常勤講師の担当本数です。健康・スポーツでは授業形態が複雑ですから、授業本数で非常勤講師の担当本数を表示できません。それで＊印になっています。

科 目	本 数
英 語	119 (78)
ド イ ツ 語	46 (31)
フ ラ ン ス 語	17 (7)
ロ シ ア 語	6 (6)
中 国 語	26 (17)
朝 鮮 語	5 (2)
ス ペ イ ン 語	4 (4)
日 本 語	10 (4)
健康・スポーツ	106 (＊)
情 報 関 連	23 (5)
人文の分野	64 (6)
社会の分野	62 (3)
自然の分野	64 (5)
総 合 科 目	48 (5.4)

つ ぶ や き

5月に発足した大学教育研究開発センターのニュースレター第1号をお届けいたします。編集にあたっては、「一年次学生と教職員を念頭においたセンターからの情報発信のチャンネル誌」になることを目指しました。そのためには、まずは①読み易い、②読んでおもしろい、③役に立つ情報も含まれている、ことなどが大切と考えた結果、このような内容になりました。このニュースレターについてのご意見を編集部に頂ければ幸いです。また、今号でも3名の一年次生の方々に寄稿頂きましたが、これからも学生諸氏や教官各位にもおおいに寄稿して頂きたいと願っております。

このニュースレター巻頭の“Rosa Plumula”は教育学部の鈴木昌友先生と吉田昭久先生にお教えいただき、それを同学部の島田裕之先生にデザイン願ったものであります。いまだこのニュースレターもPlumula（若芽）ではありますが、ゆっくりと着実に枝を拡げてゆければと願っております。

(H.O.)

発 行 日 平成8年7月
 発 行 者 茨城大学
 大学教育研究開発センター
 水戸市文京2-1-1
 029(228)8416〔教養教育第二係〕

Rosa Plumula

ローザ・ブルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター №.2

大学教育研究開発センター（以下「センター」）のニュースレター「ローザ・ブルムラ」第2号では、教養科目の授業を受講している学生諸君の協力の基に実施した、《教養教育に関する基本調査（Ⅰ）》の結果のうち、学生、教職員の皆さんに早く知らせる必要があると思われる部分を掲載いたしました。学生諸君からなかなか手厳しい意見や批判が寄せられ、「センター」としては「襟を正して」来年度の課題に向かうべく検討を開始しております。なお、12月には後学期の調査を実施いたしますので、学生、教職員の皆様の御協力を再度お願いいたします。

（吉田）

「後学期が始まるよ！」

教養科目に親しむ法

夏の間はポプラの葉音も聞こえる程閑散としていたキャンパスに、いつものにぎやかさが戻った。前学期の試験期間を文字どおり脂汗を流し、掌に汗を握って過ごした諸君には、「読書の秋」・「灯火親しむ候」が待ち遠しかったに違いない。しかし、短い秋を有意義に過ごすにはそれなりの心構えが必要だ。

そこで、前学期の教養の授業に馴染めなかった諸君には、この際、授業をちょっと見直すことをお勧めしたい。一口に教養科目といっても、その内容や目的が異なっているばかりでなく、授業のやりかたも教官によりまちまちなのはご承知のとおり。そこで、受講する諸君もその特徴をつかんで履修することが肝要となる。

外国語科目では、予習・復習・反復練習が大切で、教科書の内容を暗記するくらいの努力が必要だ。他方、高校までは「暗記科目」だった人文・社会の科目では、細かい事柄を憶えるよりも、講義からヒントを得て、関連の書物をたくさん読むことが大切になる。

皆が同じことを憶えなければならない授業もあれば、同じ授業でも聞き手によって様々な受け取り方を期待する授業もある。それぞれの授業の形態や目的にあった履修方法・受講スタイルを工夫してみることを期待したい。

（朝 野）

キャンパス情報

人文学部から

長い夏休みが終わって、再び、楽しい(?)講義が始まります。

社会科学科では、後学期に1年次生向け主題別ゼミナールが開講されます。まだ、どのゼミナールを受講するか決まっていない諸君は、第1回目のゼミナールに出席して、担当教官から受講許可を受けて下さい。なお、どのゼミナールに何名の定員の空きがあるかは、人文学部の掲示板で確認して下さい。

人文学科では、11月に、2年次以降の専攻コース

所属決定へ向けた説明会を予定しています。どの分野への所属を希望するかよく考えるとともに、掲示に注意して下さい。

コミュニケーション学科では、来年度のカナダでの英語研修(夏期を予定)についての説明会を予定しています。詳しいことは10月中旬に発表致しますので掲示に注意して下さい(共に人文学部掲示板です。)

なお、人文学部3学科とも若干名の転部・転学科を認めます。転部・転学科試験については人文学部学務係に問い合わせして下さい。

(有 泉)

教育学部から

授業から開放されて、それぞれ充実した夏季休業期間を過ごせたでしょうか。授業から離れてまさに夏休みだったのは今年だけなのです。2年生・3年生は集中講義や3泊4日の大子合宿研修所での〇〇実習などに参加したはずです。4年生は教員採用試験・就職試験に苦労したり、進学での勉強に精を出しました。9月は教育実習の期間で、多くの3年生は第1回目、4年生は第2回目の、緊張し疲れたが実り多い実習を終えたところです。また、4年生にとっては(春からの就職活動・採用試験勉強で遅れていた)卒業研究に汗を流した期間でした。

各教室や図書館などの学内探索はすでに済んだと思いますが、教育学部A棟、B棟、C棟、D棟の各研究室の探訪は済みましたか。研究室での卒業研究はこれから佳境に入ります。熱心な4年生の状況を見たり、可能なら説明してもらいなさい。ドアを開放していて、諸君たちを拒まない研究室も多いはず。埃を避けるため脱靴としていたり、静かにゼミや大学院の授業が行われたりしています。迷惑がかからないように充分気を配りながらの、研究室探訪をお勧めします。1年生の早い時期から諸君たちの新たな活動場所が見つかるでしょう。

(山 本)

理学部から

2ヵ月に亘る夏休み、様々な出会いや経験があったことと思います。しかしそれはそれとして、そろそろ頭の切り換え時、後学期への積極的な取り組みをお願いしておきます。

いまさらですが、水戸キャンパス北西部の建物郡が

理学部です。一番奥のA棟は恐らく茨城大学でも最も古いもので、その貧弱・老朽ぶりに驚いた方もいるでしょう。でもこの間の改革により手狭になったこともあり、後ろ半分の建物については建て替えが検討されています。皆さんが卒業する頃には、真新しい高層建物になっているかもしれません。

前学期に理学部教室での授業を履修されている方はご存じでしょうが、理学部建物は全て脱靴となっています。主として研究上の都合によるものですが、改めてご協力をお願い致します。10月1日からはもう一つ規制が加わります。教室に加え、廊下、建物間の通路なども終日禁煙となります。どうしてもという方は、外で吸うこととなりますので、携帯灰皿などを用意して下さい。個人的には禁煙をお勧めしたいところです。

前学期の分野別科目・自然、及び理学部の方の全般的な履修状況は、概ね私達が助言・お願いしたものに近く、一安心しています。分野別科目・自然の履修にあたって、受講調整の結果希望のクラスとならなかった方には、お詫び致します。こうしたことを少しでも減らすべく、自然の後学期科目として、『地球科学』、『現代の科学』各一本を増設することになっています。

(川 田)

Bコースを知っていますか？

茨城大学工学部のシステム工学科には、夜間に授業をおこなうBコースが用意されています。授業時間は、午後5:30から午後8:40まで。実験の場合には、9:00を過ぎることも多いようです。日立キャンパスでは、このBコースの授業時間に合わせて、事務部はもちろん図書館や生協も、夜遅くまで業務を行っています。工学部では、実験などが夜間にずれ込むことは日常的ですから、Bコース以外の学生にとっても夜間営業は好都合です。

Bコースでは、社会人選抜や推薦入学を積極的に実施しており、様々な経験を積んだ学生が集まっています。

す。狭くなりがちな社会に対する視野を広げられるという意味で、Bコースの授業は教官にとっても刺激的です。しかし様々な教育的背景を持つ学生全員に知的な満足感を与えるという作業は極めて難しく、教官の力量が問われていると感じることもしばしばです。また昼間のコースと比較して授業科目の絶対数が少ないことも、学生諸君のフラストレーションの一因になっているようです。Bコースの充実につながる意見はいつでも歓迎です。システム新棟3階まで、皆さんの声を聞かせにきてください。

(乾)

阿見キャンパスから

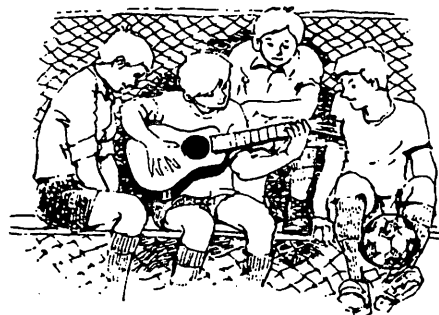
皆さん、夏休みはいかがでしたか。リフレッシュされたでしょうか。さて、成績は受け取られましたか。阿見キャンパスに移ってから、水戸に通うのは大変です。問題ありの人は、後学期にがんばって下さい。

今回は阿見の住宅事情についてお知らせします。阿見キャンパスでは多くの学生は大学周辺にあるアパートを借りています。やはり実験、実習あるいは卒業論文に忙しいからでしょうか。農学部の中には県立医療大学もあり、新築のアパートが多いようです。すでにアパートを捜されている方もいると思いますが、ほとんどの学生は不動産屋さん(大学周辺に数軒あります)に申し込むかあるいは先輩の紹介による方法でアパートを捜します。秋になると来年の契約更新の打診があります。更新がない部屋について、不動産屋さんから

順次申し込みのあった学生に連絡がいきます。バス・トイレ付きで4～5万円、捜せば3万円台のアパートもあります。学生寮入寮募集については来年1月頃に掲示されますので、掲示板を見るようにして下さい。何かありましたら、農学部学生係にお尋ね下さい。

鋤耕祭で、皆さんに会えることを楽しみにしています。

(白 井)



私ののめり込んだ授業

伊藤有輝（工学部，1年）

帯金靖彦（工学部，1年）

前学期の授業が終わり、振り返ってみて私がのめり込んだ授業は、独語Ⅰ（Ⅱ）です。四カ月前に入学し、すべて自分の意志によって授業日程を作り、そして、自分の作った授業日程で授業を受けるようになり、私は未修外国語として受講した独語に興味を持ちました。今までに学習したことがなかったという理由もありますが、私がこの独語にのめり込んだ一番の理由はやはり新しい事柄を次々と学習し、それによって理解できないことが数多く出てきて行止まることがあるが、そこで、ぐっと投げ出すことをこらえ、それによって新しい発見と共に、理解することができるといったような、一種の賭け引きのようなものを感じることに、私は興味を持ちました。しかし、前学期の試験が終わってみると、決して結果は良かったわけではありませんでした。私は、この初めて学習した独語というものの難しさを知りました。今、学習しているのはつまり単位をとることのために学習しているといっても過言ではないと私は思います。そのために、学習のスピードも早くなり、ほんの一部しか学習できないのではないかと私は思います。私は、そういう学習のやり方ではなく、もっともっと独語の奥深くまで学習し、そして、本当の独語のおもしろさを知りたいと思います。

今村有希（理学部，1年）

私ののめり込んだ授業は『宗教と人間』である。まず野口先生が聖書の一節から重要な言葉を言う。例えば「何事でも自分にしてもらいたいことはほかの人にもそのようにしなさい。」とか「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」などである。私はキリスト教徒ではないが、これらの言葉に感動した。

次に聖書そのものについて講義される。歴史的な背景など、興味深いことが多かった。

私はどの宗教も信じる気はない。しかしこの授業はこれから生きてくうえで一つの指針になったと思う。

私の1年前学期の授業を受けた感想は、「どれもつまらない」でした。でも、その中で興味を持つことができた授業が1つだけあります。それは『近代の名作』という講義でした。

この講義では何作かの近代の小説を取り上げ、その作品中の主人公の行動やそのときの心情、著者がその作品を書き上げるまでの経緯や、著者自身の生涯までもを解剖し、その突っ込んだ解説や説明を聞くだけという、ただ単位が欲しいだけの学生にはうってつけの講義だったと思う。しかしそれは、私にとってはもっと意義のあるものでした。

高校までの小説などの解説では、どうしても受験中心の解説で、「しかし」が出てくるとそれは逆説だから大事だとか、この動詞は五段活用 of the 未然形だとか、その作品を読む上では全く無意味で、しかもちっとも面白くない解説でした。だけど先に述べた講義では著者の事や、その当時の恋愛観などの時代背景等も説明されるので、現代にはない近代の常識なども文章から読み取れ、臨場感を持ちながら、本当の意味での読書ができたと思います。

人間は読書や映画、TVドラマなどに大変興味を持っている。というのも、それらは読者や視聴者に疑似体験を与え、人々に様々な人生を楽しませる。この疑似体験こそが素晴らしいとは決して言えないけれど、疑似体験を自分の人生に還元し、素晴らしいものへと改善していくことはいくらでもできる。そして、それを私に教えてくれたのが『近代の名作』だったのです。



伊藤優一郎 (工学部, 1年)

大学に入学してから4ヶ月が過ぎました。前学期の授業を終えての感想は、やはり大学の授業は高校や中学の時の授業とは明らかに異なる、ということです。教科書1つとってみても、各ページに含まれている内容の奥深さや量にはものすごいものがあり、世間で言われるほど大学生は楽ではないと感じました。

さて、私に最も強い印象を与えた授業はといいますと、それは梁継国先生の中国語です。梁先生は非常にきれいな日本語を話しますので、私がまだ入学して間もない頃は、先生ははっきり日本人であると思っていました。中学、高校を英語嫌いで過ごした私は、いつの間にか語学全般に大きな偏見をもっていました。それを取り除いてくれたのが梁先生の中国語でした。先生は、優しく丁寧に教えてくれますし、日本人はおそらく知らないと思われるような中国の文化などについても教えてくれます。だから、その話を聞いて中国に1度は行ってみたいと思うようになり、そしてこのことが、学生の学習意欲をかき立てるのだと思います。後学期から、また先生の授業が始まりますが、もっと勉強して私も中国語を話せるようになりたいです。

氏家 享 (理学部, 1年)

1つの科目にとらわれない勉強をしたいと思ってここ茨城大学・理学部・地球生命環境科学科に入学した自分にとって、総合科目というのは実にありがたい授業でした。その中でも特に、科学技術文明論の『自然と人間』は自分の欲求を満たしてくれるものでした。この授業は、前学期をさらに3つに分けて、3人の先生方が自然という1つのテーマを倫理・地質学・植物学という全く異なる方向から解説していくという形式で進められました。そのため勉強はとても大変なのですが、先生方がプリントやOHPを使って分かりやすく、しかも具体的に説明して下さいたため最後まで楽しく授業に臨むことができました。ただ、あの受講者数についてだけは不満があります。もっと少ない人数で、もっと小さな教室で行ってもらえたら、もっとコミュニケーションをとることができ、それによってさらに理解度や楽しさが増したのではないのでしょうか。まあ、まだ始まったばかりの科目なのでこのへんはしょうがないのかもしれませんが、次期からはこの点についてもぜひ考慮していただければと思います。

V o i c e

「前期は終わったが」

岩澤紀生 (理学部, 1年)

前期の授業を受講して興味を持てたのは教養科目の人文・社会の分野だった。これは今まで経験がなかったことであり、これまでは受動的で疑問は持てるものの結局ひとつの答えに導いていくという授業に慣れすぎていたのかもしれない。受講して自ら積極的に考えて、自分の意見を持ち、時には批判も出来たりすることがとても新鮮で、ものの見方が変わってしまうようなこともしばしばだった。そしてもう1つ。入学時に理学部の授業の説明で強調されていた周辺領域の導入ということについて、少し感じたことがある。もちろんその基本的な意味については賛成で、現在の多様な社会の中である部分と部分の間に強い区切りを設けて、

ひとつの孤立した分野をつくることは不可能で、まわりを見れない危険な考えを生むことすらあり、だからいろいろな分野とのかかわりの中で広い視点からあることを見る目というのは大切なことだと思う。しかし今専門の授業を受けてみて、何か物足りなさを感じてしまうことがしばしばあった。というのも分野が広いだけに、目的をはっきりさせることが難しく、自分がやりたいことを見つけられずに迷子になったようだったからで、意欲がわかなかった。とても複雑なところだが、これだけは言えると思うことがある。それはいつも主体性を持って授業に望むことを心掛けるようにすべきだということである。主体的に考え、いろいろな疑問を持ち、ひとつひとつ解決していくことで、自分の中に多くの判断のモノサシを作り、より広い視野でものごとを見ることができるようになると思う。

掲 示 板 コ ー ナ ー

企 画 室 だ よ り

【1】 忘れ物について

最近時計の忘れ物が多いですね、特に試験期間中の忘れ物です。試験をしている時に時計をはずし机の上に置いた時計。サア試験が終わった、早く帰ろうとするあまり机の上に置かれた時計はそのまま。

教養教育第二係に忘れ物として届けられた時計は持ち主がいないまま時を刻み続けています。

“心当たりの学生は、時計に会いに来てください”

【2】 学生証の再発行について

学生証については、入学時のガイダンスで4年間使用するものなので大切に使用するよう説明をしたのですが再発行の手続きに来る学生が定期試験時になると多くなります。

学生証は、学生の身分を証明するものです、学校に来る時、外出する時は必ず携帯すること。また試験時には必要となりますので大切に保管して下さい。

“再発行する場合には、1カ月かかります。”

【3】 平成8年度大学祭日程

茨 苑 祭 … 水戸キャンパス

11月22日(金)～24日(日) 3日間

※22日(金)は、1日休講

こうがく祭 … 日立キャンパス

日程は未定です

鋤 耕 祭 … 阿見キャンパス

10月25日(金)～27日(日) 3日間

※農学部1年次生は、25日に農学部の見学を実施しますので全員参加して下さい。

「講堂前よりバスが出ます。詳細については、掲示をしますので注意して下さい。」

教養教育授業に関する シンポジウムの開催案内

本年4月から、本大学では教官の「全学出勤方式」によって新しい教養教育が始まりました。教養教育を実り多いものにしていくため、教養科目の授業の質と量を向上させる努力を継続する必要があります。そこでその一環として大学教育開発センターでは、「教養科目の授業に関するシンポジウム」を開催することになりました。本年度は、招待講演と外国語科目及び総合科目の授業内容や教育方法についてシンポジウムを企画しました。

教職員の皆さん及び学生の皆さんの積極的な参加をお願いします。

開 催 日：11月27日(水)

時 間：10時30分～17時35分

場 所：茨苑会館2F

(7, 8, 9集会室) 水戸キャンパス

内 容：・茨城大学教養教育についてのあらまし

・外国語科目の教育について

未修外国語

英語

・大学教育に関する招待講演

・総合科目の教育について

・教養教育の授業に関する調査について

なお、終了後、懇談会をする予定です。

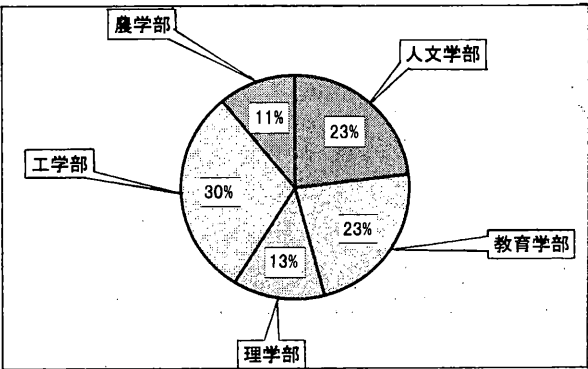


教養教育に関する基本調査（Ⅰ）集計速報

平成8年7月10日（水）第2講時に1,892人の受講生を対象に実施いたしました上記調査については、755枚（39.9％）の回答が得られました。現在集計を進めておりますが、本ニュースレターで特徴的な結果についてのみお知らせいたします。

設問: 所属学部

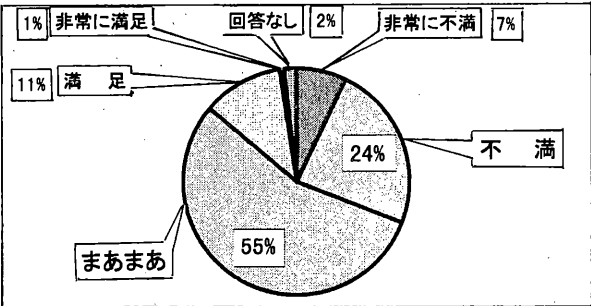
	人文学部	教育学部	理学部	工学部	農学部	合 計
回答数	174	171	100	228	82	755



全学部の学生より協力が得られ協力者の95％は1年次生で、男女比は55％：44％でした。

設問: 教養科目の全体について満足していますか

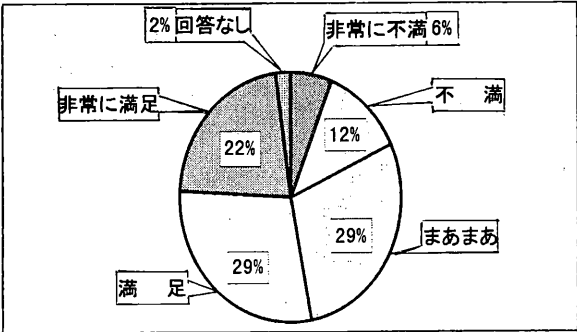
	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	53	181	417	85	5	14	755



平成8年度前学期の教養科目については55％の学生が「まあまあ」と判断している一方で、約3分の1の学生は不満感を持っていることがわかりました。

設問: 教養科目のクラス分けについて満足していますか(英語)

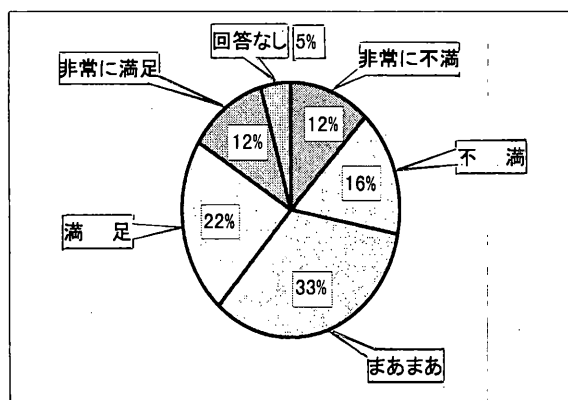
	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	46	90	218	220	164	17	755



教養科目のクラス分けに関しては過半数が満足している反面、約5分の1の学生は不満感を持っており、改善すべき課題もあります。

設問:教養科目のクラス分けについて満足していますか(自然の分野)

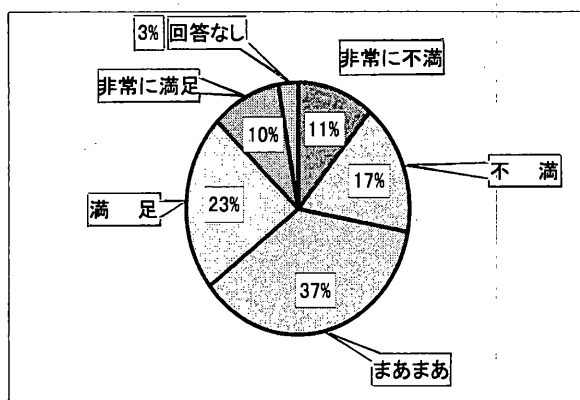
	非常に不満	不満	まあまあ	満足	非常に満足	回答なし	合計
回答数	90	123	251	169	88	34	755



おおむねクラス分けに関しての不満感は、他の語学、分野別科目も同様ですが「自然の分野」及び「総合科目」では28%近くの学生諸君から、不満感が表明されています。

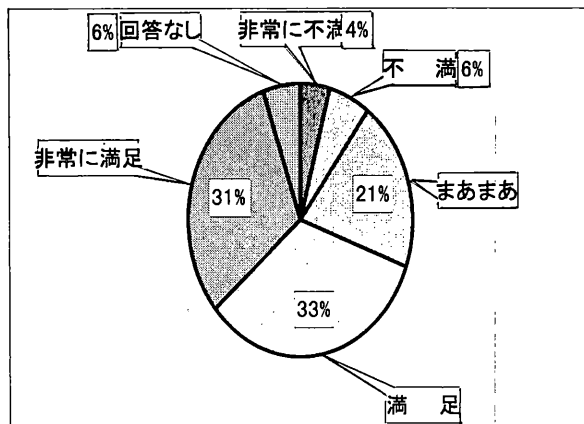
設問:教養科目のクラス分けについて満足していますか(総合科目)

	非常に不満	不満	まあまあ	満足	非常に満足	回答なし	合計
回答数	83	128	277	171	73	23	755



設問:教養科目のクラス分けについて満足していますか(健康・スポーツ)

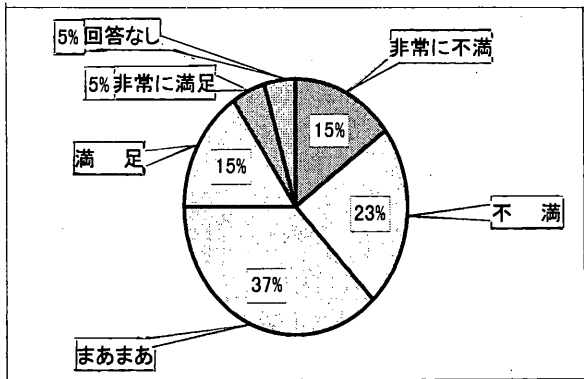
	非常に不満	不満	まあまあ	満足	非常に満足	回答なし	合計
回答数	33	44	155	249	232	42	755



クラス分けに関してほぼ適切であったのは、「健康・スポーツ」の分野でした。(64%が満足)

設問:教養科目の授業の程度、内容について満足していますか(自然の分野)

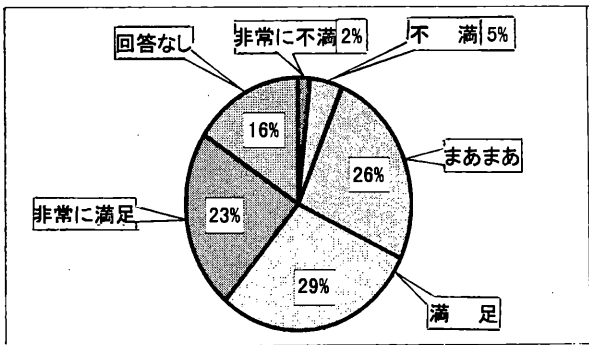
	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	112	174	281	117	36	35	755



教養科目の授業の程度、内容に関する満足感については、不満足がやや多い「自然の分野」から、満足感の高い「健康・スポーツ」まで科目・分野によってかなり違いが認められました。

設問:教養科目の授業の程度、内容について満足していますか(健康・スポーツ)

	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	14	35	194	220	174	118	755



「教養教育基本調査Ⅰ」の「自由記述」から

7月に、主として1年次学生諸君に回答いただいた「教養教育基本調査Ⅰ」の「自由記述」は、本学における今後の教育のあり方を探るに当たってきわめて示唆に富んだ内容になっています。教職員各位には今年度中にその全体を見ていただく予定になっていますが、ここに自由記述の一部を要約掲載して参考に供するとともに、学生諸君にはこれをもって報告にかえたいと思います。

「自由記述」されている内容を大別すると、

1. 教養科目教育のシステム
2. 教養科目の選択
3. 授業方法・内容

などに集約されます。

第1の項目では、教養教育廃止論から昼休みが短すぎるという意見まで多様な意見が展開されています。第2の項目では、全教養科目についてのもって自由な選択を希望する声が圧倒的に多く、そのために授業本数を増加せよ、受講者が集中する授業は複数本たてよなどという要求が出ています。

ここでは第3の項目「授業方法・内容」について学生諸

君の声を整理して「」内に記述しました。とくに後学期授業を担当される教官各位および企画室・センター構成員などにはご一読願い授業実施の際にご注意していただきたいと思います。学生諸君は自分の回答趣旨が記述されているか、点検ください。

他の項目についての取りまとめは別の機会にしたいと思います。

授業中の表現方法

「声が小さくて聞こえない。」という意見が圧倒的に多い。中には「一番前に座っても聞こえない」との訴えもある。マイクを使用してほしいというのだ。「マイクの故障を直してほしい。」というのは教官と事務との連絡不足か。

「黒板に書く字が小さくて読めない。」「板書が汚くてノートできない。きちんと整理して書いてほしい。」「常用漢字を使え。」「字が汚い。」など板書のまずさを指摘する意見も多い。

また、「先生たちの話し方が非常に下手である。」「話し方が下手でなにを言っているか分からない。」「語尾が曖昧で聞き取れない。」など先生の話法の手下手さをついた批判もあ

る。一方、ビデオなど視聴覚教材を使用している授業の不満はまったくなかった。

教官の行動・態度

「先生の遅刻30分は当たり前ですけどそれなら60分授業にした方がよいのではないのでしょうか。」と指摘する学生がおり、「遅刻する先生が次の時間まで入り込んで授業するのはやめろ。」「講義は決められた時間内でやってほしい」と願う学生もいる。

「自分勝手な先生がいて」授業の後2、3日不愉快でたまらないという嘆きは悲惨だ。

「(学生を)まったく馬鹿にしている。」「学生の方をむいて話せ。」「やる気のない教官がいる。」「カリキュラムをどうのこうのよりも、教える側の意識の改革が必要なのは。」「など指摘は厳しい。「分からないところは質問せよというから質問したら、そんなことも分からないのか、バカ。」にいたっては...

授業のあり方

「参加できる授業にしてほしい。」「ただ教官がひとりでしゃべっているだけとか、板書するだけの授業は絶対にやめてほしい。」「一方的にやられるだけでまったく理解できない。」など学生参加型の授業形態を望む声は多い。

現在のような授業なら、「眠いから途中で雑談を入れて目を覚ましてほしい。」ということになる。

願いとして、「もっと、楽しく授業をしてほしい。」のだが、そのための具体的提案も多い、「もっとビジュアルな授業(C.G.を使ったり、実験を見せたりする)をしてほしい。」「社会の授業、もっと生活に密着した、興味深い内容のものになりませんか。」「もっと新しいことを教えて欲しい。」「もっとビデオ学習を増やしたり、実験的な要素を増やしたり」「プリントを使用するか、黒板を書くようにして」など。

出席

「全授業で出欠をとるべきだ。」という意見が多い。がしかし、中には「出席重視といって出席をとらない先生がいる。」との批判もある。出席をとって、出席率の高い学生は成績に差をつけてほしいといった意見がある。出席をとるなという意見は皆無だった。

授業内容

「講義概要と違う内容の授業があった。」と講義概要と実際の授業との乖離を指摘する意見が多い。それにもまして「開講時説明」ではシラバスになっていない。「講義概要は、全授業書いていただきたい。」と授業内容を記載しない教官への風当たりは強い。また、「毎回レポートを出す授業なら、その点をきちんと講義概要に記載しておいてほしい。」というのはもっともである。

「自然などでは、内容があまりにも深入りしすぎて逆につまらなかった。」というのは「教養としては難しかった。」ということか。多くの学生が自然分野の授業に絶望している。その理由として、「教養というよりは各教官が自分の専門だけを話しているという感じだ。」「先生による差がありすぎる。」などの意見があり、「全体的にもっとわかりやすくしてください。」ということになる。

総合科目では「先生がいろいろ変わったので内容がわかりにくい。」との意見が多い。

外国語では「声に出すこと(読み、会話)を重視してほしい。」「ガイダンスの時に『高校の授業みたいなのはしない』と言っていた英語の教官が学生を指して読ませ、意味を言わせるだけの、いわゆる高校までの英語の授業をしているのはおかしい。」といった批判がある。「英語のくわしい授業内容を示してほしい。TRだけではなにをどう読むのか分からない。」などと授業概要について注文が出ている。

専門基礎については「専門の必修科目と教養科目の時間帯が重複している」「専門の授業でも、未修者を前提としており、全体的にレベルが低かった。」などといった意見がある。

教科書

教科書については「テキストが適切でない。」「教科書代がかかりすぎる。」「1回レポートを書くためだけの教科書なら図書館に置け。」「英語のテキストをもっとわかりやすいもの、興味がわくものにしてほしい。」などといった指摘がある。

なお、個々の授業についての意見も一部寄せられましたが、ここには収録しておりません。

(谷 口)

つ ぶ や き

後学期開始にあわせてローザ・ブルムラ第2号をお届けします。今号では、前期授業についての学生諸氏の声を掲載いたしました。前号にはクリーム色の紙を使いましたが、本誌のタイトル Rosa Plumula (薔薇の若芽)をイメージして今号から「もえぎ色」にいたしました。誌面の都合で「つぶやく」スペースがもうありませんので、これで黙ります。(H.O.)

発 行 日 平成8年10月
 発 行 者 茨城大学
 大学教育研究開発センター
 水戸市文京2-1-1
 029(228)8416〔企画室教養教育第二係〕

Rosa Formula

ローザ・ブルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター №.3

ローザ・ブルムラも第3号。そろそろこの「巻頭言」も変わったことを書いても良い頃ではないか。ということで小話を一つ。

ある男が夜道を歩いていると、向こうの街灯の下で地面に這いつくばっている人がある。近寄って、何をしているのかと聞いてみると、鍵を捜していると言う。どの辺に落としたのかと尋ねれば、光の当たらない方を指さして、向こうの方だと答える。そして付け加えて答えるに、向こうは暗くて捜しようがないので、代わりにここを捜しているのだと言う。

これは、経済学の世界ではしばしば聞く小話。もっとも、僕がはじめてこの小話を耳にしたのは、朝永振一郎氏が物理学の現状について述べていたというもの。したがって、他の学問分野でも馴染みの小話かも知れないが、この小話は経済学の現状についてこそ良く似合う。——それでも、ここ数年、経済学の世界でも、これまで“手探り”でやっていた領域に新たな理論の“光”が届くような、大きな理論変革が生じつつあることを、急いで付け加えておこう。

この第3号では、11月27日に開催された《教養教育の授業に関するシンポジウム》について掲載しました。個々の講義の質の充実へむけた議論と努力が活発となることが期待されます。(有泉)

「試験だぞ！」

改まった気持ちで試験に臨む法

かつて師走には、各家庭で大掃除や障子の張り替えをしたものだ。改まった雰囲気です正月を迎えるためであった。しかし、電気掃除機とガラス戸・カーテンの生活になり、日頃から掃除が行き届くので“煤払い”の習慣はすたれた。それと同時に、年末・年始は一連の休日と化し、新年を迎える改まった雰囲気に乏しくなったのは残念だ。生活の節目は大切にしたいものだ。本学には、年末の大掃除や御用納め・御用始め行事が残っているが、事務職員を中心としたものであり、しかも冬季休業中のことなので、学生諸君には縁がない。

学生生活の節目は、何ととっても定期試験であろう。今年度は、2月初旬に実施される。そこで、少し早いですが、節目を大切に、改まった気持ちで定期試験を迎

える準備をしてはどうだろうか。たまったレポートの類は早めに提出しよう。折り畳んだままノートに挟み込んである配付資料は広げて整理しよう。教科書や参考書は、埃を払って一気に読んでみよう。日頃こまめに“掃除”する習慣に乏しい者ほど効果靚面、改まった気持ちで試験に臨めること請け合いである。

教養科目には再試験の制度はなく、必修科目で不合格になれば次の年度に再履修することになる。風邪や腹痛あるいは事故・家庭の都合などで試験を受けられなかった場合には、担当教官に連絡するとともに、追試験の手続きをとることが肝要だ。試験の前に「教養科目履修案内」の該当部分(P26)をもう一度読み直しておくことを勧めたい。

(朝野)

手ごたえのある授業をめざして

「教養教育の授業に関するシンポジウム」開催される

11月27日に水戸キャンパスの茨苑会館を会場に、「第1回教養教育の授業に関するシンポジウム」が開催されました。皆さんもご存知のように、本年度から新しい体制で茨城大学の教養教育がスタートしました。しかし体制こそ変わったものの、教養教育の量と質については、改善すべき点がたくさん残されています。教養教育をより良いものにしていくためには、現状の問題点や望ましい教育のあり方について、公開の場で自由に意見を交わし理解を深めることが大切です。今回のシンポジウムでは、特に総合科目と外国語科目の教育方法をテーマに議論をおこないました。また京都大学の高等教育教授システム開発センターの田中毎実教授をお招きして、「学生を引き付ける授業法」という魅力的なテーマについて、ご講演いただきました。

議論の内容をかいつまんで紹介しましょう。松井先生によれば、「21世紀シリーズ」など、面白そうな授業が来年度も総合科目には目白押しです。大嶋先生の熱意あふれる授業に触れられる学生諸君は幸せです（人気が高すぎて受講できない可能性も大）。京都大学

の田中先生の紹介された「公開授業」は、大学の授業改革の切札かもしれません。ビデオ撮影されながらの授業は「冷汗」ものだそうですが、受講する学生の中には、撮影中に内職や居眠りをするツワモノがいるとのこと。でも授業改革のネットワークは、着実に広がりとつとあると感じました。岸本先生の提案された技術習得を重視した英語教育は、学生の熱意に必ず応えてくれるはずです。伏見先生の「内容のない会話では議論は続かない」という言葉には全く同感です。金本先生による日本人と留学生の混成授業の成果を聞き、異文化理解のための外国語教育の重要性を再認識しました。なお今回のシンポジウムの内容は、出版物として刊行されることになっています。

シンポジウムでは、講師の方々の教育に対する熱意をひしひしと感じました。それが呼び水となったのでしょう。シンポジウム参加者との議論も、かつてないほど盛んでした。自分の十数年前を思い出し、学生諸君にちょっと羨ましさを感じました。

（工学部 乾）



キャンパス情報

教育学部から

忙しい年度末になりますが、風邪などひかず締めくくりの期間を充実させて下さい。各コースの卒業行事には1年生から参加できます。日程の連絡は有りましたか？まだなら上級生に聞いて下さい。事前に要旨が印刷されたり、発表用のポスターが準備されたりして分かり易くと計画されていますので、卒研発表・修論発表は見落とさないように。

これらの発表会など卒業に関する行事は2月から（早いところは今月から）ですが、その先の4月からの多忙な2年生の授業について書いてみます。

教育学部には異なるカリキュラムが15種のコースごとに編成されています。核となる授業を中心に選択科目で多様化を図っており、各コースの科目が週22

の時間帯に詰め込まれている訳です。来年3年生での教育実習を控えそれ以前に履修を期待されている科目（小学校8教科の教育法・内容研究等）、専門科目、そして教養科目、その結果、最も過密な履修スケジュールが2年生に課されています。教職に関する科目は全面的に履修指定制を取り入れ履修時間帯の確保を計ったので、教養以外の午前中の時間帯はすべて埋まっています（毎日8時50分には教室）。そして各コースの専門科目は5講時まで組まれています。

2年生での履修は別の機会に書くとして、多忙な2年生に1年生の科目を持ち込むことの無いよう、期末までの期間を大切に過ごして下さい。

（山 本）

理学部から

新年おめでとうございます。後学期もあっという間に終盤、寒さに気をつけてあと一踏ん張りされるようお願いしておきます。

分野別科目の自然については、クラス分けや授業についての満足度がやや低かった基本調査の結果でしたが、その理由の一つは、教養系授業は初めてとか久々という先生方も多かったことにあるのではないかと思います。詳しい結果を見ないと分からないところが多いのですが、みなさんの声は今後に出来る限り生かしたいと思います。以上は分野別科目の自然のコーディネーターとしての理学部からですが、以下は理学部の学生諸君向けです。

1年生でもかなりの数の教養科目、理学部共通科目

を履修し、遅い人でもそろそろ自分のやりたいことが見えはじめた時期ではないでしょうか。成績が良いのがその人に向いた分野とは必ずしも言えず、特に実験系学問には「好きが一番」という面もあります。研究室の実地見学（歓迎されると思います）などもされ、自分が将来やりたいことのイメージを持って、来期以降の上手な履修計画を立てて欲しいものです。手を広げすぎないこと、この点ではひけをとらないという分野を持つことなどは大事なことでないでしょうか。なお、教える側としては、実験は講義のように全面的には受講希望を受け入れることは不可能であり、負担も大きいのです。特に慎重な履修をお願いします。

（川 田）

工 学 部 か ら

パソコンに触れてみよう

平成8年度から、教養科目として情報関連科目を1科目履修することになっている。そのための演習室が水戸キャンパスに作られていて、既に利用している諸君も多いことでしょう。情報処理センターの端末室も機種交換で Windows95 仕様のパソコンを端末とした使い易いものになるはずである。

コンピュータ教育では、数学と同様、能力差が非常に大きい。パソコンマニアみたいな学生がしたり顔で闊歩している傍らで、パソコンから1メートルでも離れていたいと思っている人たちもいて、始めの一步が踏み出せないで苦労している。

以前の勤め先での経験と最近の就職担当などをした経験から判断して、今、職業人としてフレッシュマンに要求されるのは、込み入ったことを体系づけて考え

られる能力でしょう。技術面では、1に情報処理、2に英会話、3に一般教養、4に専門知識ではないかと思っている。

まず、苦手な人は、自由にいじれるパソコンを確保して、まず起動し、キーインできるようになろう。そして、あちこちパチパチいじってみよう。運転免許をとるのと違って、マイペースでできる、怖いインストラクターはいない、なによりも下手でも事故につながらない。

(石 黒)



農 学 部 か ら

農学部のキャンパスも、すっかり初冬の景色となりました。皆さんもそろそろ阿見キャンパスでの生活に関心を持ち始めていることでしょう。この時期になると4年生や大学院生は卒業論文や修士論文のまとめで忙しい毎日をおくっています。3月末から4月はじめにかけて、多くの学会が開かれます。学会で発表を予定している大学院生や進学予定の4年生は忙しさとプレッシャーでピリピリしています。この時期は論文作成やスライド作成（今やパソコンから直接フィルムに出力できます）のために各研究室のパソコンは大繁盛です。当然のことながら、それをみる教官も大忙しです。3年生は卒業論文をどこの研究室で行うかを決める時期にな

り、将来の進路を具体的に考え始める時期でもあります。後学期試験さえ終われば、2年生が一番のんびり出来るのかもしれませんが（私たちが忙しいとの反論がでそうですが）。

阿見キャンパスでは来年度、情報関連科目、主題別ゼミナールのほかに、総合科目が4本開講されます。2年次に2科目の総合科目の履修が可能です。

(白 井)



教 養 教 育 っ て 何 な の

遠藤 聡 (教育学部, 1年)

茨大の教養教育は私自身、実に個性的で興味をひかれるものだと思っています。そもそも教養教育とはこれから社会へ飛び立つために、それにふさわしい教養や知識を身につけるための場と言って良いでしょう。社会へ出ると、より幅広い視野で物事を見ることが要求されることになるでしょう。茨大の教養教育はこのような社会の要求に即対応できる、という点で大変優れています。

その特色としては、第一に人文・社会・自然の分野別の科目ばかりでなく、その三つを融合したような科目や、市長や県知事、農業従事者、またこれは新聞にも取り上げられましたが、一家を担う主婦が講師として教壇に立つなど、社会的、個性的で興味深い科目が豊富なこと、第二に上記と関連して、科目選択の幅が大変広いこと、第三に、「講義」という堅苦しい感じがなく、ある程度肩の荷を下ろしてアットホームな雰囲気の中で受講できる科目も比較的多いことなどがあげられます。

教養教育は社会において物事を柔軟性をもって考える力を養うことに結びつくものであるとも考えられます。その点においても、茨大の教養教育は学生達に個性的、独創的な思考を働きかけるものにもなっているのではないのでしょうか。

瀬尾美智子 (理学部, 1年)

教養科目講義に関して意見や要望を、ということでですので、私の至極個人的な考えを少々述べさせていただきます。

私自身の事で恐縮ですが、今現在の私は将来やってみたい事がただ漠然と見えてはいます。しかし、その内容に関わってみたいと思っているに過ぎず、どう関わるかはまるで見当がつかません。おそらく、「研究する」ことになるのですが、その前に研究するとはどういうことかを知りたいのです。自分で見つけていくものなのかもしれませんが、きっかけやヒントが

欲しいのです。関連する講義も少しありますが、研究内容だけではなく、どのようにしてそのテーマに興味を持ち、研究するようになったのか、どうやって研究しているのかのプロセスや方法を聞いてみたいです。

私はまだ20年程しか過ごしていない未熟者です。人生の上での先輩に話を伺う機会はありません。学生である私には、多くの教官に上記のようなことを話していただければ、精神面や思想面などでも十分プラスになり、大学生の間だけではなく、その先も役立つことになると思います。このような機会を専門課程に進む前に、教養科目として組んで欲しいです。

山田峰人 (農学部, 1年)

新しい「大学」という学校に入り、既に半年が経過した。入学当初は、高校までの授業との余りのギャップに、正直とまどいを感じた。今までの、あれこれと指定される「与えられた」授業から、自分で決め、そして実行する「自ら学ぶ」授業へと変わったためである。

最初の決断は時間割の作成である。選択できる授業に幅があるとはいえ、高校までに比べ、余りの多さに、茫然としてしまった。それに輪をかけてくれたのが、講義概要の分かりにくさ、である。これから半期、その授業を受けねばならないのだから、面白く、興味深い授業の方が良いに決まっている。そのための選択の一助となるべきこれが、あまり役に立っていなかったのである。

そして実際に授業を受け、「自ら学ぶ意志」の重要性を痛感した。特に人文の授業に於いて、その意識は強まった。与えられた課題に関して、答えを導いていくのだが、その答えが、一定ではないのだ。だから良い答えを探すために、考えたり、話しあったりしなくてはならなかった。もちろん、一方的に講師が喋るだけの授業もあったが、これは、その事柄を理解するために、本から学ぶ必要があった。

私にとって教養教育とは「自ら学ぶ意志」の養成のための授業であるといえる。

V o i c e

試験なら任せておけ

清水裕美（人文学部，2年）

「まあどうにかなるだろう」と高を括っていたテストが，問題の意味さえ分からない…こんなとき，あなたならどうしますか？それでもどうしても単位が欲しいという人のために，ある方法をお教えしましょう。

答えが分からないのだから，答案用紙に書けるのは自分で考えたこと，思いついたことくらいしかありません。では具体的に何を書くのか。

1. 授業中に先生が話していたことに対する自分の考え。（授業内容に関係したことを覚えてなかったら，先生の雑談を用いる。）2. 先生に関すること。（字がきれい，聞きとりやすい，服のセンスが良いなど。短所があれば，長所と一緒に書いてもよい。）3. 授業内容への要望。（〇〇についてもっと詳しくやって欲しいなど。）こんなことをなんとか知恵を絞って書いていくのです。ただ，この方法には欠点がある。ある先生はCをくれるかもしれないけれど，他の先生にはとことん嫌われてしまうかもしれないということです。簡単に言えば，この方法は丁か半かの賭けなのです。

尚，これは先輩から聞いて私が知っているというだけのことであって，いままで実行したこともなければこの先実行する気も毛頭ありません。私は真面目ですから。もしも実行した人がいたら教えて下さい。うまくいったらお礼をもらわないと。でも失敗しても私のせいじゃありませんよ，念のため。

馬場雄一郎（工学部，2年）

教養科目はまず科目選びが大事である。少なくとも自分に興味のないものは選んでも意味がない，取りたいなと思うものは効率よく取ろう，授業においては出席するのはいうまでもなからう，出席を取らない授業を「出てもでなくとも同じ」と思ってさぼっているとそれが癖になって他の授業にも影響が出てくる，さぼりグセから抜け出るのはとても難しい，はまらないよう注意するべきである。

授業に出たらノートはできるだけ取ろう。何をやっているかわからなくともノートしておけばテスト前など，後々必ず役に立つ。筆者は昨年ノートをとらずに大変苦労した記憶がある。また，テストについてであるが，公式のまる覚えはまったく意味がない。問題の傾向，解き方をおさえておくことである。よってテスト前に必ず練習問題を解いておこう。

後は友人である。なるべく賢い友人を多く持つことがテストに大きく左右する，友人は大いに活用しよう。

さて，毎日学問ばかりしては楽しい学生生活とはいえない，「パソコンが僕の唯一の友人です。」といった人間になってしまっただけなら勉学ができてもしかたない，サークルやボランティアなどに参加して大きな人間になろう，楽しく過ごし大学を四年で卒業できるよう頑張るべし。

掲 示 板 コ ー ナ ー

企画室だより

●掲示を見よう

みなさん，われらの学園等をよく読んでおこう。みなさんが大学生活をおくる上で必要な一般的な諸手続きについては，入学した時に配布された「われらの学園」で紹介しています。また「教養科目履修案内」のなかでは大学生活の初期段階でのいろいろな注意と手続きについて紹介しています。

学生として“勉強”も大切ですが，知らなくて自分が損をするようなこともあるので決められた手続期間を守ってください。

まず“登校したら共通教育棟2号館前の掲示を見る習慣をつけましょう。”

平成9年度前学期分の授業料免除申請願書の配布期間は平成9年1月中旬になる予定ですので注意してください。

●キャンパス内の交通ルールを守ろう

水戸地区においては、交通規制が設けられていて構内への車両の入構は、許可された者以外は、原則として入構は認められていないことは、皆さんご承知のことと思います。

バイクについての交通規制は、ご承知ですか？

バイクについては、申請された者にはすべて入構証（ステッカー）が交付されバイクに添付することになっています。学園内の騒音を無くすため下記の事項を守りましょう。

記

1. バイクでの登下校は南第二通用門（茨苑会館）から出入りし、正門および西門（講堂裏）からの出入りはできません。
2. バイクは、定められた場所（茨苑会館の前と脇）に置き、そこから先のキャンパス内には乗り入れないこと（押し歩きも不可）。

自 転 車 に つ い て

自転車は大変便利ですね、どこへでも駐輪でき、どこへもすぐ移動できます。

学内における駐輪場が少ないこともありますが、皆さんの心がけ次第ではもっと整然とした学園環境が作れるのではないのでしょうか？もし万が一学内での交通事故、火災が発生し、救急車・消防自動車が入構できないような事態ができてからでは遅過ぎます、下記のことには注意をして不測の事態に備えましょう。

記

1. 学内の移動には自転車を使わないよう
(健康増進のためにも二本の足を使おう)
2. 福祉センター前の路上に駐輪しないよう

読んだ。思った ローザ・プルムラ

標題の「薔薇に若芽」から「薔薇の蕾」を連想して、市民ケーンを思い出し、オーソン・ウェールズの顔が、そして第三の男の音楽が聞こえてきます。第2次大戦後の混乱した時代から新しい社会を目指した当時と同様に21世紀に活躍する学生諸君の「行動指針」の参考になればとの大学教育研究開発センターの熱意が感じられます。

このすばらしい標題の Rosa Plumura 1号, 2号にはセンターが学生諸君に期待する事、学生諸君がセンターに期待する事が記述されていました。センターが学生諸君に期待しているのは、何かを見つけて欲しいという事でしょう。何かを見つける事と同様に大事な事は「子供の月の発見」に注意する事ではないでしょうか。子供の月の発見とは「子供にとっては最初の発見でも歴史的にみればすでに発見されている事」の喩えです。そのきっかけが一連の講義だと思います。

平成8年度は新しいシステムの初年度であり、また大学が水戸、日立、阿見と3個所に分散しているため、教室の数や担当教官の専門分野のアンバランスなどから十分なクラス編成が出来ていない事も事実かとおもいます。学生諸君には勉強は在学中ばかりでなく、生涯にわたってするもので1年次の気持ちをこれからさきも持ち続けて欲しいと思います。同様にセンターには今後ともたゆまぬ努力を期待します。

梶谷修一（工学部、教授）

『Rosa Plumura』が刊行されて3号目を迎える。以前、大学教育研究開発センターを取材させて頂いた縁で感想を寄せることになった。

まず、「教養教育に関する基本調査（I）」の集計結果なるものが第2号に掲載された時私は単純に驚いた。大学はお役所同様、公開するという行為から程遠いところだと思っていたからだ。不満の声も隠すことなく報告したのは評価できる。学生の意見が反映されない構造自体妙だが、国レベルでも国民の声は常に無視されると言われる位だ。それ故この様な調査が実施、なおかつ公表されただけで驚き、感心したのだ。

しかし時間の経過と共に、掲載の意図が明確でない点が気になってきた。センターは結果を公表することで何を目指しているのか。尋ねれば、なるべく意見を反映させる様に検討したい等の返答がくるだろう。頻繁に使われる台詞だが、どういう風にという具体的な面はいつだって示されない。

ただ、このニュースレターが発行されてようやく3号。これだけで判断するのはいささか性急だ。また学生側もこれを機に、どんどん意見を言うべきだと思う。今回、調査の速報掲載にしか触れられなかったが、このようなニュースレターが刊行されたことに、大学が変わって行けるのではないかと希望が持てた。センターの独り善がりにならないことを期待して、これからどう活動していくのかに注目したい。

田中真由美（人文学部、1年）

科目選択今後の問題点

前学期は分野別科目と総合科目の選択に当たって学生の皆さんには大変ご迷惑をかけました。

そこで、後学期の受講については、学生の皆さんの協力を得て、7月に予備登録を行いました。その結果にもとづいて、教室定員をオーバーする登録者のあったクラスは希望者が全員受講できるように収容能力の大きい教室へと変更しましたが、それでもなお定員を大きくオーバーするクラス（表1参照）が残りました。これらのクラスについては、乱数による抽選をおこなったわけです。

表1 登録で定員オーバーしたクラス

科目	コード	定員	登録数	受講数
人 文	1287	91	122	86
	1325	70	100	68
	1326	40	100	48
	1226	166	220	166
	1227	196	246	187
社 会	1468	196	313	187
自 然	1585	91	180	85
	1586	166	297	162
	1549	152	202	141
	1606	140	202	136
総 合	1769	140	365	131
	1723	196	608	220

後学期開始時に予備登録の結果の一覧表を皆さんに渡し、それを参考にして抽選もれの方は別のクラスを受講していただくというご苦勞をかけました。おかげで前学期に比較するとずいぶん混乱が少なかったのですが、希望する授業を受講できないという問題は依然として解決されていません。いかなるシステムを採用すればよいのか、今後の課題として残りました。

定員をオーバーしたクラスにおける現在の受講者数は、表1右端の列のとおりです。ほぼ満杯の状態で授業が行われています。教室定員の80%くらいの受講者数が適正規模といえるのでしょうかから、これは過密状態です。このほかにも、過密状態のクラスが存在しています。各学部から出講する授業本数の増加が期待されています。

前学期総合科目で単位修得できなかった学生数は、のべ410名にも達しました。希望する授業を履修できなかったことも、学修意欲を喪失させた原因でしょうが、もっと意欲的に学修してほしいとみなさんをお願いしないわけにはいきません。前後学期を通じて0～2単位しか総合科目の単位を修得できなかった方のために、1～2科目の総合科目を後学期終了後、集中講義として開講いたします。該当する方は教養教育第一係でご相談ください。

(谷 口)

つ ぶ や き

ニュースレター「ローザ・ブルムラ」も第3号となり、企画・原稿集め・割付・校正に至るまで編集も軌道に乗ってまいりました。しかし、第1号でつぶやきました①読み易い、②読んでもおもしろい、③役に立つ情報も含まれている、なる編集方針がどこまで実現できたのか。今号では「読んだ。思った。ローザ・ブルムラ」を二人の方にお寄せ頂きました。燃え上がるような薔薇の若芽に育つよう、これからも読者諸賢の誌上への参加をお願いいたします。(H.O.)

発行日 平成9年1月
発行者 茨城大学
大学教育研究開発センター
水戸市文京2-1-1
029(228)8416〔企画室教養教育第二係〕

Rosa Prunella

ローザ・プルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター №4

学長がもはや教授でないと知ったのは、就任して間もない頃で、講義もできなくなった。その後、こういった規則も緩和の方向にあるとは聞いていた。

旧臘、学長として初めて教壇に立つ機会を与えられた。講義は4年半ぶりのことである。総合科目の中の“研究するよろこび”というフレッシュマン諸君相手の授業の1コマを担当した。私は本来、魚介類の有効利用を目指す水産物利用学を専門とするところから、フグ毒など有毒成分の実態について、いろいろなエピソードなども織り込んで話をしたわけである。その折、気になったことが一つある。それは終始、能面のように表情を変えない諸君がかなり目についたことである。疲れ切っているのか、全く別のことを考えているのか、それともフグ毒などサッパリ興味が無いのか、などと思いをめぐらしたが、正直言ってある種のショックを受けた。フレッシュマン諸君に、喜怒哀楽を含め、もっと自然に振る舞って欲しいと望むのは、果たして私のみであろうか？

(橋本)

新 セ ン タ ー 長 就 任

奥 達 雄 (工学部・設計工学)

2月1日付けでセンター長に就任致しました。教養教育は全学協力体制で進めるという本学の大学改革計画に則り、この任務をお引き受け致しましたが、大学での経験の浅い私としては、諸先生のご教示とご協力を得ながら仕事をすすめさせて頂ければと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

大学教育研究開発センターは教養教育の実施に当たっての企画調整を行っていく組織であります。教養教育は4年間にわたって実施することになってはいるものの、事実上はかなりの部分が1年次に集中しています。さらに1年次は学生諸君が大学に入学後最初に出会う場面であり、すべての授業、サークル活動、部活動等に関心を注いでいる時期であります。その意味で、学生諸君は、期待をもちながら授業等に出席しているものと思いますが、一方、1年

次の学生の教育を担当する教官の立場からいえば、彼らの期待に応えなければならず、非常に重要でかつ責任の重い仕事であるといえます。新入学の学生諸君に主として望むことは、主体性をもって学問に取り組み、思考力を養い、深めてほしいということです。理系・文系を問わず、ある問題・テーマに対する大学の内外での自主的な調査・実験・実習・研究などの活動が自ら学ぶことの重要性を教えてくれることになると思います。「主題別ゼミナール」はそのひとつの役割を果たしてくれるものと期待されます。実施方法・内容については今後共通的に考えていくべきことがあるように思います。このような点も含めて教養教育の実施について考えていく所存です。教官各位ならびに学生諸君のご協力とさまざまなアイデアのご提供を、また種々の問題に対する御教示を切にお願い致します。

「大学教育研究開発センター」って何？

茨城大学の「ハブ」になりたい

私は「茨城大学教育研究開発センター」。でも「茨城大学・大学教育研究開発センター」と名乗ったほうがご理解を得やすいようです。茨城大学の大学教育について、全学的立場から調査・研究・提案を行い、特に教養教育については、実施上の企画・調整を主な仕事としています。新入生の皆さんを迎えるにあたって、教養科目履修案内やシラバスを編集し発行しているのは私です。

本学の5つの学部は、それぞれ独自の教育理念と目標を掲げ、専門教育と教養教育を有機的に結合させた4年一貫の教育課程を実施しています。このうち教養教育については、全学の教官がそれぞれの専門分野に応じて何らかの形で参加する仕組みになっています。私の仕事は、各学部から提供される教養科目の授業を調整し、学生の皆さんが満足するような教養教育を準備

するとともに、落ち着いて勉強できる環境を提供することです。このためには、皆さんとお近づきになって、ご意見・ご要望を伺うことも大切です。履修相談や生活相談、授業に関する注文など、何でも結構ですから私のところに寄ってください。お待ちしております。

教養教育では、他学部の教官が担当する授業を他学部の学生と聴講する機会が多くあります。私の入居する共通教育棟は、5つの学部の教官や学生の皆さんが集まり、教養教育の理念とその実現を共通の課題としている場所です。茨城大学における恐らく唯一の共有空間です。最近の若者は、仲間うちだけで会話し、仲間だけの価値観、仲間だけの行動様式を持ち、他の仲間や異なる世代との交流をしない傾向があるようですが、茨城大学の学生の皆さんには、活発な相互交流をお願いしたいです。差し出がましいですが、私を、全学を結びつけるハブ(hub)として利用していただくことを期待しています。(朝 野)

実はこうゆうつもりですが — 専門部会便り —

外国語科目専門部会

外国語科目専門部会は、本学の外国語科目の責任部局である人文学部コミュニケーション学科より2名(その内1名は専門部会長)、その他の学部から各1名の計6名の教官から構成され、本学の外国語科目のカリキュラム作成、外国語科目開講の為の予算案作成などを主な仕事にしています。外国語の開講本数は、既習・未修合わせて230本以上にも及び、今年度のカリキュラム作成は、既に昨年6月頃から始めていました。外国語科目は平成8年度にカリキュラムの大改革を行い、その結果、英語は、Ⅰ、Ⅱ、ⅢともⅠC、ⅡC、ⅢCの3種類のクラスに再編成され、未修外国語に関しては、それまでは人文学部と理学部にしか開講

されていなかった中国語が全学部の開講され、更に朝鮮語とスペイン語が新たに未修外国語として開講され、未修外国語学習の選択可能性が一層増加しました。留学生の諸君には日本語のコースが開講されています。外国語学習は実践的運用能力の習得のみならず異文化理解と多角的視点の育成に不可欠であり、新入生の諸君は英語と未修外国語の両方を履修するようにお勧めします。なお本年度から、英検などの語学検定試験合格者には一定の範囲内で単位が認められるようになりました。また8月から9月の6週間カナダのマギル大学で英語集中口座が開講されますが、申込み及びプレースメントテストについては4月中旬以降に掲示されます。外国語科目改善に関する学生諸君からの要望・提案を歓迎します。(伏 見)

健康・スポーツ科目専門部会

茨城大学では、1, 2年次の必修科目として「健康・スポーツ科目」があります。スポーツ等の実践を通して健康・体力の保持増進を図るだけでなく、教科書を読んだ上でのレポートが課されるなど、理論的な背景をおさえることも重視した科目です。また、他の学生と協力しながらスポーツに取り組むことは、特に大学に入学して間もない1年生にとっては、知らない人間と新しい人間関係を築きあげる上で貴重な時間となるでしょう。

1, 2年次には、学部・学科によって決まった時間に行われる4月のガイダンスに出席し、その時間帯に用意された種目の中からできるだけ本人の希望に従って、前期または後期のどちらか一方の種目を選択することになります。茨城大学の特徴の一つは、野外山野、カヌーなど、自然との触れ合いを重視した科目の他、ゴルフやエアロビック・ダンス等、非常に多様な種目が用意されていることです。そこが、高校までの保健体育の実技とは大きく異なることの一つでしょう。

(太 田)

情報関連科目専門部会

「HOMEPAGE」を初めて見て、「ほめばげ」と読み、「新種のはげか?!」, 「なまはげの一種か??」と悩んだ人はいませんでしたか。今では「ホームページ」と読めない人はいないでしょう。「Windows 95」, 「WWW」, 「netscape」, 「JAVA」と新語が次々出てきます。このような激しい情報社会の変化に対応して、茨城大学は、情報関連科目を必修にしました。授業担当者は、最新の設備で、コンピュータ・リテラシー(コンピュータを文房具のように使いこなせる能力)を修得してもらおうと頑張っています。情報関連科目専門部会は、よりよいコンピュータ環境やカリキュラムを提供するために活動しています。『こんなことを学んでみたい』学生の皆さんと『こんなことを教えてみたい』先生方のサポーターです。ご希望、ご要望があれば、情報関連科目専門部会までお知らせ下さい。

(仙 波)

人文科目の目ざすもの

大学教育の改革により、従来の一般教育と専門教育の枠が撤廃され、4年一貫教育が実施されて5年目を迎える。わが茨城大学でも昨年度から一般教育を担当する教養部が解体し、人文学部が人文科目の責任部局となった。われわれは社会の幅広い教養ニーズに答えるべく努力を重ね、本年度も昨年並に1~2年生向けとして64本の人文科目を開講することにした。それにはコミュニケーション学科や教育学部の協力があることである。人文学科では語学系教官を除き、大半がこれに参加している。

人文科目の目ざすものは「全人的な人間形成にとって、人文科目は最も基本的な学科目である」という理念のもとに、心の豊かさを得ることを重点目標として開講する。さらに条件を整えば、開講する科目を増して行きたいと考えている。

(茂 木)

社会科目専門部会

社会科学系一般教育の学び方・考え方

入学おめでとう。幸か不幸か、君たちが生きている現在、特に日本の現在は、深刻だけれど面白い時代です。それは色々なものが変わったとか、量的に変わったというよりもほとんど質的に変化しつつあります。すなわち、あらゆる領域で既存の枠組みの自明性が疑われるようになったことであります。

政治におけるハード中心の利益政治、経済における「日本的経営」、人生目標として考えられてきた大きな組織や会社に入ること、勤めることの自明性、それを準備するための小・中・高・大学教育、又これまでの結婚観、男女関係、家族のあり方、等々が一せいに自明性を喪失しはじめています。

学問というのは、社会の普通の仕事と同じように、答えがわからないことを何とかする、ということです。その答えを自分で探し、つくるための、これまでの人類が蓄積してきた知識、知恵、方法を学ぶのが、一般教育だと思います。社会科学はその中の特に人間の集団的な動きにかかわるものです。

社会科学系の一般教育の学び方では、一つは、M.

ウェーバーがいうように知ること自体が面白い、楽しい、ことがあります。これは是非享受して下さい。もう一つは、自分、あるいは自分をとりまく人間たちの、過去、現在、未来に関する軽い、あるいは切実な問題を頭において講義を聞くことだと思います。たとえば、自分の家族はどうなるだろう、就きたいと思う仕事のグローバルな背景もふくめた将来は、あるいは“自分の子ども”のあり方は、などなど。

通常は自分の生き方、夫としてのふるまい、職業人のふるまい方、などもふくめて答えが決まっていた、マニュアルがあった時は、自分の日常生活の自明性を疑うことは難しかったのですが、現在はその点は“楽”な時期です。

講義をする教官の知識や方法を自分の切実、あるいは軽い問題と組み合わせて、答えを考えて下さい。本人が言うのでまちがいないのですが、大学の教員は全体としては善意の人でやさしく寛容です。だから、講義中あるいは、その前後に、是非、自分の問題と講義の内容のさけめ、つながりから生じた、話したいことを、教員に話してみして下さい。ずいぶん新しい展開があると思います。

(雨 宮)

自然科目専門部会

分野別科目の自然の分野は「数学」、「統計学」、「物理学」、「化学」、「生物学」、「地球科学」および「現代の科学」の7つの授業科目を開講しています。前者の6科目ではそれぞれの分野特有の方法や視点を含めた基礎的な講義を行い、「現代の科学」では現代社会と自然科学とのつながりを考えた講義が用意されています。昨年センターでおこなった教養教育に関する基本調査によりますと、自然の分野についてはクラス分けや授業の程度、内容について学生諸君から不満がありました。授業については、内容が専門的すぎるという声が多かったようです。一方で宇宙関係や生物学の講義には学生諸君が殺到しています。自分の興味のある科目にかぎらず、幅広い分野の履修を希望しています。ところで、自然科学の多くの分野は実験を伴います。理系の学生諸君は専門科目で実験を受講しますが、文系の人は自

然科学の実験をおこなう機会がありません。そこで、今年度から実験を伴う講義を文系向けの「化学」と「生物学」で1本ずつたてました。将来的には、ビデオ教材などを利用した講義も大幅に取り入れられるよう、設備面の検討をしています。しかし大学では、講義を活かすには受講生である学生諸君の勉強努力も必要であることを忘れないでください。

(森 野)

総合科目専門部会

平成9年度の総合科目では、目玉商品とでもいうべき特別企画を四つ用意しました。名づけて＜21世紀シリーズ＞、＜生涯学習シリーズ＞、＜学長・学部長特別講義シリーズ＞、＜体験学習シリーズ＞の4本です。

＜21世紀シリーズ＞では前年度、『21世紀社会への提言』と題して、茨城県知事、水戸市長はじめ、各界の第一線で活躍中の方々を講師に迎え、大きな反響を呼びました。今年は、前期に『21世紀文化の創造』、後期には『21世紀の政治と社会』を開講し、再度、茨城県知事に登場して頂く予定です。

また昨年は、茨城大学・生涯学習教育研究センターと連携して、『今を生きる人間学』を開講し、一般市民と茨城大学生が一つの教室で学習するという新しい授業の形を創出し成功しました。今年もこの方向をより発展させて、パート2、パート3へと繋いでいきたいと考えています。

茨城大学学長・学部長の先生方を教室に招き、自ら研究者としての生活から得たさまざまな知識や研究生活への案内を特別講義していただく授業は、学生の皆さんからもアンコールの声が出ております。この授業もシリーズとして存続させていきます。

＜体験学習シリーズ＞では、夏季集中形式の授業『身体活動科学』を雄大なカナダの大自然の中で開講します。カナダ国立ローレンシアン大学を舞台に、茨城大学の若者たちの勇姿が輝く日を、私たちスタッフは今から楽しみにしています。

(松 井)

キャンパス情報

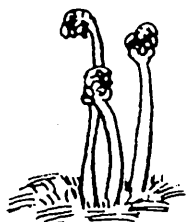
人文学部から

新入生の皆さん。入学おめでとうございます。それぞれに“夢と期待”を抱いて人文学部に来られたことと思います。入学時の新鮮な気持ちを失うことなく、4年間の大学生活を充実したものとして過して下さい。

さて、人文学部では、4月10日、11日の2日間、3学科に分けて履習ガイダンスを行います。4年間にどのようなことが学習できるのか(カリキュラム体系がどうなっているか)、また、当面、1年次の履習申請をどのように行うか等々しっかり説明を聞いて下さい。また、4月16日～25日の間、履習相談を受け付けます。自分が4年間かけてどれだけのことを学びたいのか考えながら、1年次の履習科目を選択して下さい。なお、各学科とも1年次必修の専門科目があります。これは単位を落とすと後が大変ですので、しっかり履習して下さい。ついでに書いておきますと、大学の教師というものは学生と話をするのが大好きだという人種です。講義の中で良く分からなかったところ等は、積極的に質問するようにして下さい。

ところで、コミュニケーション学科2年生に連絡があります。8月から9月の6週間、カナダのマギル大学で行われる英語研修の参加申込みを4月中に予定していますので関心のある学生は、掲示に注意して下さい。

(有 泉)



教育学部から

入学おめでとうございます。待望の大学1年生、いま、どのように感じていますか。

茨城大学の教育学部は、大手優良デパートに例えられます。各階ごとにいろいろな専門売り場があり、楽しくお買物ができます。また、ウインドショッピングだけでも楽しいところです。生活必需品から高級品まで品揃えも豊富です。心からお待ちしています。でも、毎年のように2割位のお客様はお買物せずにお帰りになります。これは、自分だけでお買物ができない方がおられるからです。

大学は自分で学ぶところです。そのためには、高等学校までに修得した自己教育力をよりよく磨いてください。学問とともに、4年間で次の3つのことを会得されることを望みます。1つ目は、多くの友人との接触及び客観的自己(親友)をもつことです。多くの考えや行動に触れることから自己形成ができます。そのためにはクラブに所属することも考えて下さい。2つ目は、自分の趣味や特技を伸ばして下さい。一つのことで自信があれば、自信をつける過程を知っていることから、できないことでもできるようになります。苦難に打ち勝つ動力にもなります。3つ目は、当り前のことは当り前にできるようになってください。例えば、挨拶をする、ごみを散らかさない、掃除する、………当り前ですね。

(小 室)

理学部から

新入生の皆さんへ

入学おめでとうございます。これから4年間(長い人では大学院博士課程まで9年間にもなるかも知れませんが)宜しく願います。この期間は社会人としての価値を高める極めて大事な時期ですから、自覚に基

づいた積極的な勉学・生活をお願い致します。

皆さんは理学部が現体制に変わって3回目の入学生です。私達にはそれなりの親しい体制になりつつありますが、数・物・化・生・地の区分でずっと教育を受けてきた皆さんには、やや戸惑いのある体制かもしれません。逆に、他に例を見ない斬新な学科名や講座名に、どんな新しい教育が受けられるのかと、期待している人も多いかも知れません。

現体制の最大の特色は、その柔軟なコース選択にあります。1年、2年の間は学科にとらわれない共通科目が多数受講出来ます。初歩ばかりを学び散らかすのは有益とは思えませんが、その間に自分の打ち込める分野、またそれに広がり、柔軟性を与える関連分野を発見、基礎を学んで下さい。

5講時制ですから、1学期間でも多数の単位が修得出来ますが、やはり専門教育のハイライトは、2年次後期以降の専攻科目です。オードブルの食べすぎでメインディッシュの頃は食欲なしは頂けません。なお2年次を終了する時点で専攻分野を見据えて、転学科をすることも可能です。

最後になりましたが、理学部校舎は脱靴、禁煙です。ご協力をお願いします。(川 田)

—◇—◇—◇—◇—◇—◇—

工 学 部 か ら

「地域と連携した教育・研究環境の日立キャンパス」

新入生の皆さんへ、工学部における地域と連携した教育システム、①他大学との単位互換制度、②連携大学院方式による教育、③イブニングセミナーについてお知らせします。

①は茨城大学と日立市内にある茨城キリスト教大学およびシオン短期大学との間で定められた単位互換制度です。工学部とは雰囲気異なる授業に接することができ、単位取得ができます。受講料は無料です。

②は茨城大学大学院理工学研究科の教育方式の特色の一つで、周辺地域に立地する研究機関や企業に所属する研究者を客員教員に迎え、学生の講義と研究指導にあたっていただくものです。これにより学生に幅広

い教育と研究の機会を提供できます。平成8年度は日本原子力研究所、NTT、日立製作所から客員教員を迎えています。

③は茨城大学大学院理工学研究科・後援(財)小平記念会高尾基金により、地域に立脚した開かれた大学としての活動とリフレッシュ教育の一層の充実を目指し、企画されたセミナーです。毎週決まった曜日の夕方に、工学部で開催されます。開催日時と講演題目の詳細はイブニングセミナープログラムに記載されます。どなたでも参加でき、受講料は無料です。

実りある学生生活を希望しております。(百 瀬)

—◇—◇—◇—◇—◇—◇—

農 学 部 か ら

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。大学生になると勉学や私生活など全ての面で自由度が今までより増しますが、どうか何事も知的好奇心をもち充実した4年間を送るよう心がけて下さい。

この4月より阿見キャンパスでは、専門教育の新カリキュラムが2年次生を対象にスタートします。新授業科目の追加や科目名変更で各カリキュラムとも充実した内容となっています。新カリキュラムに伴う授業科目数の増加と阿見キャンパスでの新たな教養科目(情報関連科目、総合科目、主題別ゼミ)の開講により、授業時間割も満杯に近い状況となりました。

農学部は4月、建物を取り巻く若葉と茨大通りの桜並木により、いかにも新学期らしい風景となります。2月の試験にいられた時のイメージと違った阿見キャンパスを見に来ていただきたいと思います。阿見キャンパスの主要建物は既に整備されましたが、福利厚生施設(食堂、売店等)や附属農場の家畜舎・機械器具庫などは未整備の状態です。皆さんが在学中にこれらの施設整備も順次進むことになるでしょう。また、実験設備・装置も毎年充実されています。例えば、平成8年度は「組換え植物体育成用日長調節装置付きファイトロン」が設置されました。数年後には、素晴らしい教育・研究環境が整った農学部になると思われます。(森 泉)

私にとっての主題別ゼミナール

清水泰紀（人文学部，2年）

大学に入ると高校とは違い、とても多種多様な授業があります。その中でもほくにとって少し特別なものになるのが主題別ゼミナールです。普通の授業と異なるところはいろいろあると思いますけど、一番異なるところは“参加している”という意味にあるでしょうか。ほくのっている主題別ゼミは生徒がたったの6人しかいません。だから先生のオフィスに生徒は集まります。とてもアットホームな雰囲気が進められます。内容的には、一人がテキストに書いてあることを発表して、他の者がそれについての意見、質問などを発言していくという方式です。なので生徒の発言が授業を作っていくというでもいいでしょう。授業を“受けている”というよりは“参加している”という方がしっくりくるでしょう。ここで使っているテキストの内容はというと、マルクス主義やフェミニズムなどの思想から大衆娯楽の構造までと、とても分野が幅広く、興味を持てるものなので意見や質問も出しやすくなっています。たまに理解しにくいものがあると、先生が縦横無尽なジェスチャー付きの説明をして下さいます。

この主題別ゼミでは最終的にレポートを提出するのですが、学んでいる分野が幅広いので、例えば「ドリフターズ」が好きだったら「荒井注と志村けんの交替後の笑いの相違」なんてテーマでもいい。しかしテーマを決めるにしても選択する幅が広いので逆に何でも自分でしなければならぬ。つまり“与えられる”のではなく“自ら探す”ことにより自主性が養われます。あたり前のことですが、大学生になった以上はそういう作業をしていき、そうすることにより自分のアイデンティティを確立することが大事なのです。ほくにとって主題別ゼミはその第一歩というところです。

菊池由美子（教育学部，2年）

私が大学で学ぶうえで決めていることは、決して妥協しないことである。つまらない講義でも、ちょっとしたレポートでも、真剣に取り組んで、本気で考えれば必ず自分のためになるし、実際勉強は楽しい。学ぶことが苦になるかどうかは個人の気持ちの持ち様だと

思う。せっかく大学にいるのだから、私は心ゆくまで勉強し、刺激を受けようと思っている。

さて、私が大学生活の中で最初に刺激を受けることになったのは主題別ゼミナールの授業である。テーマは「総合的見方と個別的見方」ということで、堅苦しい印象を持ったまま授業に望んだが、これが予想外に面白かった。私の所属する総合教育課程は今年度開設されたばかりであり、その分担当の先生方の意気込みが直に伝わってくるような気がした。授業の中では作業が多く、否応無しに考えることが要求されていて、さまざまな課題を取り上げながら「ものの見方」について学べる授業である。この授業を受けてみて、私のものの見方、捉え方も少なからず変わったと思う。というよりも、一つの事柄を考えると自分に自信が持てなくなってしまった。良くも悪くもそれほど影響を受けた授業なのである。そして、最後の課題として出されたものが「水戸キャンパスの空間利用調査報告」というものであった。私が選んだ題材は「キャンパス内の交通事情」である。テーマからは少しずれているが実際に問題は山積みされており、どうせ研究するのならその後も利用価値のあるものをお願い、徹底的に調査・研究したつもりである。結果、今までの授業から学んだことを生かして、自分としても十分に納得できる、偏りのない考察ができたと思う。これが少しでも大学側に受け入れられ、環境改善のために取り上げてもらえれば、なお価値のある研究になったと思う。それは難しいことかもしれないが、大学という学びの場が一方通行にならないための最善の方法として、こういった、試行錯誤しながらの学生の小さな研究にも目を向けてほしいという感想を持った。学生の自主的な学習を目指すならば、それを受け入れる柔軟な態度が大学側にも求められるのではないだろうか。

杉山智美（人文学部，2年）

ゼミ＝今まで経験したことのない大学デビューの授業形式という観が強いが、実際まったくその通り。大学生してると感じられるひとときだ。ちなみに私が受講した主題別ゼミナールは簿記、他のゼミが問題演習中心なのに対し、このゼミは問題演習中心であったか

ら「学生間のやりとり」というゼミの醍醐味こそ味わえなかったか、簿記の知識が養われていくのがうれしくて結構楽しんでた。

口の字型に並べられた席に座れば正面は学生（もちろん教官の顔を拝める場合だってある）という点からして、ゼミはいかに学生の主体性重視の講義であるかが分る。皆が皆教官を正面にみる普通の講義と違って教官はサポート役。だが、なに、ゼミを厳かに発表す

る場と思ってはいけない。時折みられる教官のお茶目なトークは場を和ませてくれるし、やろうと思えば教官ぐるみで会食することも可能（のはず）。「うちのゼミは白けてる」なんて言わず、ゼミ仲間と科目を越えたコミュニケーションを楽しもう。そこにゼミの原点があるように私は思っていてやまない。皆がそんな気持ちで臨めば、ゼミはさらにおもしろくなるだろう。まずは新しいゼミ仲間に話しかけてみて！

V o i c e

鎌田純也（理学部，2年）

1年生で入って来ると、まずサークル活動が気になるのでありませんか。サークルもいろいろあって一概には言えませんが、友人ができたり、新しいことに挑戦したりでいろいろ楽しいものです。

ですがそこには落とし穴もあります。入学当初は目標や夢をもっていたり、又はそれがなくとも大学に何かを期待しているのではないかと思います。それが、いざ授業をうけてみたら何かつまらない。大学ってこんなものか。そしてサークルでそういう仲間が集まると、みんなでなくさめ合いをして酒飲んで遊びまわる。これでいつの間にか時間が過ぎていって、後になって「こんなはずじゃなかった。」なんて言っただけで大事な青春時代は帰ってこない。

大学は学問の場であるとともに、自分を見つける場です。寂しさを紛らす場ではありません。やりたいことがなかったらそれを見つけるために努力すればいい。本を読むのもいい。いろいろな先生の研究室を訪ねてみるのもいい。一人で旅に出て詩を書いてもいい。とにかくこの一瞬一瞬を大事に情熱をもって行動する。これが大切だと思います。家でごろごろ寝てたって何もはじまらない。

新入生のみなさん、明るく楽しくやっていこう。

榎原淳二（工学部，2年）

メディア通信工学科に合格したみなさん、おめでとうございます。これから、茨城大学で勉強するわけですが、学科の名前と違い、一年生のときは、コンピューター関係の講義はまったくありません。一年のうちは、教養科目といって、いろいろな分野の勉強をします。これは、水戸でしかとれないものが多いので、なるべく多くとっておいたほうがよいでしょう。

大学とは、専門的な事を学ぶだけの場所ではない。ま

して、工学部なんか、2年次以上になれば、無理矢理にでも、あの寂しい日立校舎へ移動し、専門的なことをするのだから、いろいろなことに目を向けることができるのは、1年のときしかない。1年間、水戸校舎に通うのだから、いろいろな学部の人々と交流をもち、たくさんのことを学べ。もう私達は2年生。君らがうらやましいぜ。

熊田佳椎（農学部，2年）

この春、茨城大学に入学された皆さん、おめでとうございます。

私が期待半分不安半分の気持ちで茨城大学に入学したのが今年の春。大学生として過ごした時間はまだ短く、大学自体、私にはまだ未知の部分があります。

勿論大学について身に染みて分かったこともあります。例えば大学というところが、自分が受け身でいては何も得ることのできない所だということ。しかし同時に、自分がその気になれば確実に何かを得られる所でもあります。自分のための学識であれ、信頼できる人間であれ、茨城大学に入学した以上は、大学という場と与えられた時間とを自分なりに活用して、価値あるものを見つけ出したいものです。

自分の心掛け次第で、大学生活は大きく変化するはずです。常に前向きでありたいと私は思っています。

これはあと三年間の大学生活に臨む自分への希望でもあります。新入生にこの文を寄せるにあたっては、一年間を振り返るよりもこちらを述べるほうが私にはふさわしく思われ、そうさせていただきます。

最後に、私は結果というものはあくまでも、物事の後からついてくるものだと考えています。新しい生活への不安があるにしても、あれこれ思い悩まず、自分の思う通り前向きに進んでいけば、自分なりの結果は必ず実る。そういうものではないでしょうか。

教 養 教 育 東 西

General Education in Canadian Universities

There are a number of differences between studying in Canadian university or in Japan--differences which are crucial both for those who teach in the institutions and those who study.

In Japan, students must write entrance exams for each institution to which they are applying--and once they are within the university system, if they wish to change departments, must write entrance exams for each department.

In Canada, the marks student receives at the end of high school is used for university entrance. There are no further exams. Once accepted into university, the student has the freedom, depending on the number available places and his/her marks, to change departments. At no time does the university choose the programme for the student, although a student may have difficulty entering the classes of first choice because they may already be filled.

If a student wishes to go on to graduate school, the grade received for the university courses are sent on to the graduate school. Again, there are no further entrance exams.

As a result, the work the student does in university has serious weight. The professors feel the pressure as much as the students do to help the students attain their goal. If, for example, students are accepted into graduate school with good grades, but are poorly prepared in their field, then it reflects badly on the professors who taught them and on the university in which they studied. In the Japanese system, write entrance exams which have nothing to do with the university at which they are studying. Students can (and do) relax at university and prepare for entrance exams later.

Courses in Canadian universities are also structured differently. A full load is usually five courses. Each course may have between two and three hours of classes, so the number of class-time hours may be 15. Each course will usually require at least one full-length research paper (this may vary from 10, to 15, to 30 pages ; almost always the topic is student's own choice), and a final exam. Often there will also be a midterm exam. There is always a required reading list to prepare for the classes. The required reading list may carry with it required book reports.

Attendance may or may not be mandatory, depending on the professor's requirements, but doing the assigned work is.

In Canada, a student's undergraduate career may determine a student's future work career in a way not as usual here where, as noted above, students write entrance exams for a particular graduate school and where the simple fact of gaining entrance and graduating from a university is given more credibility. It is easier to gain entrance to universities in Canada, partly because there are more places, but because of the workload and the weight given to good grades, students must work harder to do well and to graduate.

(Linda Ghan)

掲 示 板 コ ー ナ ー

奨 学 金 制 度

「奨学金についての問い合わせは、学生部厚生課へ」

☎ 2 2 8 - 8 0 5 9

奨学金制度として、1)日本育英会、2)地方公共団体・民間団体の奨学金制度がありますが、いずれも人物・学業とも優秀で経済的理由により、学資の支弁が困難と認められる者に貸与されるものです。

1) 日本育英会

【奨学金の種類及び貸与月額】

第一種奨学金 無利子貸与

第二種奨学金 有利子(年3%)貸与

併用貸与 第一種奨学金の貸与を受けても経済的に著しい困難があると認められる者については、第二種奨学金を併せて受けることができます。

(注)大学院博士後期課程の場合は、第一種奨学金のみです。

入学年度		平成 7～8年度	平成 9年度～
区 分	学 部		
	専攻科		
大学院	自 宅 通 学	38,000	40,000
	自 宅 外 通 学	44,000	46,000
	修士・博士前期	81,000	83,000
	博 士 後 期	112,000	115,000

【出願資格】

第一種奨学生 …… 人物・学業ともに特に優れ、経済的理由により著しく修学困難な者

第二種奨学生 …… 人物・学業ともに優れ、経済的理由により著しく修学困難な者

出願方法

1年次(1次募集) }
2年次以上 } 掲示を見てください。

大 学 院 生

専 攻 科 生 …… 入学手続の際、お知らせします。

1年次 (2次募集) } 7月中旬、掲示により
2年次以上(補充採用) } お知らせします。

※ 主たる家計支持者の失職、死亡又は災害等による家計急変のため、緊急に奨学金の貸与が必要になった場合は、随時出願できます。

【奨学金受領資格の確認】

奨学金の適正な交付を行うため、年2回、奨学生の受領資格及び異動事項等について確認を行います。確認期間中に手続きを怠った者については、奨学金の払込保留、廃止等の処置をとりますので、必ず確認を受けてください。

受領資格確認の期間

期 間 : 5 月上旬 } 詳細は掲示により
11 月上旬 } お知らせします。

【在 学 届】

次に該当する者は、速やかに在学届を提出してください。

在学届を提出することにより、本学在学中は、奨学金の返還が猶予されます。

- ・高等学校で日本育英会の奨学生であった者
- ・貸与終了者で、大学又は大学院に留年している者

【進 学 届】

高等学校在学中に、平成9年度大学第一種奨学生採用候補者に決定されている者は、4月14日(月)までに進学届を提出してください。

進学届を提出した者は、在学届を提出する必要はありません。

2) 地方公共団体等

本学に募集の案内があったものについては、その都度掲示によりお知らせします。

本学に募集要項を送付してくる団体はごく一部です。希望する学生は、各自、奨学関係団体(県の教育委員会など)に直接照会してください。

《平成8年度本学へ募集案内のあった団体》

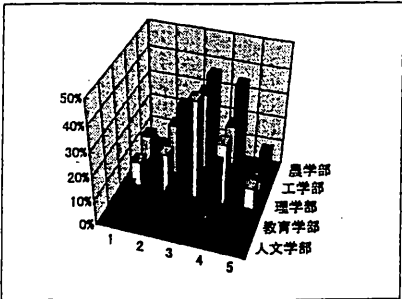
茨城県	(財)宮崎県奨学会
岐阜県	(財)川口育英会
宮崎県	(財)電通育英会
石川県	(財)大阪府育英会
新潟県	(財)中村積善会
富山県	(財)山口県奨学会
福島県	
鹿嶋市	

教 養 教 育 N O W

「Rosa Plumula」No.2で、教養教育についての基本調査Ⅰの調査結果を一部紹介しましたが、今回は後学期に行った基本調査Ⅲ、Ⅳのうち、特徴的な結果について紹介いたします。
(吉 田)

予備登録の方法や結果についての満足度 (調査Ⅲ：設問8)

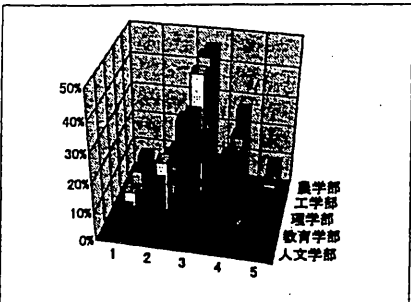
所属学部	人文学部	教育学部	理 学 部	工 学 部	農 学 部	不 明	合 計
1：非常に不満	14	13	12	25	2	0	66
2： 不満だ	55	36	20	38	13	0	162
3：まあまあだ	93	79	48	68	30	2	320
4： 満足だ	47	44	31	45	28	0	195
5：非常に満足	14	9	11	7	7	1	49
無 回 答	3	3	1	2	0	4	13
合 計	226	184	123	185	80	7	805



後学期に新しく導入した予備登録については、前学期のクラス分けについての満足度とほぼ同ような結果となっており、今後更に改善することが必要ではないかと思われます。

授業内容は期待にこたえたか (調査Ⅳ：設問9)

所属学部	人文学部	教育学部	理 学 部	工 学 部	農 学 部	不 明	合 計
1：内容不足	14	11	11	22	10	0	68
2： ー	56	41	34	41	17	0	189
3：平均的	179	111	97	144	68	1	600
4： ー	129	76	44	70	40	0	359
5：内容が豊富	52	41	18	24	13	0	148
無 回 答	3	2	3	0	0	9	17
合 計	433	282	207	301	148	10	1381



分野を超えた教養科目の授業内容満足度は、おおむね評価が高いことが分かります。さらに改善を志向します。

ティーチングアシスタントは有効だったか (調査Ⅳ：設問10)

所属学部	人文学部	教育学部	理 学 部	工 学 部	不 明	合 計
1：非常に不満	3	1	1	0	0	5
2： 不満だ	1	1	1	1	0	4
3：まあまあだ	13	9	15	0	0	37
4： 満足だ	28	16	20	0	1	65
5：非常に満足	28	34	27	0	0	89
無 回 答	0	0	1	0	2	3
合 計	73	61	65	1	3	203

情報教育ではティーチングアシスタントの協力を得たが、それについてもおおむね好評でありました。

WWWと大学改革と

2月1日でセンター長を辞任させていただいた。準備委員会から21か月、大学改革に没頭してすごしたことになる。その間、勉強したいことが鬱積していた。WWWだ。◎2月3日から本格的にとりかかる。ホームページを管理するにはHTMLを基本にして、ActiveXやVisual Basic Scriptなどを学習しなければならない。イメージやサウンドの加工ソフトウェアもずいぶん進歩しているという。21か月で浦島太郎になってしまった。◎幸い、わが盟友、仲根健先生(数学・農学部)はネットサーフィンの達人だ。お願いして、国の内外を駆けずり回っていただくことにした。約1か月、数百におよぶ文献・資料・アプリケーションなどを、HTMLを中心に収集していただく。◎バーニアから1 Mbを超える圧縮ファイルが数分で届く。

かと思うと、東京から数+Kbのファイルを取り寄せるのに、数時間かかる。達人をもってしても、WWWいまだしといわざるをえない。◎大学改革も事情は同じだ。重要と思われる事項があっけなく決定される。些細にみえる事項がこじれてついに結論が出ない。会議を重ねたわりには、私の改革の夢が20%実現されているかどうか危惧する今日だ。◎最大の問題は、学生諸君の声をこの改革にほとんど反映できなかったことにある。学生、教官、事務官の間に太い光ケーブルの敷設が、切に期待される。WWWが理想どおり走る日は目睫の間に迫っている。大学改革が理想どおり走る日はいつになるのであろうか。

(農学部 谷口 晋)

教養教育舞台裏こぼれ話

こんなこともありました。
相手を思い遣る気持ちを大切に。
なかなか言うことはできても実行することの難しさ、
チョー難しい。
最近の学生はよく窓口で手続きで来る時には男女ベアで来るのをよく見るようになりました。お互いにアドバイスをしながら仲むつまじく手続きをすましていく、何ともうらやましい光景を見る。
その反面一人で窓口に来てカウンターの前をいった

り来たり何の用事があり来たのか意思表示をしない学生が多くなっていることも確かである。

どんなことでも分からないことがあれば窓口にいる事務員に声を掛けてほしい、勇気を持って。私も老母心ながらそういう学生がいた時には、なるべく声をかけてあげるようにしています。

まず、男女ベアでなくともいいから大学生活で多くの友達を作る、良きアドバイザーとなる訓練もしてはどうだろうか。
(X・Y)

つ ぶ や き

新入生を迎え、大学が活気づく新学期に、新入生歓迎号をお届けします。今号は、あれも知らせたい、これも盛り込みたいと欲ばったためか、文字で埋めつくされたローザ・ブルムラになってしまいました。センターから皆さんへの想いが熱すぎたためとお許し願います。次号では「外国人留学生からみた茨城大学」を企画いたします。留学生の皆さんの寄稿をお待ちしております。バイバイ。
(H.O.)

発行日 平成9年4月
発行者 茨城大学
大学教育研究開発センター
水戸市文京2-1-1
029(228)8416〔企画室教養教育第二係〕

Rosa Plunula

ローザ・プルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター №5

最近、他大学の教養教育の実施状況の一端を知る機会を得た。総合科目と主題別ゼミナール（他大学では基礎セミナーともいう）は、多くの大学で特徴あるものにしたいと考えていることがうかがえた。しかし、総合科目は評判の良い人気科目である一方、コーディネーターの先生が大変な苦勞をされている。今後、継続していくにはどの大学でも学内の多くの先生方の協力が必要となることは言うまでもない。本学では、現在教育学部が責任部局となっているが、他学部の協力が十分得られるような仕組みができることが望ましい。

主題別ゼミナールは、全学で統一的に実施している大学が多い。特に文系と理系の学生を一緒にしたクラス分けで実施しているところもあったが、長短あるように思われる。しかし、この科目の趣旨に沿ったガイドブックが全学的なものとしてあってよいのではないかと思う。本科目だけ責任部局が各学部という点、一考を要するかもしれない。

それにしても、学生諸君からの質問の少なさや気力を感じるのが少ないように思うのは私だけであろうか。頭を十分活動させ、理解しようと努力しながら授業を受けていればいくつかの疑問が浮かび、それは質問によって理解が深まる場合もあるのではなからうか。授業時間はぜひ有効に過ごしてほしいものと思う。

（奥）

はじめての試験だー

アツーイ、蒸しあつーい！早く来い、ナガイ夏休み！オット、その前に試験だぜ！

さて、試験科目は？。ゲッゲーこんなにあるの！と、慌てている学生はいませんか？。近頃は、1～2年次でたくさん単位を取る者が多く、2年で平均80単位、多い場合には120単位を取っている学生がいる学部があります。たくさん勉強するのはよいことですが、授業の取り過ぎには御用心！。大学の授業は、講義90分に対し予習、復習に180分かかるとを基準にし、組まれていることをご存じですか。大学での授業時間割を目一杯組んでしまうと、試験期に地獄を見ることになりますよ。大学に入ったからには、じっくり勉強して頂きたいものです。

大学での試験。また試験！そろそろ試験、試験・・・の生活からも解放されたいと思いませんか？

（いや、すでに解放した者もいるかな？）。学生である限り付いて回る宿命と覚悟を決めていますか？。高校での試験には、その向こうに大学入試が控えていたでしょう。では、大学での試験の先に何か見えますか？。一部には、大学院進学、教員採用、就職・・・試験が見えるかもしれません。しかし、それは、大学入試ほど鮮明ではなく、遠い先のぼやけたものでしょう。（目の前には、大学卒業に必要な単位獲得との目標があるでしょうが）。そうなんです、大学での試験には決まりきった拘束はないのです。今のこの時期をどのように有効に活かすかは学生一人々が決まればよいのです。今の時期に何を獲得し、身につけるのか各自の目標を定めて、慌てず騒がず取り組めると最高ですね！。

（横沢）

キャンパス情報

人文学部から

4月に本学に入学した1年生もようやく大学生活に慣れてきたと思います。前学期の試験も間近に迫ってきました。人文学部所属の学生諸君に2つほどお知らせがあります。まず第一に、夏期休業中に教職科目の集中講義が幾つか行われます。教職科目は原則として指定された学年に履修するようになっていますから、教職をとる学生は人文学部の提示板に注意してください。例えば1年次生向けには「中等教育原理」の集中講義が行われます。第二に、非常に残念なことです。昨年度人文学部で他の学生の提出したレポートをレポート受けから勝手に取り出し、名前だけを書き換えて提出すると

いうことが起こりました。（この件に関しては既に学部の掲示板にも掲示してあるので知っている人も多いと思います。）これは試験中のカンニングよりずっと悪質な行為で決して看過することは出来ない事件です。今後このような事が再発しないことを願うばかりです。

さて、コミュニケーション学科所属の2年生の内20数名がこの夏カナダのマギル大学での英語集中講座に参加しますが、それ以外の学生諸君も色々と夏休み中の計画を立てていると思います。大学生の特権であるこの長い夏休みを有意義に過ごし、気分を新たに後学期の授業に臨んでください。

（伏見）

教育学部から

入学後3ヶ月を経過して、教育学部の新入生諸君もようやく大学生活に慣れてきたのではないのでしょうか。

今年度は入学時のガイダンスに加えて、数日間の履修相談の日を設定し、かなりこまやかに学生諸君の履修相談に対応できるようにしましたが、有効に利用していただいたでしょうか。主題別ゼミナール等の機会を利用して、履修上の未解決の問題はなるべく早く解消してください。

また、今年度から教員養成課程における教職に関する科目は履修指定によって各曜日の午前中にカリキュラムが組まれています。履修指定通りに履修すれば未履修者がでないように配慮されてい

ますが、学生諸君の履修計画にそれが有効に機能しているでしょうか。

教育学部全体で見るとかなりカリキュラムが複雑なように見えますが、学生諸君が取得すべき履修科目は所属する課程にかなり拘束されているので、履修そのものはそれほど複雑ではないと思います。つまり、カリキュラムの複雑さに比べて履修の自由度は低いと言えます。履修の自由度が低いということは、しかるべき単位を取得できないと、その影響が後々まで残るということです。間近に迫った試験に心して備えてください。後顧の憂いを残さないために。

（相馬）

理 学 部 か ら

理学部が5学科から新3学科に改組されて2年余りが過ぎ、3年次生までが新学科になっています。今年度は3年次編入生が15名あり、教務委員会で単位認定の案作りをしたのですが、その際に改めて、理学部のカリキュラムが年ごとに変遷して複雑であることに気づかされました。今回、カリキュラムに関連して気がついたことを少し書いてみましょう。実は平成6年に理学部改組を先取りする形でかなり大幅なカリキュラム改編が行われました。そのときに専門科目に共通科目という枠ができ、目玉として「対話ゼミナール」を作りました。平成7年に理学部改組、平成8年に教養部の解体と続きましたが、同時に全学的なカリキュラム改革がなされました。その間、全部専門に引き上げた「自然」の教養科目を1年後に復活させるという

こともありました。1・2年次生と3年次生で、教養部分の卒業要件がかなり違っているのは、そのためです。また、カリキュラム改革の目玉として、「主題別ゼミナール」(教養)を作りましたが、今年から実施されます。7月中に「主題別ゼミナール」のクラス編成を行う予定ですので、理学部の2年次生は注意して下さい。理学部では、「対話ゼミ」と「主題別ゼミ」という似たような(専門と教養の違いはあっても)授業があり、先生達の負担は大きいと思います。新体制になってから、何でもいからと単位を取りまくる学生が少なくないようです。2年を終った段階で卒業に必要な単位の大半を取っている人も中にはいるようです。いろいろと勉強することはよいことですが、自分の将来計画を考えて焦点を絞ることも重要でしょう。

(日合)

工 学 部 か ら

日立キャンパスでは現在整備計画が進行中で、特に今は建設ラッシュです。昨年のシステム工学科新棟の完成に続いて今は情報工学科棟の新築工事が今年度完成の予定で進行中です。また昨年度の補正予算で認められたサテライトベンチャービジネスラボラトリ(SVBL)の施設の建設が開始されました。それらの工事のためキャンパスがかなり狭く感じられます。数年前までは教職員と学生が自由に構内に車を乗り入れ駐車出来ましたが、現在では許可制になり、パスカードを利用した自動ゲートが設けられ、車のキャンパス乗り入れが規制されています。また次に予定されている都市システム工学科の改装に続き残りの学科棟の新築や改築が計画されています。これからかなり長期にわたり工事が継続されることを考えると、現在の交通規

制が今後暖くなることは期待できそうにありません。さて聞き慣れないSVBLについて少し説明します。この施設は次世代の科学技術やベンチャービジネスの萌芽となりそうな独創的な技術の実用化を目指した研究の推進と研究開発による実践的な教育により創造的な人材を育成することを目的とした施設です。昨年度までに工学系学部を持つ24の国立大学に認められています。

キャンパスが離れていて1年生には工学部の情報は入りにくいと思いますが、時間を見つけて日立キャンパスを訪れてみて下さい。たとえば毎週木曜日夕方開かれているイブニングセミナーにでも参加してはいかがでしょうか。また、分からないことや聞きたいことがあれば気軽に水戸キャンパスに出講している工学部の教官に声をかけてみて下さい。

(神永)

農 学 部 か ら

1年生の皆さん!。大学生活はいかがですか。エンジョイしていますか?。今回は農学部の附属施設であ

る農場について紹介します。

附属農場は農学部隣接していて、面積は22haもあります。水田、畑、果樹園、畜舎、温室等があって、

現在、都市近郊型の近代的農場の建設を進めています。水田、畑作、園芸、農業機械の各部門に専任の教官がいて、稲、麦、野菜、果樹、草花等の栽培研究をしています。また、和牛、豚、綿羊も飼育・管理しています。

魅力ある実践的農業教育を目指しており、実習科目として農牧場一般実習、農牧場専門実習および農業安全管理実習を、授業科目としては農作業技術論、農業安全管理論等を開講しています。卒業論文の履修も可

能です。

今年から始まった2年生対象の農業・農村体験ゼミ（主題別ゼミナール）には予定していた人数を上回る受講者が集まり、実施を楽しみにしています。農牧場専門実習では、田植えから稲刈りまで、稲作の全行程を体験し、学んでみようという5名のチームが誕生し、行動を開始しました。

皆さん！2年生になったら、ぜひ、農場での学園生活も体験してください。（松田）

大学の授業に参加して

富岡ゆかり（農学部、1年）

「農学部で好きな農業を思い切り学んでみたい」。その夢がかたちとなり、専門の授業を受けはじめてから約1ヶ月が過ぎようとしています。好きな農業を学ぶことができていたことが、まだ夢のような気がします。

今、世界では食糧問題が叫ばれています。その食糧を作り出す農業そのものの在り方も、大変注目されています。

“ライフサイエンスとは何か”という専門授業の時、「無農薬有機農法で、一部の人は安全な食物を食べられるかもしれないが、その裏で餓死をする人がいるという現実を知らなければいけない」と先生が講義されたことがあります。この講義を聞いた時に、改めて農業が私たち人間にとってどれほど大切なものであるかということを感じました。そして、一部の人たちだけに有用な農業ではいけないということも感じました。

宮沢賢二が「あすこの田はねえ」の詩の中で、泣きながらからだに刻んでいく勉強があたらしい芽をぐんぐん吹いてどこまで伸びるかわからない、という部分があります。

今話題になっている遺伝子組換え作物や、生命の源である土や水のことなど、学んでいる授業内容はとても興味深いものばかりです。宮沢賢二のような気持ちで、講義を聞き、農学を学んでいきたいと思います。

小櫃 誠（教育学部、1年）

大学生となってはや1か月がたつ。この1か月は本当にあつという間であったが、少しずつ生活のリズムができ、周りを見わたせる余裕もできた。

大学の修業に参加して、いくつか思ったことはあるが、大学というところが、自分から求めていく場所であるというのが1番の実感である。高校までは、学校に行くついでに時間割が決まっており、すべてその予定の通りに行なわれていた。生徒は受け身でよかったのである。しかし、大学は、いくつかの必修科目があるものの、ほとんどが選択であり、外国語をはじめ、自分の学びたい科目が学べる、興味のある分野をとことん追求できるのである。

また、授業を受ける前の履修科目の選択の際には、学科の先輩方からいろいろなアドバイスを頂き、とても参考になった。先輩方に感謝したい。

当分の間は、授業を受けることで精一杯の日が続くかもしれないが、もう少し慣れたら、サークル活動など、授業以外の時間も積極的に動いてみたい。

茨城大学での4年間を充実したものにできればと思う。



V o i c e

留学生から見た茨城大学

ト 国強 (工学部2年)

昨年、茨城大学工学部に合格して、やっと日本に留学の夢がかなった。今振り返って見ると、日本語学校では、緊張と忙しさの日々だったが、大学に入ったら、時間に余裕があり、キャンパスライフを楽しみにしていました。茨大に入って本当によかったと思っています。なんといっても、ここは人情に熱いコミュニティに支えられているからです。留学生に対して、教官たちも親切で、学生たちも偏見を持っていません。国立大だから、留学生に対する経済的負担もかなり少なく、また、チュータ制度によって、チュータの日本人学生からキャンパスライフの指導をいただいて楽しい大学生活をスタートできるようになりました。茨大では留学生向けの国際交流企画により、日本の学生や地域の住民と交流し、日本文化に接することができます。せっかくの留学生生活をより充実したものにするために、私も積極的に国際交流活動に参加してきました。他国の人との交流により、本当の優しさとは一体何だろうか、それは同情でもあわれみでもない、一人の人間として、その人を理解し、文化や考え方の違いを当然のこととして受け止め、それを大切に思うことだと分かりました。茨大の授業については、内容以前に、学生のやる気が問題で、学生にやる気がないなら、何をやっても無駄だと思います。茨大生の中には、しっかりした目標を持って勉強する人も多数いますが、知識を積みかさねていく勉強に熱心でなく、大学入ったらまるで単位と遊びのために生きているような気がする学生も多くいる気がします。自分自身はもっと大学生らしく勉強をしようと思います。大学生は基本的には自由度の高い生活を送ることができますが、与えられた時間を自分なりに活用して、キャンパスライフをより有意義にしていこうと思っています。

主体性をどう考えようか

北島隆行 (人文科学研究科2年)

私の学部時代は、その後半部(3・4年)を学生間・教官と学生間の交流団体(専攻会)活動のなかで過ごした。同じ専攻を志す学生と先生の集合体であるが、1年を通して様々な交流活動を展開した。特に3年生の時は企画の一端を担い、当時のカラーを学生自らの手で演出することに心がけた。

少々小生意気なことを言ったが、1・2年の頃は、というとどんなに頭をひねっても、ただただ授業を受け、サークルに行き、コンパをし、一応それなりの学生生活だった。

しかし、先の「小生意気」を言える素地は1・2年の生活に求めることができるのではないだろうか。やや強引かもしれないが。授業・サークル等狭い空間ではあるが、それぞれの空間でものを見、聞く。考え、行動するまでにはいかないが、今思うとそれだけでもよかったと肯定的に振り返ってしまう。

行動に移すにはそれ以前の、従来の生活や環境に問題点・批判点が前提としてあることは自然である。その問題点の抽出を1・2年で無意識のうちにしていたと考える。おこがましい話かもしれないが。

なにもコトを起こそうというのではない。就職窓口の生活だけではなく、ささやかな要求を満たし、行動するのも悪くはない。主体性は欲求から始まる。皆さんを困む仲間がいる。共に歩もう。



「再度学部一年からやり直すとすれば」

本田 敦（理学研究科1年）

人はその時が過ぎて初めてその価値に気付くものである。大学時代は人生の中で最も多彩な知識と経験を得られる人間形成の最良の時期である。そう聞かされていても当時その只中に居た私にはその実感や認識に乏しかった。学部を卒業した今、大学四年間を客観視してみると、いかに多くのチャンスがこの四年間に与えられていたかが分かる。一見興味の薄い分野でもその中に何かの光を見ることがあり、多くの学問に触れる中で本当の自分の目指すものが見

えてくる。その過程には、一つの分野だけを頭においていた院生にはない多くの選択の余地と可能性がある。もちろんそれは学問に限った事ではない。様々な事に触れる中で自分の色が出来上がってくるものだ。

もし再度学部一年からやり直すことができるならば、今までそこにありながら無視してきた、数多くの事柄（学問、人間関係、ボランティア等）に少しでも多く挑戦してみたい。四年間は何かを完成させるには短い期間かも知れないが、自分がすべき何かを見つけるには十分な時間であるのだから。

教養教育古今東西

教養教育の現在的意味

最初に白状してしまおう。教養時代、僕は良い学生ではなかった。今でも教養の成績表を思い出すと冷や汗がでる。入学と同時に僕は漕艇部に入った。受験勉強からの解放感が僕を無謀にしていたのだろう。高校時代、運動が全く不得手だったことを思うと、大胆としか言いようがない。都内の漕艇部は皆そうだが、ここもキャンパスから遠く離れた戸田に合宿所があり、年中合宿形式で早朝からボートを漕いで（漕がされて）いた。ペンハーのガレー船の世界である。練習が終わると食事を済ませ、必要があれば大学に向かう。僕は真面目な学生だったから、できる限り授業に出席した。しかし体は正直である。授業が始まった途端に猛烈な睡魔が僕を襲い、いつの間にか意識を失っているのだった。かくして僕の成績表は、お情けでいただいたCと、厳しい（理解のない）教官につけられたDの行進となった。

そんな僕の成績表に一つだけAがある。これはS先生の米国史の授業でいただいたものである。別に意図してこの授業を選んだ訳ではない。空き時間の関係で、他に選択肢がなかったのである。ところがこの授業が、

眠気を吹き飛ばす面白さに満ちていたのだった。20年近く前のことである。板書が主体の、今から思えば地味な授業であった。しかしS先生が語ると、独立戦争、奴隷戦争、南北戦争、大恐慌の真相が実にヴィヴィッドに伝わってくる。声は決して大きくないが、発せられる言葉は計算しつくされており、一つの無駄もない。受講学生は10名ほどだったろうか。皆リラックスして聞いていた。そこには、同じ知的興奮を共有している、という確かな思いがあった。試験の時には、驚くぐらい良い答案が書けた。答案を出した瞬間にAを確信していた。大学には、そんな授業もある。良い授業を発掘することに、もっと真剣になってもいい。

乾 正知（工学部）



「ケンカ」ができるようになる！

日々の暮らしにはすぐには承服できないことが結構あるものだ。学生の君だってそうだろう。無理なことを押し付けてくる友人、納得できないことを授業する教官、そんな奴に出会ったら、我慢するか、ケンカするか、どちらかだ。

ケンカというのは、腕力で叩きつぶして勝てばよいものではない。相手をよく観察し、弱点をついてあわてさせる。自分に不利と見れば土俵を変えたり、時には逃げ出しもする。あの手この手を使って自分に都合の良い方に事を運んでいくのがケンカというものだ。やり合っているうちにケンカ相手と意気投合することだってあるかもしれない。しかし、それには準備が必要だ。

「教養教育の現在的意味」とはケンカができるようになるためということだと思う。

現代においては、限られた「専門」しかわからない「教養」のない人間はケンカすることができない。だから、承服できないことがあっても我慢するしかない。ケンカを通じて人のネットワークを広げて行くことができない。それではつまらない。

相手の見る目を養い、いざというときに使える武器の入ったポケットをいっぱい作り、自分の得意手を増やす。教養教育の中でそんなケンカの準備をしてほしいと私は思う。(実地訓練をするのもよいかもしれない！)

木村 競 (教育学部)

雑学のすすめ

20年ぶりに大学へ戻ったの驚きは、キャンパスが整然ときれいな感じになっていたことです。私が現役学生だった頃の大学は、雑然と立看が並び、埃っぽいキャンパスという感じでした。大学の風景が変わったばかりでなく、すれ違う学生たちの雰囲気もずいぶん変わり、時の流れを感じています。

さて、大学に戻った社会人からのメッセージということですが…、正直、学生時代の私と比べて、今の学生さんは、真面目だと思います。ですから、内留生として大学に戻って勉強できる機会に恵まれ、「もっと学生時代に勉強しておくんだったなあ。」なんて思っているのは、私だからであって、きっと今の学生さんには無縁でしょうね。

昔学生だった先輩として今の学生さんに一つだけ言うなら、「雑学のすすめ」ですね。自由になる時間がある時代です。自分が興味のあることに対して、とことんむきになってできるのは、学生時代だからこそです。大学の勉強に限らず、どんなことでも、自分が興味を持ったことに、広く・深く・場所を選ばず学んでください。損得や将来役に立つか立たないかなんていう基準でなんか選ばず。自分の自由な想いに従って、とことんやってみましょう。学ぶことを面倒臭がっている、若さがないですよ。

飛田祥子 (教育学部内留生)

掲 示 板 コ ー ナ ー

企 画 室 だ よ り

《教養教育係が設置されました》

大学教育研究開発センターの企画室は、教養教育第一係と教養教育第二係が統合され、新たに教養教育係がこの6月2日から設置されました。(共通教育棟1階です)

また、学生部に学生センターが開設されて、6月2日から諸証明の発行・交付に関することはすべて学生センターで行うことになりました。

教養教育係の業務内容は、教養科目の授業に関すること全般ですが、主として次のようなことを行いますので、気軽に窓口に来て問い合わせください。

【教養教育係の窓口業務】

- ◎ 履修科目届に関すること。
 - ◎ 履修登録確認表に関すること。
 - ◎ 教育科目予備届に関すること。
 - ◎ 教養科目に関すること。
- ◇履修相談 ◇授業時間割 ◇定期試験 ◇追試験
◇レポート ◇成績評価 ◇教室

教 養 教 育 N O W

「大学教育研究開発センター年報」の発行

吉田昭久（前研究開発部長）

本来ならば昨年度内に発刊するのが当然のことなのですが、諸般の事情から「大学教育研究開発センター年報」第1号の発刊が5月になってしまい、責任を痛感しているところです。それにつけても、学生諸君を含めて茨城大学の全構成員の協力があってはじめて、茨城大学改革の証として発足した「大学教育研究開発センター」の一年間の活動の記録が発刊できたと、感謝しています。

内容はおおむね三部から構成されていて、まず、昨年11月末に実施された「教養教育の授業に関するシンポジウム」のほぼ全記録を整理し掲載しました。教職員や学生の皆さんにとって、茨城大学改革に対する「センター」からの課題提起になれば、幸いです。

次に、「教養教育に関する基本調査」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びⅣの調査結果と、「学生支援に関する基本調査」の調査結果に関する基本統計を、また、そこで得られた自由記述を整理したものを掲載しました。基本統計の結果と自由記述を整理したものについては、茨城大学の点検・評価の視座から種々の位置付けが可能と思われます。教職員、学生の皆さんの活用を期待します。

三点目は、「大学教育研究開発センター」の一年間の諸活動記録に関して、継時的に整理したものを掲載しています。「センター」が茨城大学改革の実効性を挙げるべく、十二分とは言えないまでも、奮闘努力していることを理解願いたいと思います。

今後とも、学生諸君を含めた茨城大学全構成員の協力を期待して止みません。なお、この年報は図書館本館2階の大学改革関係資料コーナーに置いてありますのでご覧下さい。

「教養教育のための100冊」について

山下恒男（附属図書館長）

すでに授業等で配布されて、皆さんの手元にあると思いますが、標題にあるような小冊子が出来ました。

茨城大学の先生方が一年生の諸君のために推せんさ

れた本の紹介（解説）文をまとめたものです。これ自体が諸君へのメッセージです。

多様な本が網羅されていますので、ぜひ一冊でも多くの本を実際に読んでみて下さい。本館、分館にこれらの本を集めたコーナーがあります。

つ ぶ や き

平成9年度が始まりピカピカの新入生を迎えたと思ったら・・・もう6月・・・産声を上げて初めて親元を離れた学生さん、寂しさにはなれましたか??? これからは何事も自分でやらなければなりません。学園生活で早く多くの友人を作り話し相手を見つけて下さい。6月からは、今まで教養教育第二係で発行されていた諸証明書類は学生センターの自動発行機で発行されることになります。機械の前でウロウロしては機械は話しかけてくれません・・・勇気を持って誰とでも友達になろう。今回のニュースレターでは、留学生からと先輩諸氏からの意見が掲載されています。皆さんの学園生活の参考となるようによ～～～く読んでおこう。

(Y.Y.)

発 行 日 平成9年7月
 発 行 者 茨城大学
 大学教育研究開発センター
 水戸市文京2-1-1
 029(228)8416〔企画室教養教育係〕

Rosa Plunula

ローザ・プルムラ



●茨城大学・大学教育研究開発センター

ニュースレター №6

目次

天高く馬肥ゆる秋	1
キャンパス情報	2
前期試験を終えて	4
Voice	5
教養教育古今東西	6
教養教育 NOW	7
掲示板コーナー	8

新入生ガイダンスに臨んで、私自身何か寂然としないものを未だに感じている。その後、学生の対応に混乱は少なく順調とのこと。ガイダンスはそれなりの成果をあげたと思う。

ではなぜか？。私の学生時代に、配布書類の確認から始まり受講科目の時間割作成、更にそれらの申告・登録まで2日間をかけた懇切丁寧なガイダンスが行われていたのだろうか。履修の手引等の書類をわたされ、各自で読むこと。その後の大学生活も万事がこのようなものであったと記憶する。

当世、学生さんは大切なお客さま。満足できる学園生活を過ごしていただくために大学の施設・設備、教官スタッフ、もちろん教育メニュー等に細心の注意を払い、お迎えしなければなりません。このようなガイダンス！、当然で御座いましょう。とは言うものの、その背景に見え隠れする風潮に心が痛みます。

ある全国紙の特集記事で、大学キャンパスのリゾート化で慢性的な定員割れ大学を再建した大学関係者談が目をついた。「今の学生は勉強も含めていろいろやたがっているけど、何をやっていいのかわからない。だから私たちがいろいろな材料を提供しているんです」。更に、この「何をやっていいのかわからない」存在、つまり幼児的存在として大学生をとらえる大学関係者が多いことも同時に指摘していた。

このような指摘が本学に当てはまるかは^{ゆめ}努々思いませんが、今回のガイダンスに直面して、私自身がこのような風潮を幾分なりとも受け入れる心理状態にあることは否めない。(阿久津)

天高く馬肥ゆる秋 後学期開始！

暑かった夏も過ぎ、心地よい秋風が通りゆく季節となった。秋は、スポーツの秋、実りの秋、祭りの秋、読書の秋と爽やかに心身に潤いと喜びを与える季節である。今年入学した学生も大学の実状が分かり、本格的に大学生活を始める時期でもあろう。

後学期が開始された。教養科目をじっくり勉強できるのはこの時期です。教養科目が大学で何故あるのか考えたことがありますか。大学に入学するときには何を専門的に勉強したいか考えて専門とする学部・学科を選択したことでしょう。専門的な知識・方法を学ぶ目的は明確でしょう。では、専門的スキル・能力のみでこの世の中を生きてゆけますか。確かに個人的趣味、芸能を伸ばすことも大切でしょう。しかし、もっと大切だと思うことは、君達は21世紀を生きる世代であることです。21世紀と大業に云っても数年後には迎える年であり、

既に2002年にはワールドカップが日本と韓国で開かれることが分かっているなど現在と変わらない時代のように思えるかもしれません。しかし、100年前の日本及び世界をみれば世紀単位で世の中のしくみ、生活が大きく変わることがよく分かります。20世紀には、偏見、排除、抑圧、武力衝突、戦争が絶えませんでした。その一方で人権、平和、民主主義、寛容、異文化理解など崇高な理念が提唱されてきました。21世紀には、「共に生きることを理解する」("live together")ことが大切との考えがあります。まず、他人を理解すること。そして自己理解を前提に、多様性と共通性を理解すること。しかも、そうすることには価値があるのだと認識するようになることが大切との考えです。この秋、君達は21世紀に向けて何を考えるのだろうか。

(横沢)

キャンパス情報

人文学部から

長い夏休みも終わり、いよいよ後学期が始まります。

人文学科では、11月から専攻決定の作業に入る予定ですので、人文学科の学生諸君はくれぐれも掲示の見落としなどないように注意して下さい。専攻決定の日程等については10月に掲示します。

コミュニケーション学科では、3年次から始まる総

合研究Ⅰについての説明会を行う予定です。詳しい日時等は決定次第掲示します。

共に人文学部の掲示板に掲示します。

なお、人文学部3学科とも若干名の転学部・転学科を認めています。転学部・転学科試験（11月に実施予定）の詳細については人文学部学務係へ問い合わせ下さい。（伏見）

教育学部から

夏季休業期間も終わり、1年生の皆さんも新たな気持ちで大学に戻ってこられたことと思います。そこで、まだ大学生になって6ヶ月しか経っていませんが、少し先のことを話しておきたいと思います。

教育学部は平成8年度にそれまでの小学校教員養成課程と中学校教員養成課程を学校教育教員養成課程に統合しました。この課程では小中の免許の取得が可能です。しかし、子どもの数の減少にともなって教員採用率は低下し、文部省は教員養成系の学生定員を5千人削減する方針を打ち出しています。こうした昨今の情勢は、教員を目指す人たちにとってまさしく冬の時

代の到来を意味しています。まだ1年生だからと安穩としていないで、厳しい状況を自らの力で切り開く努力を重ねて欲しいと思います。

また、総合教育課程も2年目を迎え、情報文化課程と同じゼロ免(免許を取得しなくても卒業できる)課程として、卒後の活躍が期待されています。しかし、周知のように、就職協定が廃止され、企業への就職を希望する人は4年になってから就職活動を始めても遅いくらいの状況になっています。就職情報なども自ら積極的に収集しなくてはなりません。まだ皆さんは1年生ですが、将来を見据えて、気持ちを引き締めて後期に臨んでください。（相馬）

理学部から

学生の皆さん夏休みはいかがでしたか。4年生の人達は就職または大学院入試で忙しかったかも知れませんが、1-3年生は7月中旬に前期末試験が終わり、心おきなく夏休みが満喫できたことでしょう。茨大理学部は4、5年前から夏休み前試験の方式に切替えたのですが、この方式は国立大ではまだ少数派です（私立

大は夏休み前試験が多いようだ）。今回は、夏休み前試験の功罪について考えてみよう。利点としては、（学生にとって）心おきなく夏休みが楽しめる、講義に中だるみがなく記憶が新しいうちに試験が済ませる、など。他方、不便な点としては、前期日程が窮屈で試験の週が夏の一番暑いときと重なる、学生が夏休みにほとんど勉強しなくなる、などか。それから、学会の

シンポジウムなどが講義の最後の週または試験の週に来ることが多いのが教官側にとって困ります(ほとんどの大学が夏休み前試験になれば解消されるのでしょうか)。このように功罪どちらとも言えないようだが、私自身は夏休み前方式が気に入っています。他大学で

は授業が始まっているのに、9月いっぱいゆっくりできるのはいいものです。理学部では、数年計画で講義室の冷房化を予定しており、第1, 4講義室には既にクーラーが入っています。講義室の暑さはいずれ軽減されるでしょう。(日合)

工 学 部 か ら

みなさんはBコースを知っていますか?

茨城大学工学部システム工学科には夜間に授業を行うBコースがあります。Bコースは主として勤労学生および社会人を対象として設けられたものですが、その中にはもちろん普通の学生もいます。授業時間は、午後5時35分から午後8時40分までですが、実験の授業の場合には9時を越えることもあるようです。日立キャンパスではBコースの授業時間に合わせて事務部はもちろん生協および図書館も夜遅くまで業務を行っています。もっとも工学部では深夜まで実験を行うことは日常茶飯事です(卒論間際には不夜城となる)Bコース以外の学生にとっても好都合です。

Bコースは社会人でも効率的な学習ができるようにカリキュラムが組んであり、基本的に昼間のコースと同様の知識を身につけることができます。しかしながら、夜間に授業を行うため授業本数が少ないという問題があります。このため、Bコース学生は単位を落とさないように努力しています。

また、先に述べたようにBコースには社会人から勤労学生に至るまで様々な学生が集まっています。それぞれの立場が異なる学生全員に知的な満足感を与えるということは教官にとって非常にやりがいがあることですが、一方では非常に困難な作業でもあります。

Bコースに関する質問や意見があれば工学部教官にいつでも声をかけてください。(西野)

農 学 部 か ら

現在農学部は試験期間中です(このレターの原稿締切が8月8日なので時期外れの内容になっている点御容赦願います)。梅雨明けの暑い最中の試験は辛いものがありますが、これさえ乗り切れば夏休みが待っています。頑張ってください。

ただし、農学部ではその前に2つの行事があります。

一つは、試験終了日の7月28日に毎年恒例の打ち上げとしてビア・ガーデンが開かれます。大いに飲んで騒いで下さい。もう一つは、8月2・3日に茨大前通りで“まい・あみ・まつり”(ネーミングがいかにも地元を象徴していて笑えます)が開催されます。この祭りは補講期間中に行われるため前日の金曜日の午

後は授業にならないのが通例のようです。

このようにこじんまりとしてまとまりが良く、地元に着しているところが農学部の良い点なのですが、「悪事千里を走る」となって裏目に出ることもあるようです。お互いに気をつけましょう。しかし、この弊害は教官にとっての方がダメージが大きいというように聞いております。

10月には鍬耕祭が開催されます。他学部の学生諸君も一度農学部キャンパスを訪れてみませんか。このレターなどより、教官のいないコンパの席で先輩達から聞かせられる話こそが農学部の真実の姿なのではないでしょうか。(安藤)

前期試験を終えて

篠崎達明（工学部Bコース1年）

学生の身分から離れて、早いもので12年の歳月が経った。卒業のときには、もう学生になることは2度と無いだろうと思っていたが、いざ社会に出て働いてみると、自分の知識不足からくる不都合を幾度と無く経験し、専門知識の必要性を大いに感じた。このため大学への進学を考え、縁あってこの茨城大学工学部に籍を置くことになった。

履修については、学校から長く離れていたこともあり、ある程度の厳しさは覚悟していたが、やはり実際にはかなり厳しいものがあつた。平日は仕事と授業に追われる日々が続く、心に全くゆとりを持つことが出来ず、途方に暮れることが多かった。

しかしそんな厳しい状況の中で救いになったのが、クラスでの友人の存在であつた。クラスメイトの大半は10代であり、歳が一回りも離れた若い人達と、上手くやっていけるのだろうかと不安があつたが、それは全くの取り越し苦労に終わった。彼らはとても大人であり、この歳の離れたクラスメイトを簡単に受け入れてくれたのであつた。

大学で学ぶことは専門知識を得るばかりでなく、これから社会で生きていく上でもっとも必要とされるコミュニケーションの能力を、友人とのつきあいの中から高めることが出来ることである。これは独学では得ることの出来ないものであり、このときに出来た友人は、これからの人生においてとても重要な位置を占めるものである。

この様な環境の中で学ぶことが出来ることは非常に幸運である。この素晴らしい機会を与えてくれた勤務先の方々、そして茨城大学工学部に感謝をすると共に、これからの自分自身が発展をするための糧にしたいと考えている。



小竹昭彦（農学部1年）

前学期試験が終わり、私のテストも終わった。今回は、私が入学してから初めての試験だったわけであるが、感想は「厳しかった」の一言に尽きると思う。なぜこのような結果をまねくことになったのだろうか。それは高校までの試験とは異なり、試験範囲が漠然としたものだったり、単に一問一答形式でなく文章として答えるものばかりだったりということだからだ。今までとは随分勝手が違っていたので、正直言って戸惑ってしまった。しかし私が「厳しかった」と感じたのにはもう一つ他に大きな原因がある。というよりむしろ、先程述べたものよりはこの原因の方が主であろう。それは、大学入学後の私の生活である。よく「学生の本分は学問である」という言葉を耳にするが、私はこの言葉に反するような生活をしていたのである。つまり勉強などはせず、大学から帰ってきてからは、遊んで寝るだけ。大学の講義も時にはうわの空だったりする。日本の大学を象徴するような怠惰で墮落した生活（真面目な大学生には失礼だが）をしていた。全く無意味で無駄な半期を送ってしまった。高校までは「管理」や「保護」といった言葉に表わされるような教育であつた。予習や復習、宿題が与えられ、ただそれをこなすような。すべきことが多く大変だったような気もするが、考え方を変えればそれはそれで楽だったのかもしれない。しかし今私がいる場所は、今までと違って「自由」と「責任」の中にいる。受験戦争中からずっと期待し続

けたものの中にいる。それなのに前学期は失敗した。たいして得るものがなく、いたずらに時を過ごしてしまったからだ。後学期は、もう一度始めからやり直すつもりで、大学に合格したあの時の気持ちで、学問や人格をみがき上げていこうと思う。

V o i c e

先輩から後輩への言葉

斎藤昌晴 (教育学部 2 年)

前学期は、履修科目の選択、大学へ来て初めての授業、テストなどと、一年次のみなさんはとてもあわただしく半年が過ぎてしまったのではないのでしょうか。昨年の自分のことを思い出してみると、何かなんだか分からないまま半年が過ぎてしまったような気がします。ただ、夏休みが明け、後学期になれば、大学がどういうところであるのか少しずつ分かり始め、自分の中で少しはゆとりが出てくるのではないかと思います。そこで、助言になるかどうか分かりませんが、後学期への心構えをいくつか述べておこうと思います。

まず、できることややりたいことはやっておこうということです。たとえそれがちいさなことであったり、くだらないことであったとしても、後悔をしないようにやってみるべきだと思います。特に、一年次の後学期は、大学の生活にも慣れ、自分の時間を比較的とることができるのではないかと思います。頑張ってみていきましょう。

次に時間を有効に使うということです。これは、時間を合理的に使っていくという意味だけではなく、有意義な時間を過ごそうということです。例えば、半日間、何もしないで考え事をしていたり、友人とお話をして過ごしたとしても、それが自分にとって有意義なものであれば、有効に時間が使えたといえると思います。大学生活という中で、有意義であったと思える時間を過ごしていきましょう。

最後に、後学期でとる授業や、通年である語学の授業は、しっかりとっておきましょう。特に語学は通年であり、必修なので前学期あまり良くない成績だった人は、特に頑張ってみましょう。

あまり参考にならない話ばかり述べてしまいましたが、自分で何か目的意識を持って後学期を迎えてください。

後学期履修の心構え

高木明子 (工学部 2 年)

本当に興味のあることがあって、その授業を履修することも、素晴らしいことだと思うし、とりあえず単位を取るために、比較的楽そうな授業を選ぶことも、またいいことだと思う。はっきり言って、私には「こんな風に履修した方がいいよ」なんて教えることはできない。どれを選択するかは、人それぞれの考え方だと思うし、どうしたらいいのかわからない時は、思い切り悩めばいいのだ。そうやって自分なりの答えを出していくことも、大学で学ぶべきことのひとつであると思うからだ。

とはいえ、ここで文章を終わらせるとかなり不親切なので、一応例として、私の履修方法をあげてみる。私は、前期に興味のある授業ばかりを選んだ。履修案内を読んで、面白そうなものに片っ端からチェックを入れ、取れるものは全て取った。結果は、授業の取り過ぎか、はたまた知能が低すぎたのか興味があった割には惨敗した。けれど、私はまた後期の履修も、自分の好きなものばかりを選んだ。結果は前期とさして変わらず、あまり華々しいものではなかった。しかし、私はけろっとしている。それは自分で納得して選んで履修したからだ。授業はとても面白かったし、何かを得て一つ成長した気分にもなれたし、(成績はともあれ) 私はとても満足していたのだ。とにかく、最終的に自分が納得できるかということだと思う。あとで後悔しないように、思いついたことは何でもやってみるべきである。



教養教育古今東西

— 教養教育の現代的意義 —

世間では、限られた領域しか知らない人は専門馬鹿と嘲笑され、雑学のすすめがもてはやされる傾向にある。もちろん、これは、広い視野から柔軟に思考する重要性を説いており、このこと自体は、否定されるべきではない。しかし、教養科目は、専門科目に対比されている。教養として得た知識は、専門で生かされなくてはならない。この点を認識しないままに、雑学のすすめを説くことは、悪弊をもたらすように思われてならない。筆者を含めた(?)近年の若者は、軽薄短小の言葉に象徴されるように、小手先の知識を得るのは大変うまい。コンパクトにまとめられた受験参考書に慣れ親しんだ者にとって、むしろ、欠如しているの

は、専門知識を習得する術、さらには、隣接分野の知識を応用する術なのである。安易な雑学のすすめは、専門科目からの逃避でしかなく、教養科目のつまみ食い、ひいては、専門科目の未消化という事態しかもたらない。かかる事態を克服するには、なによりも、個人の目標がはっきりしていなくてはならない。確固たる問題意識に裏打ちされた対象の設定がなければ、教養科目も専門科目もその基盤を危うくする。学生の方々は、まずは、自分のやりたいことを見つけてほしい。さらには、自己の責任で選択したからには、世間の風潮に流されることなく、それを極めようとする気概をもってほしい。 住田英穂(人文学部)

教養教育に対する考え方は国によってかなり異なっている。日本の大学では全方面の教養を身につけるため、自分の専門以外の科目もたくさん受講する。例えば、工学部の学生でも、文学や、社会学や、日本事情などのような科目を卒業必要単位数充填のため、取らないといけないことになっている。一方、中国の大学では、専門教育に必要な教養科目しか開講していない。ただし、専門教育に必要な教養科目をもっと長い時間でしっかりマスターする構成となっている。これは国の事情による教育方針の違いであると思う。日本の大学では、皆さんが無事に社会の一人となるため、教育カリキュラムが組ま

れている。それに対して、中国の大学では、中国の科学技術を先進国に追い付かせるため、科学技術者(いわゆるエリート)を育てる教育カリキュラムが組まれている。

現在の日本の教育カリキュラムでは学生の自主性が強く要求される。つまり、沢山開講されている科目中、自分が方向性をしっかり持って自分の将来に役に立つものを選択すべきであろうと思う。皆さんは、自分が将来何になりたいかをしっかり持って、受講する科目を選ぶことを勧める。ただ何となく大学に入って、卒業さえすればいいと思うと、大学にいる4年間は無駄になるであろう。 馬 書根(工学部)

私が高校2年生の時、英語の授業中先生が「大学に進学するのとこのまま社会にでるのは大違いだから、とにかく大学に行きなさい」という発言をした。これは私の高校生活の中で最も印象に残った言葉の一つであった。その当時は、「それは大学に進学しない人への差別だ」と憤慨したが、今ではその意味が理解できるような気がする。これには大学を卒業すればそれに見合っただけの教養と人格形成がされていなければならないという意味が込められていたのだと思う。

日本の高等学校までの普通教育の水準は高いといわれ、大学に入ってから一般教育をさらに2年間(あるいは1年間)受けるのはカリキュラム、教育内容面で重複していて「ムダ」なのではないかという議論が繰り返され、大学における教養部は解体した。確かに高校と教養教育におけるカリキュラムには重複する部分があるかもしれない。しかし、高校と大学の教養教育のカリキュラムにおける大きな相違点は「選択の自由」が存在することである。卒業のための必要単位数とい

う制約はあるが、なにも成績表にすべて「A」を並べる必要はないのである。学生にとってそれよりも大事なことは、就職や単位の取り易さなどを第一に考えるのではなく、本当の意味での自分のためにこの「選択の自由」を生かし、受動的ではなく能動的な行動や物事に対する熱意をこの時期に身につけることである。また、我々教官にとっては、この「自由とムダ」を学生各人の頭と意志で、かつ真面目に考えられる貴重な時間とカリキュラムを学生に提供することが教養教育において極めて大事なことはないだろうか。

教養部が解体した今でも教養教育は、間違いなく学生の人間形成には欠くことのできない「時間」である。最近、心に余裕がないために集団生活に馴染めず、心の病にかかってしまう学生や何事にも熱意の感じられない学生を少なからず見かける。学生の皆さんには、この教養教育の「時間」をもっと有意義に(自由に、真面目に、かつ意欲的に)過ごしてもらいたい。

白岩雅和(農学部)

教 養 教 育 N O W

集計速報 教養教育に関する基本調査 I

上記調査は、平成 9 年 7 月 9 日水曜日 2 講時に、履修登録者 2,004 名を対象に配布して実施された。収集データ数は 1,008 名、回収率は 50.3 %であった。

〈内訳〉						
所属学部：人文学部		教養学部	理 学 部	工 学 部	農 学 部	無 効
273 名		209 名	146 名	277 名	101 名	2 名
学 年：	一 年 次	二 年 次	三 年 次	無 効		
	952 名	41 名	12 名	3 名		
性 別：	男	女	無 効			
	569 名	433 名	6 名			

Q 1 教養科目各科目の「クラス分け」では、希望どおりのクラスに入れましたか、どのくらい満足していますか。

	英 語	未修外国語	人文の分野	社会の分野	自然の分野	総合科目	健康・スポーツ
I 非常に不満だ	6%	6%	4%	7%	8%	8%	7%
II 不満だ	9%	13%	8%	15%	17%	12%	8%
III まあまあだ	34%	34%	35%	42%	37%	40%	21%
IV 満足だ	31%	30%	32%	23%	24%	26%	30%
V 非常に満足だ	21%	17%	22%	13%	14%	15%	34%

Q 2 授業の程度、内容などについては、どのくらい満足していますか。

	英語	未修外国語	人文の分野	社会の分野	自然の分野	総 合 科 目	健康・スポーツ	情報関連	主題別ゼミナール
I	7%	8%	4%	10%	11%	8%	4%	7%	8%
II	15%	16%	14%	24%	26%	17%	8%	11%	19%
III	46%	45%	42%	46%	42%	47%	29%	36%	42%
IV	21%	25%	26%	17%	16%	21%	30%	29%	20%
V	11%	7%	14%	3%	5%	7%	29%	17%	11%

I 非常に不満だ II 不満だ III まあまあだ IV 満足だ V 非常に満足だ

Q 3 クラスサイズについては、どのくらい満足していますか。

	英語	未修外国語	人文の分野	社会の分野	自然の分野	総 合 科 目	健康・スポーツ	情報関連	主題別ゼミナール
I	2%	2%	3%	3%	4%	6%	2%	7%	3%
II	8%	9%	12%	14%	16%	17%	6%	13%	5%
III	46%	47%	52%	56%	54%	53%	41%	43%	43%
IV	32%	31%	26%	21%	22%	20%	35%	29%	34%
V	13%	11%	7%	5%	4%	5%	16%	8%	15%

I 非常に不満だ II 不満だ III まあまあだ IV 満足だ V 非常に満足だ

Q4 本年度4月に行われた教養科目履修ガイダンスについては、どのくらい満足していますか。

出席していない = 116名 (11.5%)

出席者 (892名) の満足度

非常に不満だ	不満だ	まあまあだ	満足だ	非常に満足だ
8%	21%	56%	13%	3%

この調査は、教養科目の授業及び履修方法について、学生諸君がどの程度満足しているかをみるために行われたものです。現在集計を進めていますが、概観するところ、希望どおりのクラスに入っていない者が、多いところでは全体の1/4の割合になっていること。授業内容の満足度では1/3以上の者が不満を持っている科目があること。また、履修ガイダンスについても、決して多くの学生に満足いくものでないことが示唆されています。よりよい授業形成のために一層の点検評価を要すると思われます。

今年度の回収率 (50.3%) は、昨年度 (39.9%) を大幅に上回りました。ご協力いただいた学生に感謝致します。(異)

掲 示 板 コ ー ナ ー

企 画 室 だ よ り

《平成9年度大学祭日程》

- ◇ 茨苑祭 …… 水戸キャンパス
11月21日 (金) ~ 23日 (日) 3日間
※21日 (金) は、1日休講
- ◇ こうかく祭 …… 日立キャンパス
本年度実施するか未定
- ◇ 鋤耕祭 …… 阿見キャンパス
10月24日 (金) ~ 26日 (日) 3日間
※農学部1年次生は、24日に農学部の見学を実施しますので、全員参加してください。
講堂前よりバスが出ます。詳細については、掲示をしますので注意してください。

「教養教育の授業に関するシンポジウム」の開催

大学教育研究開発センターでは、昨年に続き本年も「教養教育の授業に関するシンポジウム」を開催します。今年は、健康・スポーツ科目と情報関連科目について、その授業内容や教育方法に関するシンポジウムを企画しています。教職員や学生の皆さんの積極的な参加をお願いします。シンポジウムのプログラム等の詳細は、後日掲示によりお知らせします。

開催日 11月26日 (水)
時 間 13時 ~ 17時 30分
場 所 茨苑会館2F (7, 8, 9集会室)
なお、終了後、懇談会をする予定です。

つ ぶ や き

後学期開始にあわせてローザ・ブルムラ第6号をお届けします。4月の入学式からあっという間に半年過ぎて、長かった夏休みもあっという間に過ぎていってしまった新入生のみなさん、大学生活にはもう慣れましたか。大学の講義や試験のスタイルは、高校とはずいぶん違ったものであると感じて、とまどった人は多かったのではないのでしょうか。今号では、そんな人たちのために、前期試験の反省および後期履修の心構え等を記事として取り上げてみました。特に、先輩の助言は貴重ですから、よーく読んでおきましょう。では、次号をお楽しみに。バイバイ。

(S.N)

発行日 平成9年10月
発行者 茨城大学
大学教育研究開発センター
水戸市文京2-1-1
029(228)8416〔企画室教養教育係〕

Rosa Plumbula

ローザ・ブルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター №7

目次

“迎春” 間もなく後学期末試験！	1
教養教育をどうする！	2
キャンパス情報	3
教養教育Q & A	5
Voice 一試験の鉄人(達人)ー	7
教養教育古今東西	8
掲示板コーナー	11

(平成 10 年 1 月発行)

近年は、教育の見直しで、分かり易い授業、興味を持たせる講義などが強調され、いろいろな試みがあるが、聞き手(学生)の側での「授業を面白く聴く」努力もなければ不公平というものである。

英会話の練習では、自分で話せることしか聞き取れないという。要するに「自分で説明できることしか理解できない」ということだから、自分で説明できる範囲を拡げない限り面白い授業の数は増えないし身にも付かないということになる。自分で説明できる範囲を拡げることは、自分の世界を拡げることに他ならないのであるが、このためには多分に孤独な練習が必要である。練習としては、興味を持つ事柄についての文章を見つけては鉛筆やペンを握ってノートに書き付ける指先の勉強から始めるのがよからうと私は思っている。

英語のことで言えば、私は中学の頃「ベニスの商人」、高校の頃細江逸記「英文法汎論」を写した。大学からの何年かは雑誌「英語青年」の和文英訳練習欄に投稿して雲を掴む練習をした。直接の効果はベンだこ位であったが、感覚的な何かは残ったようである。

守備範囲の数学に限ってみると、和文では高木貞治の文章を推す人が多い。英文で定評があるのは Paul Halmos である。その Halmos は Webster 辞典、Roget の Thesaurus、Fowler の English Usage を机の上に置いて常に参考にすると言っている。平易な文章で知られる Halmos の参考書は理系の人間には少し難しいが、心掛けは見習うべきであろう。我々には勝股銈吉郎の英和活用辞典がよい参考で読み物にもなる。

(荷見)

“迎春” 間もなく後学期末試験！

1998 年、今年はどんな年になるのだろうか。ナガノ・オリンピックに始まり、夢膨らむ年となるだろうか。君たちはまず期末試験がある。年次の締めとしてしっかりと修めていただきたい。

さて、君たちは大学に入ってどんな新しいことを見出し、また体験しただろうか。君たちは裁判所の存在を知っている。日本の政治の中で三権分立の一角を担う司法は重要な役割を担っている。しかし、君たちの将来の生活設計の中に裁判所の存在を位置づけることができるだろうか。水戸には水戸地方裁判所があり、日々さまざまな多くの裁判を行っている。以前、教養科目の一つとして傍聴をはじめ水戸の裁判所の具体的な裁判事例を収集レポートする授業があったと聞いた。米国では家賃など些細と思えるトラブルでも即裁判に持込むケースが多いと聞く。アメリカ人は裁判所を身近なものとして捉え、生活の中でどのようにそれらを

使うか知っている。裁判所の使い方を知っていると、一人では解決できそうにない思いもよらない個人の権利が守られ獲得することができるのである。日本では、多くが裁判所を縁のない遠いものとして捉えている。裁判所を知り、その使い方を知ることは、個人の生活を豊かにすることにつながる。茨城大学には、司法、裁判所に詳しい専門家がいます。大学の授業で、例えば、裁判所の利用等司法の権利を君たちの生活設計に描くことができるようになれば素晴らしいと思う。

(横沢)



教養教育をどうする！

「教養教育に関するシンポジウム」開催される

昨年度に引き続き、第2回教養教育に関するシンポジウムが11月26日水曜日、茨苑会館第7.8.9集会室において下記のような内容で開催されました。

【招待講演】 千葉大学副学長 野口 薫

●「健康・スポーツ科目教育の方法」

司会：国 枝 タカ子（教育学部）

報告：服 部 恒 明（教育学部） 太 田 茂 秋（教育学部）

●「情報関連科目教育の方法」

司会：仙 波 一 郎（工学部）

報告：伊 藤 哲 司（人文学部） 本 田 敏 明（教育学部） 中 村 芳 昭（理学部）

沼 尾 達 弥（工学部） 塩 光 輝（農学部）

総括：石 塚 俊 久（理学部）

今年度のシンポジウムでは、野口薫千葉大学副学長（大学教育委員会委員長）が、「教養教育の課題解決への方策—千葉大学の外部・自己点検評価を例として—」というテーマで講演されました。千葉大学では、外部評価による点検評価を実施しており、その概要とこれからの課題や方策について詳細に報告して下さいました。会場には約60名の教職員が詰めかけ、大学改革の重要な課題として登場してきた「点検評価」の話に熱心に耳を傾けていました。

つづいて、「健康・スポーツ科目教育の方法」のセッションに移り、服部氏が「科目の現状と今後の方向について」、そして、太田氏が「野外運動」の実践報告をされ、「野外に接して、自然から学ぶ」ことの必要性を述べられました。

4時からは、「情報関連科目教育の方法」のテーマに移り、各学部の情報教育の現状及び課題等の報告が行われ、学部ごとの様々な課題が提示されました。「学生の声（ニーズ）を教官にどのようにフィードバックさせるのか」、「レベル別、内容別の授業システムの必要性」、「ネットワークエチケットの問題」等々が強く印象に残りました。

終了後、茨苑会館グリルにおいて、橋本学長同席のもとに懇談会が催されました。

なお、今回のシンポジウムの内容は、『大学教育研究開発センター年報』第2号（3月発刊）に掲載される予定になっています。（異）



キャンパス情報

人文学部から

新年明けましておめでとうございます。いよいよ後学期もあと僅かになり、間もなく後学期の試験が始まります。この一年間で学んだことの総決算として試験に臨んでください。極めて残念なことです、人文学部では最近定期試験の際の不正行為が続いています。今後このようなことが起こらないよう各人が十分注意

してください。

さて、コミュニケーション学科では、昨年12月に3年次から始まる総合研究Ⅰの所属についての説明会及び希望調査を行いました。1月中にその所属の最終結果を人文学部の掲示板に掲示します。掲示に注意してください。(伏見)

教育学部から

今年のお正月はどうでしたか？郷里の友人達と親交を深めた人も多かったのではないのでしょうか。

さて、2月の後期試験をひかえ、1年間の締めくくりの時期になりました。1～3月は大学入試や卒業研究の発表など、入学を目指す者と卒業する者のいろいろな行事が交錯する時期でもあります。1年生からみれば、卒業研究などずっと先のように思うかもしれませんが、ぜひ卒論発表会などには足を運んで、4年生になるとこんなふうになるのかと、自分の将来に思いをよせてください。

少し早いですが、2年生になった時のことを話して

おきます。2年生になるとカリキュラムがとても過密になります。専門科目が多くなるだけではなく、教員養成課程の人は教職に関する科目もたくさん開講されます。教育学部は今年度から教職に関する科目を各曜日の1～2講時に開講するようにしたので、以前にくらべると教職関連科目と専門科目の時間割が組みやすくなったと思います。

この時期はとても慌ただしい時期ですが、桜が咲く春を前に、春季休業の過ごし方の一つとして、1年を心静かに振り返ってみるのもよいでしょう。

(相馬)

理学部から

年が明けてH9年度も残り少なくなりました。1～3月は試験に関係したことで忙しい季節です。期末試験、入試センター試験、個別学力試験の他にもいろいろあります。理学部では大学院理工学研究科の3専攻で博士前期(修士)課程の2次募集があります(1月出願、2月試験)。4年生でまだ進路が決まっていな

い人はぜひどうぞ。理学部の転学部・転学科の試験が1月にあります(1月前半に出願、後半に面接)。全学科で2年次生(4月に3年次になる)が対象です。現在の学科が自分にどうしても合っていないと思う人はチャンスでしょう。それから変わったところでは、いわゆる飛び級による特別選抜があります(1月に事前審査の申込)。これに合格すると学部3年から修士

に進学できますが、理学部ではこれまで希望者が出ていません。吾と思わん3年次生はどうですか。

ところで、理学部が数学・物理・化学・生物・地球の旧5学科から新3学科に改組してから4年目に入り、4月から旧5学科の学生は留年組だけとなります。理学部は完全な新学科体制に移行しつつあるわけですが、

カリキュラム1つとってもいろいろ不備な点が多く、今後の検討課題が残されています。新しい学科として理念や方向性を打ち出すことを求められているのですが、容易なことではないというのが実感です。

(日合)

工 学 部 か ら

サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ
(Satellite Venture Business Laboratory)

工学部キャンパスの共同研究開発センター棟のとなり(山側)にS.V.B.L棟(約1500㎡)の建設が進みつつあり、12月には竣工の予定になっています。この研究所ではベンチャービジネスの萌芽ともなるべき、「複雑機能ロボット」に関する独創的な研究開発を推進するとともに、高度の専門的職業能力をもつ創造的な人材育成を目的としています。

複雑システムとは、脳など生物学的システムの研究を

始めとして、最近、進展が著しい学問分野の1つで、要素が複雑に連絡し互いに協調し合うことによって1つ1つの要素の特性からは考えられないような適応や進化などの新しい機能がシステム全体として創発されるようなシステムをいいます。このような複雑システムが工学システムとして達成できれば、従来の技術では成し遂げられなかった高機能性が期待できるわけです。

ここで特に強調したいのは大学院生を中心とした若手研究者の自由な発想や創造的着想を生かすことに重点が置かれていると云うことです。学生諸君の積極的参加と若さあふれる発想を大いに期待します。

(安久)

農 学 部 か ら

一年生の皆さん、新年明けましておめでとうございます(この原稿は平成9年11月に書いておりますが)。昨年4月に大学に入学して以来、様々な面で今までとは違った体験をなされたことでしょうか。大学生活を楽しく充実して過ごしている人もいるでしょうし、いま一つ大学生というものになじめないまま、あっという間に9カ月間が過ぎ去ってしまったという人もいます。決して焦ることなく、勉強や友人作り、サークル活動などにおいて、その瞬間瞬間を大切に生活していけば、結果として何らかの収穫を得て大学を卒業できるものと思います。いつも前向きに、自分のやりたいことを探求してほしいと思います。

さて4月には、いよいよ阿見キャンパスに進学して、本格的な専門の勉強が始まります。昨年の秋鉾祭に参加した皆さんは各研究室を回ったり、あるいはコンパなどで先輩や教官から色々な話を聞けましたでしょうか。農学部は独立したキャンパスに少人数で生活しているせいか、だいたいすべての人が顔見知りであり、学年内、学年間を問わず、とても仲が良いのが特長です。わからないことは気軽に先輩やできれば先生方にもどしどし質問して友達になり、阿見キャンパスでの学生生活を楽しんで欲しいと思います。4月には新しいグラウンドも整備されていると思いますので、休日などには野球など一緒にやりませんか。

(桑原)

教養教育 Q & A 何でもお答えします！

Q : 英語 I, II と未修 I, II で外国語を 8 単位取ったのですが, 英語 I ~ III か未修 I ~ III で 6 単位以上取らなければならないと聞きました。実際のところどうなのでしょう？

(理学部 2 年次)

A : 理学部の平成 8 年度入学生の場合, 所属する学科により外国語科目の必修単位の履修方法は異なります。(以下英語を既修外国語とした場合の必修単位の履修方法)

数理科学科の場合

- ① 未修外国語 1 科目 4 単位 + その他の外国語 2 単位 (既修・未修は問わない) = 合計 6 単位以上

(履修例: 独語 I 2 単位 + 独語 II 2 単位 + 英語 I 2 単位 = 6 単位)

自然機能科学科及び地球環境科学科の場合

- ① 未修外国語 1 科目 4 単位 + その他の外国語 2 単位 (既修・未修は問わない) = 合計 6 単位以上

(履修例: 独語 I 2 単位 + 独語 II 2 単位 + 英語 I 2 単位 = 6 単位)

- ② 既修外国語 1 科目 6 単位

(履修例: 英語 I 2 単位 + 英語 II 2 単位 + 英語 III 2 単位 = 6 単位)

以上が履修方法の参考例ですが, 理学部の場合必修 6 単位の他に教養科目選択履修として外国語科目 2 単位を加えた 8 単位の履修が望ましい外国語科目の履修方法としています。あなたの場合学科がわかりませんが, 数理科学科①及び自然機能科学科及び地球環境科学科①とした場合は必修単位数は取得したといえますね。

Q : 2 年次になると, 工学部の学生は (身体活動の) ゴルフの授業は取れないのですか。もし取れないとしたら, 1 年次にゴルフを取った僕は納得が行かないのですが。(工学部 1 年次)

A : 健康・スポーツ科目の必修単位数は, 授業科目名「身体活動」の中から, 1 年次に 1 種目 1 単位, 2 年次に 1 種目 1 単位 (すでに取得した単位とは異なった種目) を取得することになっており, あなたの場合 1 年次にゴルフを取得済みですので 2 年次ではゴルフ以外の日立地区で開講される健康・スポーツ科目の授業の中から履修してください。

なお, 参考までに平成 10 年度は, 授業科目名「スポーツ実技 (選択)」としてゴルフの集中講義が開講される予定です。詳細については, 平成 10 年度始めに配布される教養科目シラバスを参照して下さい。

Q: ① 「情報」の科目は自由履修の10単位に入るのですか？

前学期と集中講義で「情報」の科目を取ったのですが。

また、「情報」の科目が自由履修になるのは、何単位という制限があるのですか？

② 前学期で「健康・スポーツ」の科目を取り、集中でも「健康・スポーツ」を取ったのですが、この単位（集中）は自由履修の中に含まれるのですか？

それとも「健康・スポーツ」の科目の中に含まれるのですか？（でも1年次・2年次でそれぞれ2単位取らないといけませんよね）また、どちらにも入れられないのですか？

そして、もし、自由履修に入れられるのなら、「健康・スポーツ」科目は何単位までOKですか。

（人文学部 1年次）

A: 質問①について：人文学部人文学科平成9年度入学生の場合、教養科目選択履修が10単位まで認められていますので、あなたの取得した「情報処理概論（集中）」2単位はこの単位の中に算入されます。

質問②について：健康スポーツ科目の必修単位数は、授業科目名「身体活動」の中から、1年次に1種目1単位、2年次に1種目1単位を取得することになっており、授業科目名「スポーツ実技（選択）」を取得した場合は必修の単位とはなりませんので注意して下さい。

授業科目名「スポーツ実技（選択）」を取得した場合は、上記の質問①と同様に教養科目選択履修の単位として算入されます。ただし、「スポーツ実技（選択）」に算入できる単位数は、2種目2単位までとなりますので注意して下さい。以上が回答ですが、教養科目選択履修の望ましい履修方法は、幅広くいろいろな分野から選択し履修することですので、あまり科目に集中することなく履修して下さい。

Q: 90分授業は長すぎやしないか？筑波大のような75分授業の方がムダが少なくて良いのでは。また、始業時間（8時50分）が早すぎ。昼休み（40分）が短すぎないか。

（人文学部 4年次）

A: 90分授業時間が長いかどうかについては、永年茨大ではこれで実施してきておりますので……。一方昼休みの件については、たしかにあわただしいのは理解できます。この方式になってまだ2年目であり、もう少し様子をみてはと思いますが、いかがですか。

V o i c e — 試験の鉄人 (達人) —

薄井あい子 (教育学部 3 年)

大学は自己再発見の場だと思う。高校までと違って時間もたっぷりあるし時間割も興味・関心に合わせて自分で作ることができる。特に教養科目は魅力的なものがたくさんあると思う。専門分野の深い追求も大切だと思うが、それ以前に幅広い知識と考え方を身に付けることができるというのではないだろうか。大学では自分から動かなければ何も始まらないし、何も変わらない。様々な分野の様々な話 (講義) を単に受け身で聴くのではなく、それから感じた疑問や好奇心から自分で行動を起こすこと (考える、悩む、語り合う、調べるなど) が大学での「学び」だと思う。

そうはいっても現実に試験はあり、やっぱりこの時ばかりは誰もが「そわそわ」するかもしれない。でも大学の試験の多くは高校の時のような解答欄のあるものは少ない。何も書いていない答案用紙に自由に記述していくものが主である。教官によっては資料やノートの持ち込みも可能な場合がある。肝心なことはやはり常日頃から問題意識を持って「話」を聴いておくことなのではないだろうか。

友達と一緒に「何となく」聴く講義があるのもいいが「自分の」知的好奇心を満たしてくれる講義を発掘することは大学でしかできないと思う。「試験なんてどうにかなるさ!」今ある時間を大切に過ごそう!

大沼守正 (理学部 4 年)

いよいよ後期試験が間近に迫ってきました。前期試験で良い結果が出せた人は、今回もその調子で頑張りましょう。また、失敗してしまった人は今度は十分に注意しましょう。特に、通年の科目に関しては後期試験で挽回しなければいけません (特に語学。落としたらもう 1 年やり直しです。これだけは避けたい)。このレターでは、後期試験の心構えをいくつか述べますが、字数の都合上、数学に限らせていただきます。

まず、数学を専門として使う人は、基本的な計算問題の他に論理的な応用問題も充分に対策をたてておかなければいけません。後者は、問題を解く上で定理等をどのように使っていくのかをしっかりと勉強しておくこ

とが必要です。

次に共通・基礎科目として数学を使う人は、授業で扱った基本的な問題や教科書の章末問題等を良く理解しておくことが大事です。

いずれの場合でも、たくさん問題演習することが大切です。そのとき、分からない問題があってもすぐに解答に頼らず、何とか頑張って考えるようにしましょう。どうしてもだめな時は、仕方がないので答えを見て理解して下さい。そのかわり復習は絶対不可欠です。あと、先生が試験の前にヒントを与えてくれたらチャンスです。その部分は、必ずチェックしておきましょう。余裕がない人は、ここをやっておくだけでも随分違うと思います。

永井葉子 (農学部 3 年)

私の場合は入りたい研究室があったので、特にそれに関する授業は熱心に取り組んだ。

まず授業の時にはノートを取り、板書しなかった事もできるだけ書き留めておく。1 時間半の授業を集中して聴いているだけでもかなり頭に入る。よく、授業にでても寝てしまう人がいるが、それはとても無駄だし、もったいない事だと思う。

次に試験前の取り組みだが、先生や先輩に出題傾向やポイントをきき、問題を予想して一度解いてみる。私の場合、この時カリキュラムの同じ人達と一緒に協力して考えた。皆図書館に行って同じ問題に取り組んでいるので、協力した方がいろいろな情報が交換できるし、少しでも楽しんでできるので効果的な試験勉強になる。

もちろん全ての授業に対してこのようにやっていたら時間がないので、私は一つだけでも充分ではないかと思う。何か一つでも真剣に取り組めればいいと思う。大変そうだからといって何もせずに傍観している人よりも、失敗を恐れずにすぐ実行に移せる人の方が、これからの大学生活も充実したものになるだろう。別に勉強だけに限ったことではなく、いろいろな面でこのことは言えるだろう。

何かすること自体あまり問題ではなく、何でも構わないので、今すぐに何かを始めること。そのことで何かが変わるのではないだろうか。

教養教育古今東西

「大学」というものの起源がヨーロッパの中世にあることは、だれしも知っていることでしょう。その時代、「教養 artes liberales」は一つの「学部 facultas」を構成していました。つまり、神学部や法学部や医学部と並んで「教養学部」というものがあつたのです。その具体的な内容は、哲学、修辞学、論理学、語学（ギリシャ、ラテン語）など主として古典の解説にかかわるものでした。しかし、中世から近世、近代へと時代が移り変わる中で、「教養」の地位は下がっていきましました。法学、医学などの古い学問とならんで、自然科学、工学、農学、教育学などの新しい実用的な学問が「専門」の「学部 faculty」としての地位を獲得するのとは対照的に、もとは一つの「学問分野」であつた「教養」は、「専門」に進む前に学ぶ雑多な学識のことであると考えられるようになりました。さらに日本では 90 年代になって、実学を重視する風潮がいつそう強まり、官僚たちの手で骨抜きにされてしまいました。中世から近代にかけてヨーロッパ的な学問体系の基礎をなしていた「教養」をなくしてしまったために、現在の日本の大学は、殆ど専門学校の寄せ集めになってしまいました。

僕は、「教養」的なものは必要だと思います。それは就職に役立つ専門の準備段階としてではなく、底なしに深い知識の海としてです。現代においてそれはプラトン、アリストテレスである必要はないかもしれませんが（しかしそれらも読んでみてください。意外にスゴイと思うでしょう）。中国のものでもインドのものでもメキシコのものでもどこでも構いません。古代のものでも、ごく最近のものでも構いません。地球上でこれまで書かれてきた素晴らしい文章の数々に触れてみてください。就職のための知識ではない、あなたのほんとうにもとめる知識が、そこにはあるかもしれません。

尾中文哉（人文学部）

教養の学生の頃、どのような教養を身につけたか、と人に聞かれた時、僕にはちょっと答えられない。それにはいくつか理由があるが、いちばん大きな理由は僕の中で“教養”の定義がとても曖昧なものであるからである。そういうわけで、僕には“教養教育の現在の意味”について内容のあることは述べられないので、ここでは自分の教養の学生時代のことを少し触れたいと思う。

僕は教養の学生のとき、登録上は月曜から土曜までのほとんどすべての授業を履修していたが、語学と実験、体育以外は半分くらいしか授業に出ていなかった。僕のまわりではそれくらいで平均よりは出席していた方だったと思う。そんなわけで、いわゆる真面目とは言えない学生だったのだが、そんな僕でも語学と実験、体育は年間を通じて一、二回ずつしか休まなかった。それらの科目は出席が重視されていたから、というのが一番の理由なのだが、実験と体育に関してはもう少し違ったものがあつた。それは、他の科目はほとんど講義という形式で教官から多数の学生へのほぼ一方通行のものであつたが、実験と体育は教官や他の学生（特に他学部の学生）と授業に関することから日常のたわいのないことまで、いろいろな話をしたりして交流できたことである。時には、授業の後で教官を誘って何人かの学生で喫茶店へ行って話をしたりもしたし、コンパを開いたりもした。そんな中で、教官の人たちの体験談を聞いて授業の時とはまた違った一面を見たり、他学部の学生たちの考えやもののとらえ方に接したり、新鮮な感じを受けた印象が強く残っている。

安藤 広（理学部）



第5回ローレンシアン大学短期留学記

ローレンシアン大学はカナダのオンタリオ州サドベリという人口10万人程度の町にある小さな大学である。小さいといっても、学部の数や学生数は、茨城大学と大きな差はない。茨城大学との最も大きな違いは、広大なキャンパスを持つことで、その一部は自然保護区域や、大きな湖に隣接している。大学でも最も高い管理棟の屋上に上ると、遮るものもなくローレンシアン台地が地平まで広がっているのが展望できる。

このような立地条件から、この大学の体育学部のプログラムの中で、野外活動は重要な位置を占めている。ボブ・ロジャース教授のもとにそれぞれの野外活動種目に若手の実地面の専門家が配置され、管理、運営、技術などに関する研究が進められている。この大学で野外活動を主体とする茨城大学生の短期留学プログラムがスタートできたのは誠に幸運であった。教養部時代に行なわれた教育研究に関わる画期的ともいえる試みのひとつに、臨時増員された教官の枠を利用して外国人教官の招聘を行ったことがある。保健体育教室ではローレンシアン大学からリチャード・ダニエルソン博士をむかえ入れることが出来たが、その成果は極めて大きいものであった。その一つがこの短期留学制度の確立といえよう。むろん、かつてない、また他の国立大学では類をみない試みであったため、初年度には「事故が起きたらどうするのか」等々のレベルの問題から、成果を危ぶむ声まで多くの問題に対処する必要があった。しかし、当時の教養部のスタッフは竹田部長を筆頭に、発想は柔軟かつ前向きであって、事務局の了解も含めて実現の運びとなった。

以来、隔年ごとに実施され、毎回著しい成果を挙げ、本年で5回目10年間継続の実績を重ねることとなった。私は第1日(1989)に太田茂秋教授とともに学生を引率した。その時の成果は想像をはるかに越えるものであり、このようなプログラムは可能な限り、継続すべきであるとの確信を抱いて帰国した。以降の留学(2-4回)でも、期待に違わない成果が続き、参加した全ての学生にとって、大学生活での最も大きな「出来事」となっていると確信している。

第5回目の今回は教養部がなくなってからはじめての留学であり、運営作業を行ってきた旧教養部の保健体育教室のスタッフは教育学部保健体育講座に移籍し

た。そこで新しい組織の中で10年前と同様の事務手続き上の問題整理が必要であったが、大方の理解を得て、新たな出発をすることができた。さて本年は参加学生は1-2年生の21名で全学部の学生に及んでいる。トロント1泊の後、大学の寮に落ち着き、最初の数日はキャンパスを見て廻ったり、近くの科学博物館の見学など、新しい生活に慣れるための緩やかなプログラムが進行する。それでも現実には、全く異なった環境の中に置かれることで、学生は高揚した気分になるようである。4日目から12日間、野外活動プログラムが行なわれる。その内容は主にロッククライミング、ウインドサーフィン、カヤック、カヌー、キャンプ、乗馬である。それぞれの種目は資格をもった専門のスタッフが直接の指導にあたり、ボブ・ロジャース教授と引率の服部、田中教官が総括指導の体制をとる。また学生の全ての活動にわたって気を配り、プログラムの円滑化と一貫化に重要な役割を果たすプログラムオーガナイザーの役割は甚大である。とりわけ、前回に引き続き担当したMichael Siposは有能で、全学生が絶対的な信頼を寄せていた。指導は内容的にも量的にもかなり充実したもので、起床(7時)から夕食(5時)までほとんど自由時間はない。夕食後も講義、泳力調査、ビーチでの交流・レクリエーション、キャンプ準備、市街地散策体験など多くの計画があり、学生は忙しい毎日をおくることになる。やや忙しすぎるようでもあり、今後工夫改善されるだろう。この間の2泊3日にわたって参加者は2-3人の組でホームステイを体験する。この企画は、学生の評価も高く、ホストファミリーと親密な関係が築かれるようで、過去の留学で個人的な交流に発展した例も少なくない。



ロッククライミングをする学生

サドベリでの最終日（8月15日）には、Farewell Partyが催される。毎回学長が参加され、学生一人一人に立派な修了証を手渡しされるが、今回は出張のため出席されなかった。感無量のPartyも学生のユーモアに富んだ出し物が効を奏して明るく和やかに進行する。翌朝は指導のスタッフやホストファミリーなど大勢の関係の方々に見送られてローレンシアン大学を後にするが、別れの時に感動を素直に表現する学生の姿は、水戸のキャンパスの中では決して想像することが出来ないものである。その日はトロントに泊り、翌日一日だけナイアガラ観光に出かけ、翌朝は成田へと向かう。

学生は、留学前から役割分担し、しおりを作成したり、常備薬を調えるなど様々な準備をし、またカナダでも、それぞれの役割を果たす。記録係は収集した資料を帰国後に整理し、記録集を完成させる。貴重な留学の機会を十二分に、将来にわたって活かすためのノウハウは、過去の実績を通して培われている。今年も終わりに近づいた今もなお、参加学生は必要に応じて



ホストファミリーとのバーベキューパーティ

自主的に会合し、ある意味では「留学」は継続しているともいえる。この「留学」の全過程をみると、他に例のない、まさにそう呼ぶにふさわしい「総合科目」の一つの類型が見えてくる。可能な限り、このプログラムが継続されることを期待して止まない。

服部恒明（教育学部）

マギル大学夏期英語集中講座に参加して

去る8月15日～9月22日、私は人文学部コミュニケーション学科主催のマギル大学夏期集中英語講座に参加した。参加を決めた当初は、初めての企画ということで多少の不安もあったが、実際に参加してみると、海外での共同生活という貴重な体験を得たほか、恵まれた環境のもとで勉強に娯楽にフル活動の充実した日々を送ることができ、満足感でいっぱいである。

マギル大学は、文化都市モントリオールのダウンタウンに位置する名門大学で、フランス語圏にある英語系の大学であるため、第二外国語としての英語教育には長い伝統と実績をもっている。授業は、日常で起こりうる場面を想定したロールプレイで始まる。慣れてくると、犯罪問題や安楽死など種々のトピックについてのディスカッションを行う。授業はクラス内にとどまらず、学生の希望に応じて映画鑑賞に出かけたりする。週の山場は金曜日のプレゼンテーションで、テストも兼ねているため決してあなどれない。この時ばかりはクラスも緊張感に包まれる。しかし、プレゼンテーションが無事修了した後は楽しい市内散策の時間が待っている。先生に連れられてギリシア料理店でランチをとったり、美術館や地元テレビ局を訪れたりする中で、生の異文化に触れ



る機会が得られる。週末にはケベックやオタワなどの他都市へのツアーに参加したり、市内のテーマパークに行ったりして余暇を思う存分満喫し、勉強の疲れを癒して次週に備える。こうして一週間が終わる。

語学習得の近道は、その言語圏で生活することだと言われるが、その通りだと思う。海外研修のメリットの一つは、授業で習得したことを即、現実の生活の場で実践できることだ。ただし海外研修に参加するに当たっては、なぜ語学を学ぶのかという目的意識をはっきりさせておくことが大事である。今後もより多くの人がこの講座に参加し、生きた英語を学ぶとともにすばらしい異文化にじかに触れる機会を共有してほしいと思う。

鈴木恵美子（人文学部2年）

掲 示 板 コ ー ナ ー

情報関連科目テキスト刊行

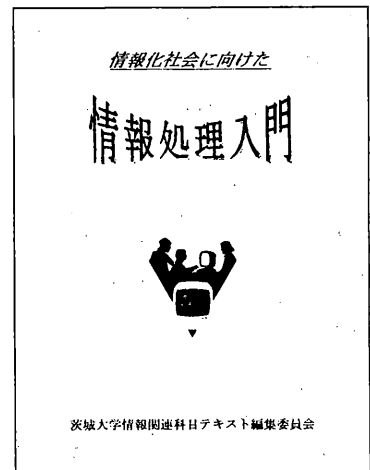
生協で発売されている「情報処理入門」は、主として水戸地区の情報関連科目のテキストとして今年度使われています。昨年度設置された共通教育棟の情報処理演習室で使用するよう編集されていますが、水戸地区の Windows95 を OS とするパソコンを利用する場合にも役立つ内容になっています。各学部の専門の授業でも使用されています。

内容はまず最初に Windows95 の基本操作の学習、続いて日本語ワープロのワード、表計算のエクセルが分かり易く説明されています。更にネットワークの利用として電子メール、電子ニュース、WWW ブラウザ

による情報検索の方法が解説され、続いて簡単なホームページの作成について書かれています。最後にプログラムの基礎として BASIC, FORTRAN の初歩が説明されています。

更に、付録にキー入力練習が載せてあり

ます。なお、来年度は、改訂版が培風館から発売になる予定です。来年度も是非ご利用下さい。(寺阪利孝)



『総合科目の充実を目指して』刊行される

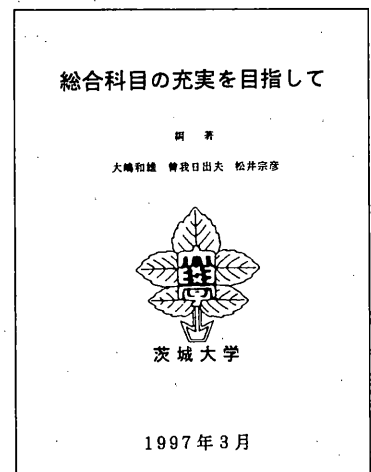
総合科目の責任部局である教育学部（当該責任教室は総合教育教室）と総合科目専門部会は、平成8年度大学改革推進費（教養教育部門）の配分を得たのに呼応して、点検評価のための報告書の作成に取り組みました。この報告書のねらいは、①茨城大学におけるカリキュラム改革の一環として教養教育の充実発展を目指す、②教養教育の充実発展の方向を総合科目が率先して進めていく、③分野別科目がどちらかといえば専門基礎科目的な性格をもつものに対して、総合科目は総合的・学際的な視野のもとに諸科学を横断したテーマや市民教養的な話題をカリキュラムに編成することによって、専門学部の授業では得られない新しいタイプのリベラルアーツの方向を志向する、④改革推進費によって整備された「授業マネジメント・システム」を活用して授業を展開するとともに、総合科目の点検評価のためのデータ解析を行う——ことにありました。

181 頁からなる報告書『総合科目の充実を目指して』においては、「総合科目の新しい展開」と題して、総合科目の教育理念とカリキュラム構成、平成8年度の

特別企画、市民教養的総合科目についての点検が記載されています。また学長・学部長による特別企画『研究する喜び』の点検結果が集約されています。

総合科目における新しい試みは、一般市民と学生と教官が

一体になって創造する市民教養的総合科目です。まだまだ今後の検討を要する部分もありますが、非常に多くの受講生を得て、一回りも二回りも大きく成長させていきたい楽しい授業です。この授業のシラバスと授業概要をテープ起こしをして記載しました。大学図書館でもこの報告書は閲覧できるように置いてありますので、ぜひ一度、手にとってご覧いただきたいと思います。(松井宗彦)



放送大学茨城地域学習センターだより

茨城大学のご尽力により、当センターが設置され、10月1日から第一期生を受け入れて、はや数か月が経過しました。第一期入学生は、約280名、県内各地から履修生を受け入れています。開設当初はセンターの職員一同、慣れない仕事で色々戸惑うこともありましたが、現在は、全職員の協力によってセンターの運営は順調に進んでいます。

放送大学の学生は殆どが社会人ですが、退社後や休み時間を利用して、必ずといってもよいくらい毎日学習にくる人や、ご夫婦で交互に子供さんのお守をしつつ学習されている方もいます。毎日、こういった学習風景を見ていると、このセンターが地域の生涯学習に、それなりの寄与をしているところが実感される次第です。

ところで、放送大学では、来年の1月21日から、衛星放送を通じて全国に授業科目を放送することにな

りました。ただし、CSデジタル放送(perfecTV!)ですから、チューナーとアンテナを各自、用意して頂く必要があります。これが実現すると家庭にいながら学習できることになって、“どこでも学習”が可能になるわけです。

もう一つ、全国の地域学習センターでは、来年の二学期(10月1日)から全科生の受け入れが始まります。高校・短大などを卒業された方が、放送大学の全科生として入学し、放送大学で所定の単位を修得すれば、大学卒業の資格(教養学士)が得られるわけです。

茨城県下でも大学、短大などでは放送大学との単位互換の話しが進められています。近い将来、茨城大学との単位互換も実現されることを願っております。最後に全科生の受け入れに伴って、当センターの充実など問題はまだまだ山積していますが、今後とも茨城大学のご援助とご協力を切にお願い申し上げる次第です。

(栗村芳實)

茨城大学スペース・コラボレーション・システム(SCS)事業について

スペース・コラボレーション・システム(以下、SCS)事業とは、全国の大学等に衛星通信による映像交換を中心とした大学間ネットワークを構築し、マルチメディア社会に対応できる高等教育システムを整備していくものであり、今後全国国立大学等及び公私立大学の参加を得てネットワークの拡大を図り、大学間教育及び研究交流の充実に寄与するものです(メディ

ア教育開発センター資料より)。

茨城大学では、平成7年度にSCSに関するワーキンググループを学内に設けて調査研究を開始し、平成8年度には、SCS事業実施委員会をおいて設置・利用に向けて具体的な検討を開始しました。そして、平成9年10月1日から共通教育棟2号館4階衛星スタジオから利用できるようになりました。今後シンポジウムや会議、授業等今までにないメディアとしてその利用が期待されます。大いにご利用下さい。

(本田敏明)

つ ぶ や き

みなさん! あけましておめでとうございます!! お正月は楽しく過ごせましたか。今年度もみなさんにとって充実した年となるようにがんばりましょう。早速ですが年が明けたら恐怖の学年末試験が待っています。でもご安心下さい! ローザ・ブルムラ第7号では「試験の達人」と題して、みなさんの先輩方から学年末試験対策に関する知恵を拝借しました。是非参考にして下さい。本号は、そのほかに教養教育シンポジウム、海外での課外授業風景、教養教育テキスト、放送大学、スペース・コラボレーション・システム、教養教育Q&A(新企画!)と、盛りだくさんの内容となっております。どの記事も興味深い内容ですので是非目をとおしてみてください。というわけで、今年も「読みやすい、おもしろい、役に立つ」ローザ・ブルムラを目指していきたいと思います。みなさんのご愛読をお願いいたします。

(S. N)

発行日 平成10年1月
 発行者 茨城大学 大学教育研究開発センター
 水戸市文京2-1-1
 029(228)8416〔企画室教養教育係〕

平成13年度大学教育研究開発センター活動内容

平賀紅雲主人學問堂刊行 一巻一冊 内容詳見

平成13年度 大学教育研究開発センター活動内容

大学教育研究開発センター活動の経過

月 日	事 項	備 考
13. 4. 26 (木)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会 (第1回) ・平成13年度非常勤講師 (センター保留分) 時間配分について ・大学以外の教育施設等における学修及び入学前の既修得単位等認定に関する細則の申合せについて ・大学以外の教育施設等における学修及び入学前の既修得単位等の認定について	
13. 5. 23 (木)	第37回12大学教養教育実施組織代表者会議・事務協議会 ・教養教育に対する外部評価の導入について ・教養教育における教員人事について ・教養教育における教員の教育業績評価について	主催：佐賀大学
13. 5. 24 (木) ～25 (金)	平成13年度全国国立大学教養教育実施組織代表者会議及び事務協議会 ・大学評価機構による大学 (教養教育) 評価について ・全国国立大学教養教育実施組織代表者会議及国立大学教養教育担当組織協議会の両組織連携後の会議名称及び連携後の在り方について	主催：九州大学
13. 6. 14 (木)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会 (第2回) ・平成14年度教養教育基本計画について ・推奨授業表彰制度について ・平成13年度大学教育研究開発センター予算について ・平成14年度非常勤講師時間の配分について	
13. 7. 12 (木)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会 (第3回) ・平成14年度教養教育基本計画について ・情報関連科目及び健康・スポーツ科目の履修基準の変更について ・平成13年度前期授業アンケートの実施について ・平成14年度授業の実施に向けて ・平成13年度大学教育研究開発センター予算について ・留学生センター教官の外国語専門部会への参加について ・教養教育の改革について ・JABEEについて	
13. 9. 11 (木)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会 (第4回) ・平成14年度教養教育実施計画について ・平成14年度教養科目授業の対応 (履修案内・シラバス) について ・将来構想委員会教養教育等分科会について ・平成13年度学長裁量経費について	

月 日	事 項	備 考
13. 10. 18 (木)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会（第5回） ・平成14年度教養科目履修案内について ・平成14年度教養科目シラバスについて ・平成14年度学年暦及び新入生オリエンテーション日程について ・習熟度別英語教育プロジェクトについて ・推奨授業表彰制度の運用について ・将来構想委員会教養教育等分科会について	
13. 11. 15 (木)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会（第6回） ・学生就職支援センター設置に伴う共通教育棟教室の貸与について ・3大学単位互換科目の選定について ・英語及びそれ以外の科目の習熟度別クラス編成とカリキュラムの検討について ・教養教育における高校との接続教育の実施方策について ・大学教育研究開発センターにおける専任教員定員の設定について ・担当可能教養科目の登録の問題点と改善方策について ・水戸地区大型改修後の共通教育棟の再開発について ・将来構想委員会教養教育等分科会について	
13. 12. 10 (月)	平成13年度教養教育シンポジウム パネル討論会 第一部 『地域発信型大学における教養教育システムについて』 進 行：阿久津克巳茨城大学大学教育研究開発センター副センター長 総合司会：田切美智雄茨城大学大学教育研究開発センター長 パネリスト：中田 吉郎（群馬大学教授） 渡邊 直樹（宇都宮大学教授） 工藤 孝幾（福島大学全学教育主管） 奥 達雄（放送大学茨城学習センター長） 曾我日出夫（茨城大学大学教育研究開発センター副センター長）	会場：ホテル 「クリスタルパレス」
13. 12. 11 (火)	パネル討論会 第二部 『進化型教養教育システム創成の試み』 進 行：阿久津克巳茨城大学大学教育研究開発センター副センター長 総合司会：菊池龍三郎茨城大学教育学部長 パネリスト：岡崎 賢治（茨城県日立第一高等学校教諭） 大塚 真澄（茨城高等学校教諭） 米川 征（水戸駿優予備校講師） 武井 秀一（茨城県教育庁高等教育課指導主事）	
13. 12. 11 (火)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会（第7回） ・英語及びそれ以外の科目の習熟度クラス編成とカリキュラムの検討について ・教養教育における高校との接続教育の実施方策について ・成績評価基準の設定について ・推奨授業の推薦について ・授業アンケート結果について ・大学以外の教育施設等における単位の認定について ・将来構想委員会教養教育等分科会について	

月 日	事 項	備 考
14. 1. 24 (木)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会 (第8回) ・平成15年度バンド制の見直しについて ・平成15年度学年暦の編成方針について ・平成15年度基本方針の策定について ・外国語専門部会の改革について ・平成13年度後期授業アンケートの実施について ・将来構想委員会教養教育等分科会について	
14. 2. 28 (木)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会 (第9回) ・平成14年度教養教育ガイダンス実施要領について ・平成14年度教養教育に関する運営費 (案) について ・平成15年度教養教育基本方針 (案) について ・育児休業に伴う非常勤講師時間の使用について ・共通教育棟教官研究室の借用について ・茨城大学で開講される教養科目の公開講座化について	
14. 3. 18 (月)	大学教育研究開発センター運営委員会拡大委員会 (第10回) ・平成14年度教養教育ガイダンス実施要領について ・平成14年度教養教育に関する運営費 (案) について ・平成15年度教養教育基本方針 (案) について ・平成13年度教養教育実施結果報告書について ・平成13年度前期推奨授業について ・共通教育棟教官研究室の借用について	

大学教育研究開発センター関係委員名簿

【運営委員会委員】

- ◎ センター長 田 切 美智雄 (理 学 部)
- 副センター長 曾 我 日出夫 (教育学部)
- 副センター長 阿久津 克 己 (農 学 部)

区分	人文学部	教育学部	理 学 部	工 学 部	農 学 部
学部選出 併任教官	笹 倉 貞 夫	小野寺 淳	西 原 美 一	小 柳 武 和 堀 井 龍 夫	足 立 吉 數
学 部 教務委員長	佐 藤 和 夫	山 根 爽 一	森 野 浩	横 山 功 一	白 井 誠

【実施調整部教養科目専門部会委員】

- ◎ 実施調整部長 曾 我 日出夫

部 会 名	責任部局選出 併任教官	学 部 選 出 専 門 部 会 委 員					
		人文学部	教育学部	理 学 部	工 学 部	農 学 部	留学生センター
外国語科目	※岸本 典子	糟谷 政和	庄司 信	藤原 高德	増澤 徹	中曾根英雄	石橋 玲子
健康・スポーツ科目	※加藤 敏弘	伊藤 哲司	勝本 真	仁木 雄三	周 立波	小松崎将一	
情報関連科目	※鶴田 浩一	佐藤 英一	野崎 英明	長谷部文雄	鎌田 賢	中村耕二郎	
人 文 科 目	※渡邊 邦夫	渋谷 浩一	向野 康江	竹内 譲	栗原 和美	西原 宏史	
社 会 科 目	※齋藤 典生	清山 玲	大槻 功	野口 高明	矢内 浩文	安藤 光義	
自 然 科 目	※井村 久則	青木 研二	海津 聡	渡邊 辰矢	小澤 哲	太田 寛行	
総 合 科 目	※松井 宗彦	田中 重博	戸塚 茂則	山村 靖夫	五十嵐淑郎	中島 広美	

(注) ※印は、当該専門部会の部会長を示す。

【研究開発部専門部会委員】

- ◎ 研究開発部長 阿久津 克 己

人文学部	教育学部	理 学 部	工 学 部	農 学 部
笹 倉 貞 夫	小野寺 淳	西 原 美 一	小 柳 武 和 堀 井 龍 夫	足 立 吉 數

平成13年度 大学教育研究開発センター年報 編集委員

笹 倉 貞 夫 (人文学部・併任教官)
小野寺 淳 (教育学部・併任教官)
堀 井 龍 夫 (工 学 部・併任教官)
田 切 美智雄 (理 学 部・センター長)
曾 我 日出夫 (教育学部・副センター長)
○阿久津 克 己 (農 学 部・副センター長)
○印 委員長を示す

発刊年・月	2002年3月
発 刊	茨城大学大学教育研究開発センター
住 所	〒310-8512 水戸市文京2-1-1
電 話	029-228-8414
F A X	029-228-8499
印 刷 所	いばらき印刷株式会社

Annual Review of
the Center for Research and Development
in University Education

No.6

Contents

Foreword.....	1
Papers and Short Papers on General Education.....	3 ~29
Evaluation Paper on General Education.....	31~40
The Tracks of the News Letter “Research”.....	41~106
Activities in 2001.....	107~110

2002 · March

IBARAKI UNIVERSITY

Center for Research and Development in University Education